

第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對  
抗スルコトヲ得ス

理事ノ代理  
權ニ加ヘタル  
制限ノ效力

(第四百十三條) 本條ハ理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ノ第三者ニ對スル效力如何ヲ規定スルモ  
ノナリ  
前條ノ規定ニ依レハ理事ハ法律ノ通則上法人ノ事務ニ付キ總括代理權ヲ有スト雖トモ定款又ハ  
寄附行為若クハ總會決議ニ反スルコトヲ得サルナリ故ニ理事ノ代理權ハ此等ニヨリテ制限セラ  
ルコトアルナリ例ヘハ或ル事項ニ付テ理事ノ獨斷執行ヲ禁止シ又ハ豫メ特別ノ方式ヲ履ム(例  
ヘハ總會ノ認許)ヲ要スト定メタル場合ノ如シ如此理事ノ代理權ニ制限ヲ附シタル場合ニ於テ  
ハ理事ニ對シテ此制限ノ效力アルコト勿論ニシテ理事ハ必ラス之ヲ確守スルノ義務アリト雖ト  
モ此制限アルコトヲ知ラザリシ第三者(即チ法人以外ノ人)ニ對シテモ亦其效力ヲ致サシムル  
ヲ得ルモノトセハ其第三者ハ意外ノ損害ヲ蒙リ從テ理事ノ總括代理權ヲ表明スル前條第一項ノ  
規定ハ世人ヲシテ理事ノ權限ヲ誤信セシムル媒介タルニ至ルヘシ故ニ此弊ヲ避ケントセハ理事  
ノ代理權ニ附シタル制限ハ其制限アルコトヲ知ラサル第三者ニハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得サ  
ルモノトナササル可カラス是レ本條ノ規定アル所以ニシテ此ニ所謂善意トハ即チ理事ノ代理權  
ノ制限ヲ知ラサルノ意ニ外ナラス又所謂對抗スルコトヲ得ストノ意ハ前第四十五條第二項及第  
四十六條末項ノ説明中ニ明ナレハ爰ニ之ヲ贅セス只タ注意ノ爲メ一例ヲ舉ゲテ其ノ適用ヲ示サ  
得ルモノトス

法人ノ復代

ン例ヘハ總會ノ決議ニヨリ理事ハ法人ノ銀行預金ヲ一己ノ意見ニヨリ引出スコトヲ禁セラ  
レタリ然ルニ此預金銀行ハ理事一己ノ請求ニ任セ預金ノ拂戻ヲ爲シタリ今若シ右銀行ニ於テ該  
總會決議アリタルコトヲ知ラサルニ於テハ法人ハ其預金拂戻ノ效ヲ爭フコトヲ得サルナリ  
夫レ如此理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ善意ノ第三者ニ對シテハ其效ナシト雖トモ惡意即チ其  
制限ノ存スルコトヲ知リタル第三者ニ對シテハ其效ヲ致サシムルコトヲ得ルヤ勿論ナリ故ニ此  
場合ニ於テハ法人ハ理事カ其制限外ニ逸シテ爲シタル第三者トノ取引ノ無效ヲ主張スルコトヲ  
得ルモノトス

第五十五條 理事ハ定款 寄附行為又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレ  
サルトキニ限り特定ノ行為ノ代理人ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

(第四百十四條) 本條ハ理事ノ復代理人任命ノ事ニ關スル規定ナリ

夫レ理事ハ法人ノ法定代理人ナルコト前第五十三條ニ於テ説述シタルカ如シ今一般代理ニ關ス  
ル法規ニヨレハ法定代理人ハ自己ノ責任ヲ以テ隨意ニ複代理人ヲ任命スルコトヲ得ルナリ(後  
ノ第六六條參看)之ヲ詳言スレハ法定代理ハ自己ノ責任ヲ以テ自己ノ代理權ノ全部又ハ一部(包  
括的ノ意)若クハ代理權内ニアル特定行為ノ實行ニ代キ他人(之レ即チ復代理人ナリ)ヲシテ  
代ハラシムルコトヲ得ルナリ(復代理人ノ法律上ノ地位如何ニ付テハ後ノ第七七條ヲ看ルヘシ)  
此規定ハ之ヲ法人ノ理事ニ適用スヘキカ是レ即チ本條ニヨリテ決セラルヘキ問題ナリトス

本條ニヨレハ理事ハ一般法定代理人ト同シク復代理人ヲ任命シテ自己ノ代理權ノ實行ニ當ラシムルヲ得ルヲ以テ原則トス蓋シ理事カ病氣其他ノ故障等ニヨリ自カラ代理權ヲ實行スルコト能ハサル事情アル場合ニ於テハ他人ヲシテ自己ニ代ラシムルコトヲ得ルヲ以テ便宜トスレハナリ然レトモ理事ハ一般法定代理人ノ如ク其代理權ノ全部又ハ一部ヲ包括的ニ復代理人ニ委スルコトヲ得スシテ只タ特定行為ニ付テノミ之ヲ任スルコトヲ得ルノミ是レ理事カ法人ノ事務ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ放任スルニ至ルノ弊ヲ防キ以テ法人ノ事業ノ發達ヲ計ラントスルノ本旨ニ出タルモノナリ

右ノ如ク理事ハ法律ノ通則上ニ於テハ特定行為ノ代理ヲ他人ニ委スルコトヲ得ルト雖トモ若シ定款寄附行為又ハ總會ノ決議ニヨリ之ヲ禁セラレタルトキハ固トヨリ之ニ從ハサル可カラス是レ本條ノ特ニ明示スル所ナリト雖トモ法ノ明文ヲ俟テ後テ知サルナリ此ノ如キ禁止モ亦理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ナルヲ以テ前條ノ支配ヲ受クヘキヤ明ナリ又本條ニヨリ復代理人ヲ任命シタル場合ニ於テ其復代理人ノ行為ニ付キ理事モ亦責任スヘキヤ否、復代理人ノ爲シタル行為ノ結果如何其他復代理人ノ法人ニ對スル關係如何等ハ後ノ第六六條及ヒ第七七條ニヨリテ決スルモノトス

第五十六條

理事ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス

假理事ニ關スル規定

(第四百四十五條) 本條ハ假理事ニ關スル規定ナリ

法人ノ常置代理人タル理事カ死亡解任辭任等ノ事由ニヨリテ缺クルニ至リタルトキ(理事ノ全缺又ハ數人ノ理事中缺員ヲ生シタルトキヲ併稱ス)ハ其後任者ヲ選定セサル可カラサルヤ固トヨリ明ナリ而シテ其選定ノ方法手續等ハ定款若クハ寄附行為ニ依リテ定マルナリ(前第三十七條、第三十九條、第四十條參照)故ニ此方法手續ニヨリテ後任理事ノ定マルニ至ル迄ハ多少ノ時日ヲ要スルヤ明ナリ然ルニ其間全ク法人ノ事務ヲ執ル者ナク又ハ殘存セル理事ノミニテハ處決スルコト能ハサル事項ヲ生スルトキハ法人ハ勿論法人ト取引關係ヲ有スル利害關係人モ亦往往損害ヲ蒙リ且ツ公益ヲ害スルノ虞レナシトセス(例ヘハ法人カ他人ニ對シ又ハ他人カ法人ニ對シ一定ノ期間ニ爲スヘキ行為アルモ理事ノ缺クルカ爲メ之ヲ爲スコト能ハサルトキハ法人及ヒ他人ニ損害ヲ生スルコトアルカ如ク又理事ヲ缺クカ爲メ法人ノ財産管理カ放棄セララルトキハ公益ニ害アルカ如シ)如此理事ノ缺ケタル場合ニ於テ後任理事ノ選任ヲ俟ツトキハ損害ヲ生スル虞レアルトキハ一時假理事ヲ任シテ理事ノ權限ヲ行ハシムルヲ以テ便宜トナス是レ本條ノ規定アル所以ナリ而シテ此假理事選任ノ手續ハ本條ヲ讀下シテ自カラ明ナルヲ以テ爰ニ贅セス

第五十七條

法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

(第四百四十六條) 本條ハ法人ノ特別代理人ニ關スル規定ナリ

法人ハ獨立ノ主體ニシテ理事ハ其代理人ナリ故ニ代理權ノ實行上ヨリシテ兩者間ニ於テ權利義務ヲ生シ兩者ノ利益ノ衝突ヲ來スコトアルハ當然ナリ例ヘハ理事其過失ニヨリ法人ニ蒙ラシメタル損害ヲ賠償スヘキカ如ク又法人ハ理事カ代理權ノ實行ニ付キ自カラ支出シタル費用其他ノ立換金等ヲ辨償スヘキカ如シ此ノ如ク代理權ノ實行上ヨリ法人ト理事トノ間ニ利益ノ衝突ヲ生スルコトアルノミナラス尙ホ兩者間ニ於テ買賣契約ヲ取結ハントスルカ如キ兩者ノ利益相反スル場合ヲ生スルコト屢々之レアリ

右ノ如ク法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テモ尙ホ理事ハ法人ニ代リテ之レヲ處理スルコトヲ得ルモノトセハ普通ノ事情トシテ自己ノ利益ニ偏シテ法人ノ利益ヲ顧ミサルノ弊アリ縱令ヒ理事ニ於テ公平無私ノ處置ヲ爲ストスルモ少クモ偏頗ノ嫌疑ヲ招クハ數ノ免カレサル所ナリ故ニ本條ハ斷然如此場合ニ於テハ理事ハ其事項ニ限リ法人ヲ代理スルノ權ナキモノトナセリ(其他ノ事項ニ付テハ依然トシテ代理權ヲ有スルコト勿論ナリ)

以上ノ規定ニヨリ理事ニ代理權ナキ事項ヲ生スルトキハ之レニ關シ法人ヲ代表シテ其利益ヲ保護スル者ヲ必要トスルヤ多辯ヲ要セスシテ明ナリ故ニ本條ハ如此場合ニ於テハ特別代理人(即チ當該事項ノミニ付テノ代理人)ヲ選任スヘキモノトナセリ而シテ其選任ノ手續ハ假理事ニ於ケルト同シク利害關係人又ハ檢事ノ請求ニヨリ裁判所之ヲ任命スルモノトナセリ

(第四百四十七條) 人或ハ曰ハン本條前段ノ規定即チ法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テ理

本條ハ第百八條ト重複セス

事ニ代理權ナキ旨ノ規定ハ後チノ第百八條ト重複スルノ嫌ナキニアラスト蓋シ此說ハ同第百八條ニ何人ト雖トモ同一ノ法律行為ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲ルコトヲ得スト云ヘルヲ以テ本條前段ノ趣意ハ當然此規定ニヨリテ明瞭ナリトナシ從テ本條前段ハ無用ノ徒法ニ屬スト云フニアルナリ此說ハ一見正當ナルカ如ク雖トモ未タ以テ至論ト云フヲ得ス其理由ハ法人ト理事トノ利益相反スルコトハ此兩者間ニ法律行為ヲ爲サントスル場合ニ於テ固トヨリ之ヲ見ルト雖トモ獨リ此場合ノミニ限ラサルナリ例ヘハ理事カ法人ノ保證入ナル場合ニ於テ自己ノ保證責任ヲ免カレンカ爲メ法人ト債權者トノ間ニ更改其他ノ法律行為(法人ニ取リテ不利ナルモノト假定ス)ヲサントスルトキノ如キハ法人ト理事トノ間ニ於テ法律行為ヲ爲スニハアラスト雖トモ兩者ノ利益相反スルハ理ノ見易キ所ナリ是ヲ以テ本條ニヨリ理事カ代理權ヲ有セサル場合ハ右第百八條ニ依ルヨリモ一層廣汎ナルコトヲ知ルヘシ果シテ然ラハ何ソ本條ト第百八條トヲ以テ重複ノ規定ナリト云フヲ得ンヤ

第五十八條 法人ニハ定款、寄附行為又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得

第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ

一 法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト

法人ノ監事

監事ノ職務

(第百四十八條) 此兩條ハ法人ノ監事ニ關スル規定ナリ講述ノ便宜上先ツ第五十九條ニヨリ監事ノ職務ヲ究メン

第五十九條ニヨレハ所謂監事ナル者ノ職務ハ(一)法人ノ財産狀況ノ監査(二)理事ノ業務執行ノ監査(三)右(一)及(二)ノ監査ニヨリ發見シタル不整ノ廉ヲ總會(社團法人ニ在リテ然リ)又ハ主務官廳(財團法人ニアリテ然リ)ニ報告スルコト(四)右報告ノ爲メニスル總會ノ招集ニアリ依是觀之監事ナル者ハ法人ノ法律的行動上ニ於ケル代表機關ニ非ラスシテ其財産及ヒ業務ニ付テノ監査機關ナリ而シテ其職務ハ檢査行爲又ヒ檢査結果ノ報告ニ限ルモノナルヲ以テ不整ノ事項アル場合ニ於ケル整理處分即チ善後策ノ決定ハ其權限内ニアラス此ハ却テ總會又ハ主務官廳ノ任ニ屬スルモノトス

監事ノ職務夫レ此ノ如シ故ニ若シ監事ニシテ其職務ヲ怠ルトキハ爲メニ生シタル法人ノ損害ヲ賠償スルノ責アリ又其任務ヲ解カルルコトアル等ハ勿論ニシテ其他尙ホ後チノ第八十四條ニヨリ

監事ハ強要的機關ニアラス

過料ノ制裁ヲ蒙ルモノトス

(第百四十九條) 右ノ如キ職務ヲ有スル監事ハ多クノ法人ニ於テ之ヲ必要トスルナルヘシ何トナレハ社團法人ニ在リテハ社員ハ常ニ理事ヲ信任スル餘其監査ヲ爲スコトヲ怠リ社團法人ニ在リテハ此任ニ當ルヘキ者ニ乏シケレハナリ然リト雖トモ法人ノ目的及ヒ業務ノ狭少ナル場合ニ於テハ右ノ如キ監査機關ヲ特設スルノ必要ナキモノアリ是ヲ以テ第五十八條ハ監事ヲ置クヤ否ヤ及ヒ其員數ハ各法人ノ便宜ニ任セ定款若クハ寄附行爲又ハ總會決議ノ定ムル所ニヨルモノトナセリ(是レ即チ法律ノ通則タルニ過キザレハ或ル法人ニ付テハ必ス監事ヲ置クヲ要スル旨ノ特別規定アルヲ妨ケサルナリ)然リ而シテ若シ一旦監事ヲ置ク以上ハ其職務ハ第五十九條ニヨルヘキコト勿論ナリ

第六十條 社團法人ノ理事ハ少クトモ毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス

法人ノ總會

(第百五十條) 本條乃至第六十六條ハ社團法人ノミニ關スル規定ニシテ即チ社員ノ總會ニ係ルモノナリ殊ニ本條ハ通常總會ノ招集ニ關スル規定ナリトス

總會トハ總社員ノ會議ヲ云フモノニシテ之ヲ分チテ二トス通常總會及ヒ臨時總會是レナリ通常總會トハ事業年度ノ終末ノ如キ一定ノ時期ニ開カルルモノナリ反之臨時總會トハ何時タルヲ問ハス臨時緊要ノ事項ヲ生シタルトキニ招集セラルモノナリ前者ハ本條ノ規定スル所ニシテ後者

ハ次條ノ定ムル所ナリ

一九八

通常總會

總會ハ社員ノ會議ナリ本來社員ナル者ヲ有セスシテ財産ノミヲ以テ基礎トスル所ノ財團法人ニ在リテハ縱令ヒ數人ノ寄附行爲者アル場合ト雖トモ既ニ法人ノ成立シタル以上ハ寄附行爲者トシテノ意見ヲ徵スルノ必要ナク從テ總會ナルモノノ存在スヘキ理ナキナリ反之社團法人ハ社員ヲ基礎トシテ成立スヘキモノナルヲ以テ社員全體ノ意見ヲシテ法人ノ事ニ付キ最モ廣大ナル勢力ヲ有セシメサル可カラサルヤ事理ノ然ラシムル所ト云フヘシ然ルニ社員ハ通常多數ナルヲ以テ常ニ一致ノ意見ヲ得ルコトヲ期スヘカラス故ニ不得已多數決議ノ制ニヨリ社員全體ノ意見ヲ纏ムルノ外ナキナリ是レ即チ社團法人ニ於テ總會ノ必要ナル所以ナリ

(第百五十一條) 總會ハ右ノ如キ必要ニヨリテ存在スルモノナルヲ以テ毎年少クトモ一回之ヲ召集シ以テ總社員ヲシテ理事ノ職務及ヒ監事ノ監査ニ付キ報告ヲ受ケ且ツ重要ナル事項ヲ議定スル機會ヲ得セシメサル可カラス是レ即チ本條ノ規定スル以所ニシテ之ヲ通常總會トナスナリ而シテ法律ハ通常總會召集ノ次數ニ付テハ單ニ毎年少クモ一回トナシテ其最低限ヲ示スニ止マルヲ以テ右法人ハ各各便宜ニ從ヒ其次數ヲ定ムルコトヲ得ルナリ然リ而シテ此通常總會召集ノ事ハ理事ノ職務ニ屬スルモノトス

第六十一條 社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得

總社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ召集スルコトヲ要ス但此定數ハ定款ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得

臨時總會

(第百五十二條) 本條ハ臨時總會ニ關スル規定ナリ

臨時總會ハ緊急事項ノ議定又ハ報告ヲ爲ス爲メ臨時ニ召集スル總會ナリ然リ而シテ理事ハ緊急且ツ重要ナル事項ノ發生ニ因リ社員全體ノ意見ヲ諮ヒ其決議ヲ求ムルヲ必要トスルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得ルナリ是レ本條第一項ノ規定ニシテ別ニ説明ヲ要セスシテ明ナリ

此ノ如ク臨時總會ノ召集ハ理事ノ職權ニ屬スト雖トモ之ヲ以テ全ク理事ノ隨意ニ一任スルトキハ臨時緊急ノ場合ニ際シ社員ニ於テ總會ノ召集ヲ欲スルモ理事ノ同意ヲ得サルトキハ其意ヲ果スヲ得ス殊ニ理事ニ取リ不利益ナル事項ヲ報告議定セント欲スルトキハ到底其望ヲ達スコトヲ得サルヘシ如此ハ不當ナルコト勿論ナルヲ以テ理事ヲシテ社員ノ請求アルトキハ臨時總會召集ノ義務ヲ負ハシメサル可カラサルナリ然リト雖トモ最モ少數ナル社員ヨリ又ハ多數ノ社員ト雖トモ會議ノ目的タル事項ヲ示スコトナク總會召集ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テモ理事ハ必ラス之レニ應セサルヲ得ストナス時ハ實際其煩ニ堪ヘサルヘク又ハ無益ニ總會ヲ召集スルノ弊ヲ生スヘシ是ヲ以テ本條第二項前文ハ理事ハ社員ノ請求アルトキハ臨時總會召集ノ義務アリトナシ

同時ニ其義務ハ總社員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求アリタルトキニ限ルモノト定メタリ然レトモ此社員ノ定數ハ法人ノ種類事業ノ狀況社員ノ多寡等ニヨリ之ヲ不便トスル場合ナシトセサルニヨリ各法人ハ其實際ノ便宜ニ從ヒ之ヲ増減スルコトヲ得但シ其定數ハ必ラス定款ヲ以テ定ムヘキモノトス蓋シ事甚タ重要ナルモノニ屬スルニ因ルナリ是レ即チ本條第二項後文ノ規定スル所トナス

以上本條ノ說明ヲ終レリ尙ホ一言注意スヘキハ臨時總會ノ招集ハ理事ノミノ任ニアラスシテ監事モ亦前第五十九條第四號ニヨリ其招集ヲ爲スコトヲ得ルモノトス而シテ此職權ハ監事ノ獨立シテ有スル所ナルヲ以テ理事ノ意思如何ニ拘ハラサルナリ否ナ寧ロ理事ノ意見ニ反シテ行ハルヘキモノト云フヘシ何トナレハ監事ノ總會招集權ハ理事ノ處置ノ不整ノ廉アル點ヲ指摘報告セシメンカ爲メニ在リテ存スレハナリ

### 第六十二條

總會ノ招集ハ少クトモ五日前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

總會招集ノ手續方法ノ

(第百五十三解) 本條ハ總會(通常ト臨時トヲ問ハス、以下之ニ倣フ)招集ノ手續ニ關スル規定ナリ

本條ニ依レハ總會ヲ招集スル方法ノ如何例ヘハ一一各社員ニ招集ノ通知ヲ爲スヘキヤ將タ新聞紙上ノ廣告ヲ以テスルヤ等ノ類ハ定款(事重大ナルモノニ屬スレハナリ)ノ定ムル所ニ從フヘ

キモノトス蓋シ如此事ハ法律ヲ以テ一定スルトキハ却テ實際ニ適切ナル結果ヲ得ル能ハサレハナリ但タ法律ハ社員ヲシテ豫メ會議ノ目的タル事項ニ付キ調査考慮ノ時間ヲ得セシメ以テ過誤ナカラシメンカ爲メ總會ノ招集ハ必ラス少クトモ五日前ニ其會議ノ目的ヲ示シテ之ヲ爲スコトヲ要スト定メタリ是レ固トヨリ至當ノ事ニシテ別ニ說明ヲ俟タスシテ明ナリ然而シテ此法規ニ背クカ又ハ定款所定ノ方法ニ依ラスシテ招集セラレタル總會ハ違法ノ總會ナルヲ以テ假令ヒ其會議ニ於テ議決ヲナスモ總會決議タル效ナカルヘキナリ

### 第六十三條

社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ

總會ノ制限

(第百五十四解) 本條ハ總會ノ權限ヲ定ムルモノナリ社團法人ノ機關タル總會ハ總社員ノ會議ニシテ其決議ハ法人ノ管理上最高ノ勢力ヲ有セサル可カラサルヤ明ナリ是ヲ以テ本條ハ原則トシテハ總會ハ法人ノ總テノ事務ニ付キ決議權ヲ有スルモノトナシ但タ定款ヲ以テ理事其他ノ役員(監事特別代理人等)ニ委任シタル事項ニ限リ總會ノ干渉容喙ヲ許ササルモノトナセリ蓋シ總會ト雖トモ既ニ法人ノ一機關ナル以上ハ法人ノ憲法トモ稱スヘキ定款ノ支配ヲ受ケサル可カラサルヲ以テ定款變更ノ手續ヲ履マサル間ハ(前第三十八條參看)之レニ違背スルコトヲ得サルハ理ノ當然ナレハナリ此ノ如ク總會ハ法人ノ最高機關ナリト雖トモ單ニ法人ノ事務ニ付キ議決ヲナスニ止マルモノナルヲ以テ之レカ實行ハ理事其他ノ役員ノ任務ニ屬スルコト固トヨリ明

第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノミ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

總會決議事

(第百五十五解) 本條ハ總會ニ於テ決議問題トナスコトヲ得ル事項ヲ定ムルモノナリ總會決議ヲシテ各社員ノ熟慮ニ基ク真ノ意見ニ依ラシメントスル立法ノ本旨ニヨリ總會ノ招集ハ五日前會議ノ目的タル條項ヲ示シテ之ヲ爲スヘキコト前第六十二條ノ規定スル所ナリ此立法ノ本旨ヲ充分ニ貫徹セント欲セハ總會ニ於テ決議(議事又ハ報告ニ止マルハ決議ニアラス)スルコトヲ得ヘキ事項ハ豫メ各社員ニ通告シタル事項ニ限ラサル可カラス若シ然ラサレハ當タニ右立法ノ本旨ヲ達スルコトヲ得サルノミナラス狡猾ナル理事其他ノ役員又ハ一部社員カ總會ニ於テ突然豫告外ノ事項ヲ提出シ各社員ニ於テ熟考ノ邊ナキヲ利用シ以テ自己ノ失策ヲ瞞着シ又ハ一部社員ノ意見ヲ貫徹スルニ至ルコトナシトセサルナリ是ヲ以テ本條ハ總會ニ於テハ招集ノ際各社員ニ豫告シタル事項ニ付テノミ決議ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ原則トナセリ夫レ然リ然ルト雖トモ法人ニヨリテハ或ハ事項ノ輕重緩急ニ從ヒ豫メ通知ヲナササルモ總會ニ於テ決議スルヲ得ヘキ事項ヲ豫定シ之ニ從フヲ以テ便利トスルモノナキニ非ラス如此場合ニ於テハ必シモ右

ノ法規ニ依ラシムルヲ要セサルコト勿論ナルヲ以テ本條ハ但書ニ於テ特ニ此趣旨ヲ明言セリ只々注意スヘキハ右ノ如キ事項ハ豫メ定款ヲ以テ定ムヘキモノナリ蓋シ法人ノ管理上重要ナル事物ニ屬スレハナリ

第六十五條 各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

總會ニ出席セサル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出タルコトヲ得

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

表決權

(第百五十六解) 本條ハ社員ノ表決權及ヒ其行使ノ方法ニ關スル規定ナリ

社員ノ表決權トハ總會決議ノ數ニ加ハルノ權ヲ云フ抑モ總會ハ多數決議ノ方法ニヨリ其職務ヲ實行スルコト前第六十三條ニヨリ自カラ明ナリ而シテ其決議ニ要スル定數ニ關シテハ一般ニ適用スヘキ法律ノ規定ナシ(第三十八條第六十九條ハ特別ノ事項ニ關スル規定ナレハ之ヲ以テ一般ノ事項ヲ律ス可カラサルハ勿論ナリ)蓋シ多クノ場合ニ於テハ此定數ニ付キ定款中相當ノ規定アルヘキヲ以テ之レニ從フヘキナリ若シ定款中何等ノ規定ナキトキハ多數決議制ノ一般原理ニ從ヒ其議決ノ數ニ加ハリタル社員ノ過半数決ニヨルヘキ者ナリ然リ而シテ此過半数又ハ定款所定ノ決議定數ハ表決權ノ數ニヨルモノナレハ各社員ノ表決權ナルモノノ重要ナルコト多辯ヲ

俟タサル所ナリ

二〇四

此ノ如ク社員ノ表決權ナルモノハ社員ノ法人ノ管理上ニ有スル權方トモ云フヘキヲ以テ法人ニ對スル社員ノ關係ノ厚薄其他諸種ノ事由ニ從ヒ表決權ニ等差ヲ設ルノ必要ヲ感スルコト往往之レアルハ當然ナリ例ヘハ出資ノ多寡ニヨリ又ハ發起人ナルト否トニヨリ又ハ男女ノ區別ニヨリ表決權ニ等差ヲ附スルカ如シ如此必要ヲ感スル法人ニ在リテハ豫メ定款ヲ以テ各社員ノ表決權ノ多寡ニ付テ規定スルナルヘシ乃チ本條(第三項)ハ定款中社員ノ表決權ニ付キ規定スル所アルトキハ之ニ從フヘキモノトナセリ反之若シ定款中ニ此規定ナキトキハ各社員ノ表決權ハ全ク同等ナルモノトナセリ(本條第一項)蓋シ定款中此種ノ規定ヲ設ケサルハ實際上表決權ニ等差ヲ立ルノ必要ヲ感セサルニ因ル者ト推測スヘク而シテ法人自カラ其必要ヲ感セサル以上ハ法律ヲ以テ強ヒテ社員ノ表決權ニ等差ヲ附セサル可カラサルノ理由ナケレハナリ(夫ノ株式會社株主ノ表決權ヲ株數ニヨリテ決スルカ如キ(商法第六十二條ハ特別ノ理由アリテ存スルナリ)殊ニ本節ノ規定ハ主トシテ公益的事業ヲ目的トスル法人ニ關スルカ故ニ其社員タル者ハ公益心ニ於テ厚薄ナキモノト推測スヘク從テ其表決權ヲ平等ナラシムルヲ妥當トナスニヨルナリ)社員ノ表決權ハ社員自カラ總會ニ出席シテ之ヲ行フヘキハ當然ナリ然リト雖トモ不得已事由ニヨリ社員ハ自カラ出席スルコト能ハサル場合アリ此ノ如キ場合ニ於テ缺席社員ハ斷然表決權ヲ行フコトヲ得ストナストキハ廣ク社員ノ意見ヲ聞クコトヲ得ス且ツ或ハ會議ノ成立ヲ見サルニ至ルノ恐レアリテ法人ニ不利不便ヲ與フルコトアリ故ニ本條第二項ハ缺席社員ハ書面ヲ以テ表

表決權ノ行使

表決權ナキ場合

決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出シテ決議ノ數ニ加ハラシムルコトヲ得ルモノトナセリ然リト雖トモ法人ニヨリテハ或ハ其社員ノ多數ナルカ爲メ或ハ決議事項ノ性質ニ從ヒ書面上ノ表決ヲ許ササルヲ以テ便利トスルモノアリ又壯士ノ闖入等ヲ防クカ爲メ代理ヲ許ササルヲ以テ便宜トスルモノアリ如此實際上相當ノ理由アルカ爲メ定款ヲ以テ豫メ書面上又ハ代理表決ヲ許ササル旨ヲ定メタルトキハ之レニ從フヲ以テ至當トナスナリ此ヲ以テ本條第三項ハ同第二項ノ例外ニ出テ表決權ノ行使ニ關シ定款中別段ノ定メアルトキハ之レニ從フヘキモノトナセリ

第六十六條 社團法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ

其社員ハ表決ノ權ヲ有セス

(第百五十七條) 本條ハ社員ノ表決權ヲ有セサル場合ヲ規定スルモノナリ總會決議ヲ要スル事項ニシテ法人ト或ル社員トノ關係ニ係ルモノナルトキ(例ヘハ或ル社員ノ退社ヲ許スヘキヤ否或ル社員ニ對シ訴訟ヲ起スヘキヤ否或ル社員ニ報償ヲナスヘキヤ否等ノ決議セントスルトキ)ハ兩者ノ利益相反スルヲ以テ常トス故ニ其社員カ議決ニ加ハルトキ(單ニ意見ヲ述フルハ差支ナシ)ハ公平ヲ失スルノ恐レアリ殊ニ若シ社員ノ多數カ關係者ナルトキハ頗ル危險ニシテ往往法人ニ不利ナル決議ヲ爲スニ至ルモノナリ故ニ本條ハ法人ト或ル社員トノ關係ニ付キ決議ヲ要スル事項ニ付テハ其社員ニ表決權ナキモノトナセリ

第六十七條 法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス主務官廳ハ何時ニテモ



職權ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

監督權及其行使

(第百五十八條) 本條ハ主務官廳ノ最上監督權及ヒ其行使ニ關スル規定ナリ凡ソ法人ノ事業ノ盛衰ハ公益上ニ影響ヲ及ホスコト尠ナリトセス殊ニ本節ノ主トシテ規定スル公益的法人ニ於テハ然リトス是レ已ニ前第三十三條及ヒ第三十四條ノ說明ニ於テ詳述シタル所ナリ是ヲ以テ法人ノ業務ハ嚴格ナル監督ニ付セサル可カラズ既ニ法人ニハ監事ナル監督機關アリ又總會ナル機關アリテ理事其他直接ニ業務ヲ執ル役員ヲ監督スル所アリト雖トモ未タ此レヲ以テ満足スヘキニアラス宜シク主務官廳ヲシテ法人ニ對シ最高ノ監督ヲナサシメサル可カラサルナリ是レ本條ノ規定アル所以ニシテ其解釋ハ一讀明瞭ナリ故ニ茲ニ贅セス  
此ノ如ク法人ハ主務官廳ノ監督ニ服スルヲ以テ法律ハ此本旨ヲ貫徹センカ爲メ後チノ第八十四條第三號及第四號ニ於テ過料ノ制裁ヲ設ケ法人ノ役員等ニ於テ敢テ乖ル所ナキヲ期セリ

第三節 法人ノ解散

法人ノ解散

(第百五十九條) 法人ノ解散トハ法律上ノ獨立主體ナル社會的組織カ離解スルノ謂ニシテ即チ法人ノ消滅スルヲ云フ故ニ自然人ノ死亡ノ如ク法律上ノ人格ノ終期ヲ爲スモノトス然レトモ法人ハ已ニ其成立ニ於テ自然人ノ出生ノ如ク單純ナルモノニアラサルヲ以テ其消滅原因モ亦勢ヒ複雑ナラサルヲ得ス且ツヤ法人ハ自然人ノ如ク相續人ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ其消滅ノ

場合ニ於テ遺留財産其他財産上ノ法律關係ハ如何ニ處分落着セシムヘキヤ等ニ付キ法律ノ規定ヲ要スルモノ多之レアリ是レ本節ノ規定アル所以ナリ以下各本條ニ付キ其詳細ヲ究メン

第六十八條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生
- 二 法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
- 三 破産
- 四 設立許可ノ取消

社團法人ハ前項ニ掲ケタル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 總會ノ決議
- 二 社員ノ缺亡

解散原因

(第百六十條) 本條ハ法人ノ解散原因ヲ列舉シタルモノナリ

本條第一項ハ社團法人及ヒ財團法人ニ共通ナル解散原因ヲ列舉シ第二項ハ社團法人ノミニ發生スヘキモノヲ掲グルモノナリ而シテ法人解散ノ原因ハ此兩項ニ記載シタル六個ノ事由ニ限ルモノトス請フ先ツ本條第一項ニヨリテ社團法人及ヒ財團法人ニ共通ナル解散事由ヲ説カン

社團法人及  
財團法人  
ニ共通ナル  
解散原因

1104

社團法人及ヒ財團法人ニ共通スル解散原因ハ左ノ如シ

- (一) 定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生 是レ法人ノ存続時期其他種種ノ解散條件ヲ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ豫定シタル場合ニ於テ右ノ時期カ到達シ又ハ其他ノ解散條件ノ成就シタルヲ云フ者ナリ故ニ本號ニヨリ法人ノ解散スルニ至ルハ即チ法人設立者ノ意思ニヨルモノト云フヘシ
  - (二) 法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能 例ヘハ一定ノ土地開墾ヲ目的トスル法人カ其開墾事業ヲ成就シタル場合ノ如ク又ハ或ル宗教ノ爲メニ法人ヲ設立シタルニ其宗教禁セラレ又ハ財團法人カ天災等ニヨリ其財産ノ全部ヲ失ヒタルカ爲メ其事業ノ成功ノ望ナキニ至リタル場合ノ如シ蓋シ法人ハ或ル目的ノ爲メニ存在スル者ナルヲ以テ其目的ヲ成功スルトキハ最早存続スルノ必要ナク其目的不能トナリタルトキ亦同シク存続スルノ必要ナキニ因ルナリ
  - (三) 破産 法人破産スルトキハ其財産ヲ法人ノ總債權者ニ分配セサルヲ得サルニヨリ勢ヒ之ヲ解散セシメサルヲ得サルナリ(後チノ第七十條參看)
  - (四) 設立許可ノ取消 是レ主務官廳カ法人ニ對スル監督權ノ作用ニヨリ其解散ヲ命スル場合ナリ詳細ハ後チノ第七十一條ニ就テ之ヲ看ルヘシ
- 以上ハ即チ社團法人及ヒ財團法人ニ共通ナル解散原因ナリ而シテ社團法人ハ本條第二項ニヨリ右ノ外尙ホ次ノ事由ニ因リ解散スルモノトス
- (一) 總會ノ決議 理論上ヨリ云フトキハ社團法人ハ社員合同ノ意思ニヨリテ組織セラレタルモ

社團法人ノ  
ミニ付テ發

生スル解散  
原因

ノナルヲ以テ總社員合同ノ意思ニヨルニアラサレハ解散スルコトヲ得ス其爲サル可カラサルカ如シ然レトモ多數ノ社員カ法人ノ解散ヲ希望スル場合ニ於テハ法人ヲ繼續スルコト實際ト困難ナルニ至ルヲ以テ常トス去レハ總會ニ於テ解散ノ決議ヲナシタルトキハ法人ノ消滅ヲ來タスモノトナスヲ妥當トスルナリ是レ本號ノ規定アル所以ナリ尙ホ此點ニ付テハ後チノ第六十九條ヲ看ルヘシ

- (二) 社員ノ缺亡 即チ社員カ死亡退社等ニ因リ全ク存在セサルニ至リタル場合ナリ故ニ社員一名タリトモ殘存スル以上ハ法人ハ解散セス抑モ社員ノ減少カ法人ノ生存上ニ及ホス影響ニ關シテハ諸種ノ學說及ヒ立法例アルナリ或ハ(一)社員一人タリトモ減スルトキハ法人解散スルコトナシ(佛國民法舊民法財産取得編第四百四十四條)或ハ(二)社員全ク缺亡スルモ解散セストナシ(瑞西債權法、一部ノ羅馬法學者ノ說)或ハ社員減シテ一定ノ數ニ下ルトキハ解散ストナシ(獨逸民法第二章案)或ハ(四)社員減シテ一人トナルトキハ解散ストナシ(獨逸民法第一章案理由書ノ說)或ハ(五)社員全ク缺亡スル時ハ解散ストナスナリ(獨乙二三ノ聯邦法一部ノ羅馬法學者ノ說)本法ハ即チ此最後ノ說ヲ採リタルモノナリ而シテ其理由ヲ案スルニ社團法人ナル者ハ社員ノ結合ニヨリテ成立スルモノナレハ其成立ニ至ルニハ少クモ二人ノ社員ヲ要スト雖トモ一旦法人ノ成立シタル以上ハ法人ト社員トハ各別ノ權利主體ナルヲ以テ縱令ヒ社員カ減シテ一人トナルモ法人ノ存続ヲ妨クルノ道理ナシ且ツ社員ノ減少ヲシテ輕ク法人ノ生存上ニ影響アラシムルトキハ公益的事業カ中途ニ遮斷セラレルニ至ルノ弊アリテ不可ナリ然リ

ト雖トモ此條理及ヒ立法理由ニ基キ右(二)說ノ如ク社員ノ全ク缺亡スルニモ拘ハラヌ尙ホ法人ヲ存續セシムヘシト論スルハ極端ニ奔リ理論上及ヒ實際上ニ適切ナラサルノ嫌アリ何トナレハ如此キハ社團法人ノ本體カ社員ナルモノヲ基礎トセル社會的組織タルノ觀念ト相容レサルコト明ニシテ且ツ如此ハ全ク法人設立者ノ意思ニ反スルモノナルヲ以テ縱令ヒ公益的事業ノ廢絶ヲ防カントスルニアリトハ云ヒナカラ法律干涉ノ度ニ過クルノ嫌アレハナリ是レ即チ本法カ社員全ク缺亡スルトキハ法人解散スルノ說ヲ採用シタル所以ナリ

第六十九條 社團法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

總會ニ於ケル解散決議

(第六十一條) 本條ハ前條列舉ノ解散事由中總會ノ決議ニ關スル規定ナリ

社團法人ハ總會ノ決議ニヨリテ解散スル者ナルコト前條ノ規定スル所ナリ然ルニ此解散決議ハ事最モ重要ナルモノニ屬スルヲ以テ普通ノ總會決議ニ要スル定數ノ社員ノ同意(第六十五條ノ說明參看)アルヲ以テ足レリトナス可カラス是ヲ以テ本條ハ解散決議ニハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ要スル旨ヲ定メタリ然リト雖トモ實際上ニ於テハ法人ノ性質社員ノ多寡等ニヨリ總社員一致ノ承諾若クハ右法律規定ニヨリモ一層多數ノ社員ノ同意ヲ必要トシ或ハ之レヨリ少數ナル社員ノ同意ニヨリ解散決議ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ便利トスルモノナキニアラサルナリ是ヲ以テ本條ハ右ノ如ク法律ノ通則ヲ定ムルト同時ニ若シ定款中別段ノ規定アルトキハ此通

則ニ依ラサル旨ヲ明カニセリ

第七十條 法人カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス前項ノ場合ニ於テ理事ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

(第六十二條) 本條ハ法人ノ破産宣告ニ關スル規定ナリ

法人ノ破産宣告

前第六十八條ニヨレハ破産ハ社團法人及ヒ財團法人ニ共通ナル解散事由ナリ然ラハ如何ナル場合ニ於テ如何ナル手續ヲ履ミ破産ノ宣告ヲ爲スヤ是レ即チ本條ノ決議所トス本條ニヨレハ法人ノ破産宣告ハ法人カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタル場合即チ無資力ニナリタル場合ニ於テ之ヲ爲スモノナリ債務ヲ完済スルコト能ハストハ債務ノ總額カ財産ノ總額ヲ超過シ爲メニ支拂ノ請求ヲ受クルモ完全ニ辨済ヲ爲スコト能ハサルヲ云フ故ニ縱令ヒ辨済ヲナサスト雖トモ無資力ナルカ爲メナルニアラサルトキ(例ヘハ請求權ヲ争ヒ又ハ金銀ノ送附ノ遅延シタルカ爲メナルトキノ如シ)ハ破産ヲ宣告スルノ限ニアラサルナリ法人カ其債務ヲ完済スル能ハサルニ至リタルトキハ破産ノ宣告ヲ爲スコト右述ヘタルカ如シ而シテ其宣告ハ公平無私ノ保障アル裁判所ノ司ル所ニシテ裁判所ハ理事若クハ法人ノ債權者ノ請求ニヨリ又ハ此請求ナキモ自カラ職權ニヨリテ破産ノ宣告ヲ爲スヘキ者トス是レ即チ本條第一

項所定ノ破産宣告手續ナリトス然リ而シテ法人カ無資力ナルニ至リタルハ債權者ノ保護上速  
カニ其破産ヲ宣告シ財産分配ノ手續ヲ開始スルノ必要ナルコト勿論ナルヲ以テ理事ハ法人ノ無  
資力ナルニ至リタルコトヲ覺知シタルトキハ直チニ破産宣告ノ請求ヲナササル可カラス是レ本  
條第二項ノ明定スル所ナリ若シ理事カ此規定ニ違背スルトキハ後チノ第八十四條第五號ニヨリ  
四圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラルルモノトス

序次一言ス現行法ニヨレハ破産ハ商事ニ特別ナルモノナリ然レトモ本民法ハ之ヲ以テ商事ト民  
事トニ共通ナルモノトナセリ之レ本條ニ於テ民事ヲ目的トシ從テ民事上ノ法律的行爲ヲ主トス  
ル法人ニ付テモ破産ノ事アル所以ナリ依テ現行破産ハ早晚改正セラルヘキモノナルコト明カナ  
リ

第七十一條 法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條  
件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其許  
可ヲ取消スコトヲ得

設立許可ノ  
取消

(第六十三解) 本條ハ法人ノ解散事由ノ一タル設立許可ノ取消ニ關スル規定ナリ  
法人殊ニ本節所定ノ公益的法人ハ公益ニ關係アルコト尠ナラサルニヨリ行政上ノ監督ヲ必要  
トスルコト已ニ屢々之ヲ述ヘタリ故ニ本法ハ法人ノ設立ハ主務官廳ノ許可ヲ要ストシ(本法第三

十四條) 又法人ノ管理ハ主務官廳ノ監督ニ服セシメタルト(本法第六十七條)讀者ノ知了スル所  
ナリ今此監督ヲシテ充分ニ其效アラシメンニハ主務官廳ハ必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ一旦  
下シタル法人ノ設立許可ヲ取消シ之ヲ解散セシムルコトヲ得サルヘカラス依テ前第六十八條ハ  
主務官廳ノ設立許可ノ取消ヲ以テ法人ノ解散原因ノ一トナセリ然リト雖トモ右ノ如ク主務官廳  
カ設立許可ノ取消ヲ爲スコトヲ得ルハ法人ニ對スル監督權ノ作用ニ出ツルニ外ナラサルヲ以テ  
只タ法人ニ於テ公益ヲ害スルノ所爲アル場合ニ限ルハ勿論ニシテ敢テ其濫用アルヲ許ス可カラ  
ス是レ法律カ本條ニ於テ此趣旨ヲ明ニシタル所以ナリ然リ而シテ法人カ公益ヲ害スル所爲ヲ爲  
ス場合ハ其目的外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立許可ヲ得タル條件ニ違反スル場合(例ヘハ家屋ノ構造  
法ヲ定メテ病院ノ設立ヲ許可シタルニ其構造法ニ違背シテ病舎ノ改築ヲナスカ如シ) 最モ顯著  
ナルヲ以テ本條ハ特ニ之ヲ擧ケテ其例ヲ示セリ其他治安風俗健康ヲ害スヘキ行爲ハ皆公益ヲ害  
スルモノト云フヘキナリ

第七十二條 解散シタル法人ノ財産ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定シタ  
ル人ニ歸屬ス

定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法  
ヲ定メサリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似

セル目的ノ爲メニ其財産ヲ處分スルコトヲ得但社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレサル財産ハ國庫ニ歸屬ス

法人ノ遺産ノ處分

(第百六十四解) 本條ハ解散シタル法人ノ遺産ノ處分ヲ定ムルモノナリ  
法人カ解散スルトキハ其財産上ノ清算ヲ爲シ總債權者ニ辨濟ヲナシタル上尙ホ餘剩ヲ生スルヲ以テ常トス本條ニ所謂法人ノ財産トハ此餘剩財産ナルコト後チノ第七十八條第三號ニヨリテ明ナリ夫レ法人ハ自然人ノ如ク相續人ヲ有スルモノニアラス又遺言ヲ爲シテ其解散後ノ財産ヲ處分スルノ能力ナシ故ニ右ノ殘餘財産ノ運命如何ニ付テハ法律ノ特別規定ヲ要ス若シ然ラザレハ其財産ハ法律上無主物トナリ先占ノ目的物タルニ至ラン(本法第二百二十九條參照)然レモ濫リニ無主物ヲ生セシムルハ立法上甚タ不可ナルヲ勿論ナルヲ以テ各國概テ法人ノ遺産ノ處分ニ付キ特別ノ法規ヲ設ク本法亦本條ニ於テ其規定ヲ設ケタリ而シテ其遺產歸屬ノ順位ハ(一)先ツ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル人ヲ以テ歸屬權利者トナシ(二)次ニ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其遺產ヲ處分スルコトヲ許シ(三)終リニ國庫ニ歸屬スヘキモノト爲シタリ以下各項ニ付テ之ヲ說述スヘシ

法人ノ遺産ノ歸屬ノ第一順位

(第百六十五解) 夫レ法人ノ財産タルヤ初メハ法人設立者及ヒ社團法人ニアリテハ設立後加入

法人ノ遺産ノ歸屬ノ第二順位

シタル出資社員ノ私有財産ナリシヲ以テ之レヲ一法人ノ財産トナシ或ル公益的事業ノ用途ニ充ツルト否トハ其隨意ナリシナリ而シテ一旦之ヲ或ル公益的事業ノ用ニ供センカ爲メ一法人ノ財産トナシタル以上ハ其法人ノ存續スル間ハ法人設立者ノ私有ニ非スシテ法人ノ獨立財産ナリト看做スト雖トモ其法人カ解散スルニ至リ該公益的的目的ノ消滅シタル上ハ舊所有者タル法人設立者及ヒ設立後加入シタル出資社員ノ意思又ハ其意思ニ最モ近キ方法ニ依リ其財産ノ繼續者ヲ定ムルヲ以テ可トス如此ハ法理上ニ於テ毫モ不可ナル所ナク且ツ法人ノ設立ヲ獎勵スル點ニ於テ最モ適切ナル所ナリ是ヲ以テ本條第一項ハ法人設立者及ヒ設立後加入ノ出資社員ニ於テ定款若クハ寄附行爲ヲ以テ法人解散後ニ於ケル遺產ノ歸屬權利者ヲ指定シ又ハ指定スルノ方法ヲ定ムルコトヲ許シ之レニ依リ法人ノ遺產ヲ處分スヘキモノトナセリ(本條第二項ニハ「ハ」指定シタル人」ト云フト雖トモ直接ニ其人ヲ指定セサルモ之レヲ指定スルノ方法定マリタルトキハ可ナリトスルコトハ本條第二項ニヨリテ明ナリ)

ノヲ舉クレハ

(一) 必ラス豫メ定款若クハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ定ムヘシトノ說 是レ甚タ便利ナルニ似タリト雖トモ設立ノ當時及ヒ其以後ト雖トモ豫メ如此規定ヲ爲スコトハ困難ナルコト往往

之レアルヲ以テ本法ハ之ヲ採ラス

(二) 解散シタル法人ノ財産ハ法人設立者若クハ其子孫(財團法人ニ就テ然リ)又ハ現在ノ社員ニ復歸スヘシトノ説 此説ハ私益ヲ目的トスル法人ニアリテハ最モ適切ナリト雖トモ本節ノ主トシテ規定スル公益的法人ニアリテハ不可ナリ何トナレハ公益的法人ノ設立者又ハ社員ノ共ノ爲メニ其財産ヲ義捐シタルモノナレハ之ヲ其設立者若クハ其子孫又ハ社員ニ還附スルハ却テ其意思ニ反スルノ嫌アレハナリ

(三) 解散シタル法人ノ財産ハ之ヲ國庫ニ沒收スヘシトノ説 此説ハ前説ノ如ク法人設立者(及ヒ社員)ノ意思ニ悖ルコト甚シカラスト雖トモ未タ以テ最モ其意思ニ近シト云フヲ得ス何トナレハ法人設立者等ハ漠然一般ノ公共ノ爲メニ其財産ヲ義捐シタルニアラスシテ其法人ノ目的トシタル公益的事業ノ爲メニ棄捐シタルモノナレハナリ

(四) 解散シタル法人ノ財産ハ其法人ノ目的ニ類似スル目的ノ爲メニ處分ストノ説 是レ即チ最モ法人設立者等ノ意思ニ近キ方法ニシテ本條第二項ノ採用スル所ナリ

乃チ本條第二項ニヨレハ若シ定款若クハ寄附行爲ヲ以テ法人ノ財産ノ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリシハ法人ノ理事ハ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財産ヲ處分スルコトヲ得ルナリ(例ヘハ宗教ノ爲メニ存シタル法人ノ財産ヲ宗教上ノ目的ノ爲メニ處分シ又ハ法人タル學校ノ財産ヲ他ノ學校若クハ其他ノ教育事業ヲ目的トスル協會ニ寄附スルカ如シ)然レモ理事ハ此處分ヲ爲スニ方テハ必ラスヤ主務官廳ノ許可ヲ受ケサルヘカラサルモ

法人ノ遺產處分ノ第三

ノトス是レ理事ニ過誤ナキヲ期セントスル立法ノ本旨ニ出ツルニ外ナラス又社團法人ノ場合ニハ此他尙ホ總會決議ヲ經ルコトヲ要スルモノトナス蓋シ現在社員ノ意見ヲ確メンカナリ

(第百六十七條) 法人ノ遺產處分ニ關シ定款若クハ寄附行爲ニ於テ歸屬權利者ヲ定メサルトキハ理事ニ於テ法人ヲ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ處分スルコトヲ得ルト雖トモ理事ハ相當類似ノ目的ヲ發見スルコトヲ得サルカ爲メ其他種種ノ事情ニヨリ此種ノ處分ヲナササルコトアリ(理事ハ必ス此種ノ處分ヲ爲ササル可カラサルノ義務ナキナリ是レ本條第二項ニ於テ「……理事ハ……處分スルコトヲ得……」トアルニヨリテ明ナリ)如此場合ニ於テハ已ムヲ得ス國庫ヲシテ歸屬權利者タラシムルヲ以テ最モ法人設立者等ノ意思ニ近シト云フヘシ是レ前解ニ於ケル諸學説及ヒ立法例ノ評論ニヨリテ明ナリ故ニ本條第三項ハ此場合ニ於テハ解散シタル法人ノ財産ハ國庫ニ歸屬スヘキモノトナセリ

### 第七十三條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其清算ノ結

了ニ至ルマテ尙ホ存續スルモノト看做ス

(第百六十八條) 本條ハ解散シタル法人ヲシテ清算ノ目的ノ爲メニ其人格ヲ保存セシムル法律ノ假定ニ關スルモノナリ

之ヲ純理上ヨリ論スルニ法人ニ就キ解散事由發起シタルトキハ法人ハ消滅ス從テ其法律上ノ獨立主體タル資格ナキニ至ルナリ然ルト雖トモ法人ノ解散後ニ於テ其財産ヲ處分シ其他法人ノ殘

務ヲ處理落着セシムルノ必要ナルコト固ヨリ明ニシテ此殘務ノ處理結了ヲ名ケテ法人ノ清算ト  
 ハ云フナリ然ルニ法人ノ人格ハ解散ト同時消滅ストノ純理ヲ探ルトキハ勢ヒ法人ノ權利義務ノ  
 消滅ヲ來タササルヲ得サルノ決論ヲ生ス何トナレハ法人ハ自然人ノ如ク相續人ナル者ヲ有セサ  
 レバナリ(前條ニヨリ法人ノ財産ヲ取得スル者ハ法人ノ相續人ト云フヲ得ス何トナレハ其者ハ  
 清算ノ上殘餘シタル財産ヲ得ル者ナレハナリ)此ノ如キ決論ハ到底法人ナルモノヲ認メ之ヲ權  
 利義務ノ主體トナシタル立法ノ本旨ハ相容レサルコト明ナリ故ニ本條ハ解散シタル法人ハ全ク  
 人格ヲ失フトノ純理ヲ採用セシテ或ル範圍ニ於テ尙ホ其人格ヲ保存セシメタリ即チ解散シタ  
 ル法人ハ清算ヲ爲スニ必要ナル範圍ニ於テ尙ホ法律上ノ獨立主體タルコトヲ失ハサルナリ  
 此ノ如ク本條ニヨリ存續セシメラレタル法人ノ人格ハ清算ノ目的ノ範圍ニ限ルヲ以テ範圍ニ於  
 テハ法人ハ法律上ノ獨立主體ニアラサルナリ從テ法人ノ目的タリシ事業ニ關スル行爲ト雖トモ  
 清算上不得已ニアラサル以上ハ(即チ後チノ第七十八條ニ所謂現務ノ結了ニ屬セサルモノ)之  
 レヲ爲スコトヲ得サルナリ故ニ若シ理事等カ此規定ニ反シテ行爲ヲ爲ストキハ法人ニ於テ其實  
 ニ任スルノ限リニアラスシテ却テ其實際ノ行爲者タル理事等ノ責ニ歸スヘキモノトス

第七十四條 法人カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其清算人  
 ト爲ル但定款若クハ寄附行爲ニ別段ノ定メアルトキ又ハ總會ニ於テ他  
 人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

(第百六十九條) 本條ハ何人カ解散シタル法人ノ清算人ナルヤヲ規定スルモノナリ  
 法人ノ清算即チ其解散後ニ於ケル殘務ノ處理結了ニ付テハ之レニ當ルヘキ人即チ清算人アルヲ  
 必要トスルヤ多辯ヲ要セシテ明ナリ本條ニヨレハ此清算人タル者ハ一般ノ場合ニ於テハ法人  
 ノ理事ナリトス即チ理事ハ法人解散シタルトキハ當然清算人トナルナリ蓋シ理事ハ法人ノ解散  
 ニ至ル迄其總括的常置代理人トシテ事務ヲ執リタル者ナルヲ以テ之レヲシテ其殘務ノ處理結了  
 ノ任ニ當ラシムルハ清算事務ノ進捗上最モ適當ナルニ因ルナリ  
 右ノ如ク一般ノ場合ニ於テ理事ハ當然清算人トナルト雖トモ次ノ場合ニ於テハ此限ニアラサル  
 ナリ

- (一) 法人カ破産ノ爲メ解散シタルトキ 此場合ニ於ケル清算ハ普通ノ場合ニ於ケルト大ニ其趣  
 ヲ異ニセサルヲ得サルナリ即チ此場合ニハ清算ノ目的ハ主トシテ法人ノ財産ヲ公平ニ總債權  
 者ニ分配スルニアルヲ以テ嚴密ナル破産法ニ依リ法人ノ殘務ヲ處理落着セシメサル可カラサ  
 ルナリ從テ其事務ヲ司掌スル人ノ如何モ亦破産法ノ定ムル所ニ依ルヘキナリ舊商法破産編ニ  
 依レハ破産ノ場合ニ於テハ所謂破産管財人ナル者アリテ裁判官ノ指揮監督ノ下ニ嚴密ナル法  
 規ニ從ヒ諸般ノ破産事務ヲ處理スヘキモノトナセリ(舊商法第千八條以下參看)
- (二) 定款若クハ寄附行爲ニ別段ノ定メアルトキ 蓋シ理事ヲ以テ清算人タラシムルハ一般ノ場  
 合ニ應用スヘキ通則タルニ過キサルヲ以テ特別ノ事情ノ爲メ法人設立者カ理事以外ノ者ヲ以  
 テ清算人ト爲スノ必要ヲ認メ豫メ清算人ノ選任ニ付キ定款若クハ寄附行爲中ニ特定スル所ア

清算人ノ員數

ルトキハ之ニ從フナリ

(三) 總會ニ於テ理事以外ノ者ヲ選任シタルトキ 是レ亦前(二)ト同様ノ理由ニ因ルモノニシテ別ニ喋々ノ辯ヲ俟タサル所ナリ

以上本條ノ規定ヲ説了セリ尙ホ終リニ蒞ンテ清算人ノ數ニ付キ一言セン法律ハ清算人ノ數ニ關シテハ何等ノ規定ヲモ設ケサルナリ蓋シ一般ノ法人ニ通シテ相當ニ其員數ヲ定ムルコト殆ント不能ノ事ニ屬スルヲ以テ之ヲ各法人ノ便宜ニ一任セントスルニアリ故ニ法人設立者及ヒ總會ハ其必要ト認ムル所ニ從ヒ清算人ノ數ヲ定ムルコトヲ得ルナリ但タ本條本文ノ規定ニヨリ理事カ當然清算人トナルヘキ場合ニハ清算人ノ數ハ理事ノ數ト相同シキコト固ヨリ明カナリ然リ而シテ數人ノ清算人アル場合ニ於テ清算ニ關スル事務ハ其數人共同若クハ各獨立ニテ(分擔シテ)之ヲ執行スルコトヲ得ヘシ何トナレハ此點ニ付キ別ニ法律上ノ制限之レナケレハナリ

第七十五條

前條ノ規定ニ依リテ清算人タルモノナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

裁判所ノ清算人選任權

(第七十條) 本條ハ或ル必要已ムヲ得サル場合ニ於テ裁判所ニ清算人選任ノ權アルコトヲ認ムル規定ナリ法律ハ前條ニ於テ清算人指定ノ方法ヲ定メタリト雖トモ此レニヨリテ清算人ヲ得

ルコト能サル場合ヲ生スルコト往往之レアリ例ヘハ定款ニ於テ清算人ノ選定ニ付キ何等ノ定メナキ場合ニ於テ社團法人カ社員ノ缺亡ニ因リ解散シ且ツ其ノ理事ハ既ニ死亡又ハ退任シタルトキノ如キ或ハ財團法人ノ理事カ解散前ニ死亡又ハ退任シタル場合ニ於テ清算人ノ選定ニ付キ寄附行爲ニ別段ノ定メナキトキノ如キハ初メヨリ清算人ヲ得ルコト能ハサルヘシ又例令前條ノ規定ニヨリ一旦清算人ヲ選定シタルモ其死亡又ハ退任ニヨリ清算人全ク缺亡スルニ至リタル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ於テ此ノ如キ場合ニ處スヘキ方法ヲ定メ且ツ社團法人ニ在リテハ清算人ナキ爲メ總會ノ招集ヲナスコト能ハサル場合ニ於テハ清算人ヲ新任スルコト能ハサルヘシ

右例示ノ場合ハ即チ本條ニ所謂「前條ノ規定ニヨリテ清算人タル者ナキトキ」ナリ此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニヨリ又ハ職權上(後チノ第八十二條參看)自カラ進ンテ清算人ヲ選任スルコトヲ得ルモノトス蓋シ法人ノ清算ハ法人ノ債權者債務者法人ノ財産ノ歸屬權利者ノ利害ニ關係アリ且ツ場合ニヨリテハ大ニ公益上ノ利害ニ關スル所アルニヨルナリ

前條ノ規定ニヨリテ清算人ヲ得ル能ハサル場合ニ於テ裁判所カ之レヲ選任スルコトヲ得ルコト夫レ此ノ如シ本條ハ尙ホ清算人ヲ得ルコト能ハサルニアラサルモ其選定ヲ待ツトキハ遲延ノ爲メ損害ヲ生スルノ虞アリ又ハ定款ノ清算人ニ缺員ヲ生シタル場合ニ於テ速カニ之ヲ補充スルニ非サレハ事務ノ進捗ヲ妨クルカ爲メ損害ヲ生スルノ虞レアル場合即チ本條ニ所謂「清算人ノ缺



ケタル爲メ損害ヲ生スルノ虞アルトキニ於テモ亦裁判所ニ於テ清算人ヲ選任スルコトヲ許セリ是レ固ヨリ至前ノ規定ニシテ別ニ説明ヲ要セスシテ明ナリ但タ爰ニ損害ヲ生スル虞アルヲ以テ選任權實行ノ條件トナシタル所以ハ畢竟損害ヲ生スルノ虞ナキトキハ或ハ前條ニヨリ後任者ノ選任ヲ待ツヘク或ハ缺員ノ儘ニ放棄シ置クモ何等ノ支障ナキニ因ルナリ

第七十六條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

清算人ノ解任

(第七十一條) 本條ハ清算人ノ解任ニ關スル規定ナリ  
解散シタル法人ノ殘務ハ可及的速カニ處理落着セシムルヲ要スルコト固トヨリ明カナリ故ニ濫リニ清算人ノ解任ヲ行ヒ後任者選定ノ爲メ時間ヲ消費スルコトアル可カラス是ヲ以テ本條ハ清算人ノ解任ハ清算事務ノ監督者タル裁判所(後テノ第八十二條參看)ニ限り之ヲ爲スコトヲ得ルモノトシ而カモ重要ナル事由アルニアラサレハ之ヲ解任スルコトヲ得サルモノトナセリ然リ而シテ裁判所ハ或ハ清算ニ付テノ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニヨリ或ハ自己ノ職權上自カラ進ンテ清算人ヲ解任スルコトヲ得ルモノトナセリ  
清算人ヲ解任スルニハ重要ナル事由アルヲ要スルヤ右述タルカ如シ然ラハ如何ナル事情ヲ以テ重要ナル解任事由トナスヤト云フニ此レ一般ニ斷定スルコトヲ得サル問題ニシテ裁判官カ各場合ノ事實ニ就テ調査判定スヘキモノナリトス蓋シ職權ノ濫用、職務ノ曠廢、甚シキ不適任等ノ如

キハ重要ナル解任事由ナルヘシ要スルニ或ル事情ヲ以テ清算人解任ノ事由トナスニ足ルヤ否ハ各場合ニ就テノ裁判官ノ認定ニ任スルモノナリ

第七十七條 清算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外解散後一週間内ニ其氏名住所及ヒ解散ノ原因年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一週間内ニ其氏名住所ノ登記ヲ爲シ且ツ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

解散届及解  
散登記

(第七十二條) 本條ハ解散ノ届出及ヒ解散ノ登記ニ關スル規定ナリ法人ノ設立ニハ主務官廳ノ許可ヲ要シ其設立ハ之ヲ登記シテ世人ニ公示スヘキモノナルコト前第三十四條及ヒ第四十五條ノ規定スル所ナリ然ラハ則チ其解散シタル場合ニ於テモ亦之ヲ主務官廳ニ届出テ及ヒ之レカ登記ヲナスノ必要ナルコト多辯ヲ俟タスシテ明ナリ本條ニヨレハ此届出及ヒ登記ハ清算人ヨリ解散後一週間内ニ清算人ノ氏名住所及ヒ解散ノ原因年月日ヲ具シテ之ヲ爲スヘキモノトス若シ已ニ清算ニ着手シタル後チ清算人ノ新任アリタルトキハ其就職後一週間内ニ之レカ氏名住所ヲ届出テ及ヒ登記スヘキナリ然リ而シテ若シ清算人ニ於テ此登記ヲ怠ルハ第八十四條第一號ニヨリ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セララルモノナリ又其届出ヲナササルトキハ或ハ同條第四

號ニヨリ同様ノ制裁ヲ蒙ルコトナシトセス

本條登記ノ規定ハ法人カ破産ノ爲メ解散シタルトキハ之ヲ適用スルノ限リニアラスシテ破産法ノ定ムル所ニ從フヘキナリ（舊商法第九百八十條以下）之レニ反シテ主務官廳ニ對スル届出ハ破産ノ場合タルト否トニ拘ハラズ之ヲ爲ササル可カラス是レ本條第一項ニ「、、、又何レハ場合ニ於テモ、、、届出ツルコトヲ要ス」トアルニ依リテ明ナリ

第七十八條 清算ノ職務左ノ如シ

- 一 現務ノ結了
- 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
- 三 殘餘財産ノ引渡

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

清算人ノ職  
務ニ關スル  
規定

（第七十三條） 本條ハ清算人ノ職務ニ關スル規定ナリ

法人ノ清算トハ解散シタル法人ノ殘務ノ處理結了ヲ云フ故ニ清算人ノ職務、殘務ノ處理結了ニアリテ存スヘキハ理ノ見易キ所ナリ乃チ本條ハ此理ニ基キ清算人ノ職務權限ヲ規定セリ

本條ニヨレハ清算人ノ職務ハ左ノ三項ニアリ

- （一） 現務ノ結了 即チ已ニ着手シタル所ノ法人ノ事務ニシテ解散迄ニ完結ニ至ラザリシモノヲ

適當ニ落着セシムルヲ云フナリ

（二） 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟 是レ説明ヲ要セスシテ明ナリ尙ホ本項ニ付テハ後テノ第七十九條乃至第八十一條ヲ參照スヘシ

（三） 殘餘財産ノ引渡 是レ即チ法人ノ現務ヲ結了シ其債權ヲ取立及ヒ債務ヲ辨濟シテ法人ノ財産ニ剩餘ヲ生スルトキハ前第七十二條ニヨリ之レヲ其財産ノ歸屬權利者タル者ニ引渡スヲ云フナリ然リ而シテ此引渡ハ或ハ（一）其財産ノ現狀ノ儘（即チ家屋、物品等ノ儘）或ハ（二）之ヲ換價シテ（即チ其財産ヲ賣却シテ得タル金額ヲ引渡スナリ）後テ之ヲ爲ス即チ通常ノ場合ニ於テハ（一）ノ方法ヲ以テスヘシト雖トモ歸屬權利者數人アル場合（例ヘハ法人設立者ノ子孫數人アリテ歸屬權利者ナル場合又ハ數人ノ社員カ歸屬權利者ナル場合ノ如シ）ニ於テハ（二）ノ方法ニヨリテ處分スヘキナリ此換價處分ヲ爲スコトヲ得ルハ後述ノ如ク清算人ハ其職務ヲ行フニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スノ權限アルニヨリ毫モ疑ヒナキ所ナリ

以上ハ即チ清算人ノ職務ナリ然リ而シテ清算人ハ此職務ヲ行フニ必要ナル總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得サル可カラス本條第二項ハ特ニ此事ヲ明カニセリ故ニ清算人ハ苟モ其職務執行ニ必要ナル以上ハ管理行爲（即チ財産ノ保存利用ノ行爲）ハ勿論尙ホ處分行爲（即チ財産ノ移轉ヲ目的トスル行爲例ヘハ前ニ述ヘタル換價處分、新取引、訴訟行爲、和解、仲裁等ノ如シ）ヲモ爲スコトヲ得ルナリ

本條清算人ノ職務權限ハ之ヲ制限スルコトヲ許サス殊ニ總會ノ決議ヲ以テスルモ之ヲ制限スル

コトヲ得ス其理由ハ本條清算人ノ職務權限ハ法定ノモノナルヲ以テ之レカ制限ヲ許サントスルナラハ特ニ之ヲ明言スヘキナリ然ルニ此明言ナキハ即チ之ヲ許ササルノ法意ナリト云ハサルヲ得サルナリ是レ法人ノ清算事務ハ公平且ツ迅速ニ執行セラルルヲ要スルヲ以テ他ヨリ隨意ニ清算人ノ職務權限ヲ左右スルコトヲ許ス可カラサルニヨルナリ

第七十九條 清算人ハ其就職ノ日ヨリ二ヶ月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清算ヨリ除斥セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス

清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス

解散シタル  
法人ノ債務  
辨濟手續

(第七十四條解) 本條ハ解散シタル法人ノ債務辨濟ニ關スル手續ヲ定ムルモノナリ解散シタル法人ノ債務ハ概テ其帳簿等ニヨリテ之ヲ知ルコトヲ得ヘシト雖トモ之レニ洩レタルモノモ亦少ナカラサルヤ多辯ヲ要セスシテ明ナリ故ニ清算人カ前條第二號ニヨリ法人ノ債務ヲ

辨濟セントスルニ方リ法人ノ帳簿等ノミニヨリテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトセハ清算人ノ不知ニ屬スル債權者ヲ害スルニ至ルヘシ是ヲ以テ本條ハ清算人ヲシテ盡ク法人ノ債務ヲ知ルノ道ヲ盡クサシメ以テ債權者ヲシテ清算人ノ不知ノ爲メニ損害ヲ蒙ルコトナカラシメントカメタリ即チ本條第一項ニヨレハ清算人ハ其就職ノ日ヨリ二ヶ月以内ニ三回以上ノ公告ヲ以テ法人ノ債權者ニ對シ二ヶ月以上ノ豫定期間内ニ其債權ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告セサル可カラサルナリ

右ノ規定ニヨリ清算人カ充分ノ注意ヲ與ヘタルニモ拘ハラヌ公告中ニ指定セラレタル期間内ニ申出ヲ爲ササル債權者ハ是レ其債權ヲ拋棄スルノ意思アルモノト看做スコトヲ得ヘク若シ然ラストスルモ自己ノ債權ノ實行ヲ怠ルモノナレハ之レカ爲メ徒ラニ清算事務ノ遲滞ヲ來タサシムヘキニ非サルコト自カラ明ナリ故ニ清算人ハ此ノ如キ債權者ハ清算ニ加フルコトナクシテ速カニ清算ヲ結了セシメサル可カラス(後條參照)然レトモ是レ債權者ニ取リ重大ナル制裁ナルヲ以テ特ニ之レカ注意ヲ與ヘ以テ意外ノ損害ヲ蒙ラシメサランコトヲカメサル可カラス於是乎本條第二項ハ右第一項ノ公示中ニ於テ特ニ右ノ如キ制裁アル旨ヲ附記スルヲ要スルモノトナセ

リ  
公告中ノ豫定期間内ニ債權ヲ申出テサル債權者ニ對スル清算除斥ノ制裁ハ清算人カ法人ノ帳簿等ニヨリ知得シタル債權者ニ對シテハ之ヲ加ルノ限リニアラサルナリ蓋シ公告手續ノ立法本旨ハ清算人ヲシテ其知ラサル債權者ヲ知ラシメントスルヲ以テ其已ニ知レル者カ債權ノ申出ヲナササルヲ口實トシ之レヲ清算ヨリ除斥スルハ毫モ理由ナキニヨルナリ是レ即チ本條第二項但書

ノ規定ナリトス

本條第一項及ヒ第二項ニ從ヒ公告ノ方法ニヨリ債權申出ヲ催告スルコトハ清算人ノ知ラサル債權者ニ付テ其必要ヲ見ルニ止マルコト前段ノ説明ニヨリテ明ナリ清算人カ法人ノ帳簿ニヨリテ知リ得タル債權者ニ對シテハ寧ロ清算人ヲシテ直チニ辨濟ヲ爲サシムルカ又ハ各自ニ對シ特別ノ通知ニヨリ債權申出ノ催告ヲ爲サシムルカノ二者其一ニ出ツルヲ至當トナス法律ハ本條第三項ニ於テ特別通知ノ方法ヲ探レリ是レ蓋シ如此スルトキハ債權ノ數額等ニ關シ不明ナル事項ヲ確定スル等清算事務ノ正確ナルコトヲ得ルノ便アルニヨルナリ

清算人カ本條ニヨリテ負擔スル公告ノ義務ヲ怠タリ又ハ不正ノ公告ヲ爲ストキハ後テノ第八十四條第六號ニヨリ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セララルモノトス

第八十條 前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完済ノ後未タ

歸屬權利者ニ引渡ササル財産ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得

(第七十五條解) 本條ハ前條ノ公告中ニ指定シタル債權申出期間内ニ自己ノ債權ヲ申出テサリシ債權者ノ受クヘキ制裁ヲ詳カニスルモノナリ

前條ノ債權申出期間内ニ自己ノ債權ヲ申出テサル債權者ハ清算ニ加ハルコト前條ノ説明ニ於テ已ニ述ヘタルカ如シ又若シ既ニ法人ノ財産ヲ其歸屬權利者ニ引渡シタルトキハ後レテ申出テタル債權者ノ爲メ更ニ財産ヲ取戻シテ辨濟スヘキニアラサルヤ固トヨリ明ナリ然レトモ債權者カ

指定ノ期間ノ經過後ニ申出テタルニ因リ假令法人ノ財産カ他ノ總テノ債務ヲ辨濟シタル上剩餘ヲ生シ且ツ未タ歸屬權利者ニ引渡サレシテ尙ホ現ニ法人ノ財産トシテ存在スルニモ拘ハラズ斷然其債權者ヲ排斥シ其債權ヲ喪失セシムルハ頗ル酷ニ失スルノ嫌アリ且ツ此ノ如キ場合ニ於テ債權者ニ對シ其剩餘財産ニ付キ辨濟ヲ得セシムルモ通常甚シク清算事務ノ結了ヲ遅延セシムル虞レアルニ非サルナリ是ヲ以テ本條ハ前條ニヨリ指定セラレタル債權申出期間ヲ經過シテ申出テタル債權者ハ法人ノ債務ヲ完済シタル後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル剩餘財産アル限りハ其財産ノミニ對シ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ルモノトナセリ故ニ若シ其剩餘財産カ債權額ニ滿タサル時ハ其ハ債權者ノ損失ニ歸スルモノナリ

第八十一條 清算中ニ法人ノ財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分

明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス

清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

(第七十六條) 本條ハ法人ノ清算中ニ於ケル破産宣告ニ關スル規定ナリ法人カ破産ノ爲メ解  
散スルトキハ嚴密ナル破産法ニヨリ其殘務ノ處理ヲ爲スヘキモノナルコト前第七十四條ノ說明  
ニ於テ之ヲ述ヘタリ本條ハ法人カ破産以外ノ事由ニヨリテ解散シタル場合ニ於テ清算人カ清算  
ニ着手シ漸次其貸方借方ヲ取調ヘタル結果法人ノ財産カ到底其債務ノ全部ヲ完済スルニ足ラサ  
ルコトヲ發見シタル場合ニ於テモ亦破産法ニ依リテ其殘務ノ處理ヲ支配スヘキモノトナセリ蓋  
シ法人カ破産ノ狀況ニアルコトヲ確知スルコトノ遲速ニヨリ其殘務ノ處理ヲ支配スヘキ法規ニ  
寬嚴ノ差ヲ生スルノ理ナケレハナリ

本條第一項ニヨレハ清算中法人カ破産ノ狀況ニアルコトヲ發見シタルトキハ清算人ハ遲延ナク  
裁判所ニ對シ破産宣告ノ請求ヲナシ且ツ其旨ヲ公告シ以テ總債權者ニ注意ヲ與ヘサル可カラ  
此請求又ハ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲ストキハ清算人ハ五圓以上二百圓以下ノ  
過料ニ處セラルルモノトス(後テノ第八十四條第五號及ヒ第六號)

右ノ場合ニ於テ破産宣告アリタルトキハ法人ノ殘務處理ハ破産法ニヨリ破産管財人ノ司トル所  
トナルヘキナリ(前第七十四條ノ說明參看)故ニ清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡ササル可  
カラス而シテ此引渡ヲナシタル時ハ以後法人ノ殘務處理ハ破産管財人ノ責任ニ歸スルヲ以テ清  
算人ノ任務ハ爰ニ終ルモノトス是レ本條第二項ノ規定スル所ナリ

清算人ハ必シモ法人ノ財産ノ取調ヲ完了シタル後チニアラサレハ支拂其他ノ處分ヲ爲スコトヲ  
得サルニアラス若シ法人ノ財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルニ充分ナリト信スルキハ適宜ニ債權者

ニ辨濟ヲナシ又ハ歸屬權利者ニ財産ヲ引渡スコトヲ得(然ルニ本條ニ從ヒ清算中ニ法人カ破  
産ノ宣告ヲ受クルニ至リタルトキハ破産管財人ハ清算人カ前ニ其誤信ニヨリテ債權者ニ爲シタ  
ル支拂又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノヲ取戻シ法人ノ財産ヲ解散當時ノ狀況ニ復セシメ破産  
法ノ規定ニヨリ之ヲ總債權者ニ分配セサル可カラズ若シ此取戻ヲ爲スコトヲ許ササルトキハ未  
タ支拂ヲ受ケタル債權者ヲ害スルノ不條理ニ陷ルヘシ是ヲ以テ本條第二項ハ破産管財人ニ右ノ  
取戻權アルコトヲ明定シタリ

### 第八十二條 法人ノ解散及ヒ清算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコト  
ヲ得

(第七十七條) 本條ハ法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ニ關スル規定ナリ法人ノ管理ハ公益ニ關ス  
ル所大ナルヲ以テ主務官廳ノ行政上ノ監督ノ下ニ立ツコト前第六十七條ノ規定スル所ナリ然ル  
ニ法人ノ解散及ヒ其後ニ於ケル清算ノ事ハ場合ニヨリテハ公益ニ關スル所ナキニアラズト雖ト  
モ一般ニハ重モニ利害關係人(法人ノ債權者、債務者、歸屬權利者等)ノ私權上ニ關係スルモ  
ノナリ故ニ此ハ行政政府ノ監督ノ下ニ立タシムヘキ性質ノモノニアラス然リト雖トモ之ヲ清算ニ  
一任セシカ諸種ノ弊害ヲ生シテ利害關係人ヲ害スルニ至ルノ恐れアリ故ニ其解散及ヒ清算ニ付

テモ亦之レカ監督ニ任スヘキ公ノ機關アルヲ必要トス而シテ此場合ニハ主トシテ私人ノ權利ニ關スルヲ以テ私權保護ノ國家機關タル裁判所ヲ以テ其監督ニ適任ナル者トナスナリ是ヲ以テ本條ハ法人ノ解散及ヒ清算ハ裁判所ノ監督ニ屬スルモノトシ裁判所ハ其監督ノ爲メニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得ル者ト定メタリ而シテ此検査ヲ妨クルトキハ後第八十四條第三號ノ制裁アリ

第八十三條 清算力結了シタルトキハ清算人ハ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

清算結了ノ届出

(第七十八條解) 本條ハ法人ノ殘務ヲ處理シ全然之ヲ落着セシメタルトキハ清算人ニ於テ之ヲ主務官廳ニ届出ツヘキ義務アルコトヲ明ニシタルモノニシテ一般ノ行政取締上ノ必要ニ出テタルモノナリ而シテ其趣旨ハ一讀瞭然タルニ因リ別ニ釋說セス

第四節 罰 則

第八十四條 法人ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

一 本章ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 第五十一條ノ規定ニ違反シ又ハ財産目錄若クハ社員名簿ニ不正

ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 第六十七條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ主務官廳又ハ裁判所ノ検査ヲ妨ケタルトキ

四 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

五 第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

六 第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

法人ノ機關ニ對スル罰則

(第七十九條解) 本條ハ法人ノ機關即チ理事(假理事ヲ包含ス)監事又ハ清算人カ其職分ヲ盡ササル場合ニ對スル制裁ヲ規定スルモノナリ

法人ノ事業ハ公私ノ利害ニ關スル所ナルヲ以テ法人ノ機關ヲシテ常ニ細密ニ其職分ヲ守ラシムルニ充分ナル保障アルコトヲ要ス是ヲ以テ本條ハ其職分違反ノ制裁トシテ特ニ過料ナルモノヲ認メ以テ法人ノ機關カ其職分ニ反スルコトナカランコトヲ期セリ然リ而シテ過料ハ刑法上ノ刑罰

ニアラスシテ民事上ノ制裁ニ屬スト雖トモ夫ノ損害賠償ノ如キ純然タル民事上ノ制裁トハ少シク其趣ヲ異ニシ匪行者ヲシテ痛苦ヲ感セシムルノ目的ヲ有スルモノナリ故ニ過料ハ一種特別ノ民事上ノ制裁ナリト云フヘシ去レハ此制裁ハ他ノ民事上若クハ刑法上ノ制裁ト併行スルコトヲ得ルモノナリ

過料ハ痛苦ヲ感セシムルヲ以テ目的トスル制裁ナルヲ以テ之ヲ科スヘキ場合ヲ列舉シ以テ濫用ノ弊ヲ防カサル可カラサルコト猶ホ刑法上ノ刑罰ニ於ケルカ如シ本條ハ此理ニヨリ過料ニ處スヘキ六個ノ場合ヲ列舉シタリ故ニ此等ノ外ニ於テハ過料ノ制裁ヲ加フルコトヲ得サルモノトス

過料處分ノ手續ニ付テハ本法別ニ定ムル所ナシ蓋シ此ハ他ノ特別法ノ定ムル所ニ從ハシムルノ意ナラン(商法第二百六十一條ヲ參考スヘシ)  
本條列舉ノ各號ハ一讀明瞭ナリト信スルヲ以テ爰ニ之ヲ贅セス

### 第三章 物

物ノ私權ノ客體ナリ

(第百八十條) 凡ソ私權ハ(單純ナル身分權ヲ除クノ外) 金錢ニ打算シ得ルヲ以テ常トス此金錢ニ打算シ得ルモノノ大部分ハ直接若クハ間接ニ物ヲ以テ其目的(客體)トナス即チ物權ハ總テ物ノ上ニ存シ債權ハ多ク物ニ關スル行爲ヲ以テ其目的トナス然リ而シテ法學上ニ於テ物ノ事ヲ研究スルハ其私權ノ目的トナルニ由ルナリ若シ私權ノ目的トナラザラカ物ハ法學上ニ於テハ

物ノ意義

之ヲ研究スルノ價值ナキナリ

(第百八十一條) 法律上所謂物ト物理学上所謂物トハ心スシモ同一ニ出スル者ニ非スト雖トモ(或法制ニ依レハ物理学上ノ物ニアラサルモノヲ無體物ト名ケテ法律上之ヲ物ノ一種トナス後ノ第八十五條ノ説明ヲ參看スヘシ) 前者ノ定義ハ全ク物理学上ノ定義ヲ離レテ之ヲ下スコトヲ得ス即チ吾人カ物理学上ニ於テ物ト認ムルモノハ概チ法律上ニ於テモ同ク物ナリ雖トモ專用(他人ヲ排斥シテ獨リ專ラ其物ヲ利用スルコト)ヲ容サル物ハ私權ノ目的タルコトヲ得サルヲ以テ法律上ニ於テハ物ニアラサルナリ(例之星空氣光線ノ如キ之ナリ) 是レ前ニ述ヘタルカ如ク法律上ニ於テハ物ヲ私權ノ目的トシテ觀察セサルヲ得サルニ由ルナリ是ヲ以テ法律上所謂物トハ吾人ノ感官ニ觸ルヘキ自然界ノ一部ニシテ吾人ノ專用シ得ヘキモノナリト謂フヘシ

法律上ニ影  
響スル物ノ  
性質

(第百八十二條) 物ハ觀察點ヲ異ニスルニ從ヒ種々ニ區別スルコトヲ得舊民法ニ於テハ物ノ種類ニ付テ細密ナル規定ヲ設ケタリト雖トモ(舊民法財産編第五條以下) 學理上殆ント疑義ナキ區別迄ヲモ記載セシカ爲メ條文煩雜ニ過キテ法典ノ體裁ヲ失スルノ嫌アルヲ以テ本法ハ疑義ヲ生スル恐アリ且ツ實際上適用多キ場合ノミヲ規定シ其他ハ之ヲ學說ニ委テタリ(本法第八十五條以下參照) 左記ノ諸項ハ右本法ノ規定ト學理トニ基ク法律上重要ナル區別ナリトス

(イ) 融通物、不融通物、物ハ法律的交通(即チ取引)ノ目的トナルコトヲ得ルモノト然ラサルモノトアリ前者ヲ融通物ト云ヒ後者ヲ不融通物ト云フ前ニ述ヘタル專用ヲ容ササル物ハ當然不融通物ナリ又縱令專用ヲ容ス物ト雖トモ法律規定ノ結果トシテ不融通物タルモノナリ例

之公有物國用道路城砦官廳ノ建物ノ如シ其他法律上處分ヲ禁セラレタル軍器彈藥亞片等ノ如シ

- (ロ) 動産、不動産 自力又ハ他力ニ因リテ遷移スルヲ得ルモノハ動産ニシテ然ラサルモノ(及ヒ其定著物)ハ不動産ナリ(其詳細ハ第八十六條ノ說明ニ讓ル)
- (ハ) 代替物、不代替物 一般ノ取引ノ習慣上數量及品質ノミニ重キヲ置キ各個ニ重キヲ置カサルモノヲ代替物ト云ヒ之ニ反スルモノヲ不代替物ト云フ酒米ノ如キ物ハ前者ノ例ニシテ家屋土地ノ如キハ後者ナリ
- (ニ) 特定物、不特定物 或法律行為ヲナスニ當リ其目的ヲ個々ニ指定セラレタル時ハ即チ其物ハ特定物ナリ例之第何番地ノ土地、家屋第何號倉庫所藏ノ酒米ト云フカ如シ其然ラサルモノハ不特定物ナリ此ノ如ク本項ノ區別ハ當事者ノ指定(意思)ニヨリテ生スル者ナルカ故ニ決シテ前項ノ區別ト之ヲ混同スヘカラス
- (ホ) 消費物、非消費物 此兩者ノ區別ハ其物ニ持續性アルヤ否ヤニヨリテ定マルモノニシテ其物ノ自然ノ用方ニ從ヘル一回ノ使用ニヨリ忽チ形體ヲ失フモノハ即チ消費物ナリ之ニ反スルモノハ非消費物ナリ醬油酒ノ如キハ以テ前者ノ例トナスヘク家屋土地ノ如キハ以テ後者ノ例トナスヘシ
- (ヘ) 組成物、單成物 組成物トハ數多ノ材料結合シテ一物ヲ成シ而カモ其材料カ各個固有ノ性質ヲ失ハサル者ヲ云ヒ單成物トハ其結合材料カ各個固有ノ性質ヲ失ヒテ別個ノ一體ニ化シタ

本法ニ所謂物ノ意義

- (ト) 可分物、不可分物 分割シ得ヘキ物ハ可分物ニシテ然ラサル物ハ不可分物ナリ夫物ノ分割ニ有形的ト無形的トノ差アリ有形的分割トハ即チ其物固有ノ價值本質ヲ變滅セスシテ分ツコトヲ云フ土地米油ノ如キハ有形的可分物ニシテ馬牛ノ如キハ有形的不可分物ナリ無形的分割トハ思想上ノ分割ナリ例之共有者ノ持分ハ無形的分割ノ結果ナルカ如シ(本法第二百四十九條及第二百五十條參照) 此無形的分割ハ有形的不可分物ニ對シテ適用スルヲ得ルヲ以テ不可分物ノ區別ハ有形的ノ分割ヲ容ヌヤ否ニアリ(可分不可分ノ區別ハ權利ニモ亦適用アリ即チ地役權一致的繼續セサル) 行為不行爲ニ就テノ債務ノ如キハ性質上不可分ナリ此他當事者ノ意思ニ因ル不可分債務(本法第四百二十七條及第四百二十八條參照) 及ヒ法律上ノ不可分債務アリ(本法第二百九十六條第三百五十五條第三百五十七條及第三百七十二條參照)
- (チ) 主物、從物 此區別ハ物ト物トノ間ニ主從ノ關係アルニヨリテ生ス(詳細ハ第八十七條說明ニ讓ル)

### 第八十五條 本法ニ於テ物トハ有體物ヲ謂フ

(第八十三條解) 本條ハ本法中ニ所謂物トハ如何ナル意義ヲ有スルカヲ明示スルモノナリ(舊民法財編第六條參照)

本條ニ依レハ本法中ニ所謂物トハ有體物ノ謂ナリ而シテ有體物トハ吾人ノ感官ニ觸ルル自然界



ノ一部ナルカ故ニ物理學上ニ於ケル物ノ意義ト同一ナリ但タ私權ノ目的トナルコトヲ得サル性質ノ有體物(即チ專用ヲ容ササル物)ハ本法ニ所謂物ノ中ニ入ラサルヤ明カナリ是レ法ニ明文ナシト雖トモ法理上當然明カナル所ナリ

夫レ如此本法ニ所謂物ノ意義ハ物理學上ニ於ケルト同一ナル以上ハ恰カモ人ノ意義ヲ成法中ニ明示スルノ必要ナキト等シク特ニ法條ヲ設ケテ其意義ヲ明言スルノ必要ナキニ似タリ然ルニ本條カ特ニ之ヲ明言スルハ抑モ亦如何ナル理由アリテ存スルカ曰ク是レ全ク舊民法ノ規定ノ不當ヲ正シ本法ニ所謂物トハ常ニ一定ノ意義ヲ有スルコトヲ明カニシ以テ誤解ヲ生スルコトナカラシメントスルニアリ即チ舊民法財產編第六條ハ物ニ有體物無體物ノ二種アリトシテ無體物トハ諸種ノ財產權及ヒ財產及ヒ債務ノ包括ノ如キ吾人ノ感官ニ觸ルル者ニアラスシテ單ニ吾人ノ智能ニヨリテ理會シ得ヘキモノヲ指スモノト規定セリ夫レ如此規定ハ人ヲシテ財產權ハ一般ニ權利ノ目的トナルコトヲ得ヘシトノ誤想ヲ抱カシメ(從テ所有權ニ付テノ所有權債權ニ付テノ所有權ヲ認ムルカ如キ奇異ナル決論ヲ生セシメ)又ハ財產及ヒ債務ノ包括ハ其各個ノ財產若クハ各個ノ債務ト法律上別異ノ存在ヲ有スヘシトノ誤解ニ陥ラシムル嫌アリテ爲メニ權利及ヒ物ノ理解ヲ複雜ナラシムルモノナリ故ニ現行民法ハ本法ニ所謂物ノ意義ハ舊民法ノ如ク無體物ヲ包含セサルコトヲ明カニスルノ必要ヲ認メ特ニ本條ヲ設ケタルモノナリ

ナルコトアルヲ認メタリ(例ヘハ本法第三百六十二條以下所定ノ權利質ノ如シ)又債權ノ目的ハ常ニ人ノ作爲ナルコト債權編ノ規定ニ由リテ明瞭ナリトス

### 第八十六條 土地及ヒ其定著物ハ之ヲ不動産トス

此他ノ物ハ總テ之ヲ動産トス

無記名債權ハ之ヲ動産ト看做ス

(第八十四條) 本條ハ動産及ヒ不動産ノ區別ヲ定ムルモノナリ(舊民法財產編第七條乃至第十四條同第三百四十六條第二項債權擔保編第一百二條第三項參照)

凡ソ物ニハ其形體實質ヲ減損スルコトナク自力又ハ他力ニヨリ其位置ヲ變スルコトヲ得ルモノト否ラサルモノトノ別アリ故ニ羅馬法以來主トシテ此區別ヲ標準トシ動産ト不動産トヲ分チタリ然リト雖トモ此ノ如クナルトキハ不動産ハ唯タ土地ノミナリト云ハサル可カラス(地球カ軌道ヲ廻轉スルカ如キハ茲ニ所謂位置ヲ變スルノ中ニ入ラサルヤ論ナシ)何トナレハ地上ノ物ハ多少難易ノ別アリト雖トモ皆自力又ハ他力ニヨリ遷移スルコトヲ得ルヲ以テナリ然ルニ假令ヒ全ク動カスコトヲ得サルニアラサルモ之レヲ動カスコト甚タ難キ物ハ實際ノ必要上之ヲ不動産ト視サヲ得サルヲ以テ各國ノ立法例及ヒ學說ハ土地ノ外尙ホ土地ト密着シテ容易ニ動カシ難キ物ヲ以テ不動産トナセリ本條モ亦此例ニ倣ヒ土地ノ外ニ於テ土地ト密着ノ關係ヲ有スル物ヲ

以テ不動産トナスノ主義ヲ採用セリ然ルニ如何ナル物ヲ以テ土地ト密着ノ關係ヲ有スルモノト  
視ルヘキヤハ稍々困難ナル問題ニ屬スルモノナリ或ハ動産不動産タルヘキ物ヲ例舉シ之ヲ例示  
スル法制アリト雖トモ(舊民法佛國民法ノ如シ)如此ハ徒ラニ法文ヲ煩雜ナラシメ其例舉ニ漏  
レタルモノニ付キ疑ヲ生スルコトヲ防止スルニ足ラサルモノナルカ故ニ採用スヘカラサルナリ  
故ニ本條ハ單ニ土地及ヒ其定著物ハ不動産ナリトノ包括的規定ヲ設ケ以テ執法者ノ各場合ニ於  
ケル推斷ノ標準ヲ示スニ止メタリ

不動産

(第百八十五解) 本條第一項ニ依レハ不動産タル物ハ第一土地ナリ而シテ土地ハ元ト地球表面  
上ノ一區畫ナリト雖トモ法律上ニ於テハ土地ノ表面ハ勿論其表面以上ノ空間及ヒ其表面以下ノ  
土壤ヲモ亦其中ニ包含セラルルモノトス(本法第二百七條參照)次ニ不動産タルヘキ物ハ土地ノ  
定著物ナリ土地ノ定著物トハ人工又ハ天然ニ又直接間接ニ土地ニ固著シテ不動ノ状態ニアル物  
ヲ云フ故ニ或ル物カ土地ノ定著物ナルヤ否ヤ識別スルニハ其物ト土地トノ事實上ノ關係ニ依ラ  
サル可カラス其物ト土地トカ同一ノ所有者ニ屬スルヤ否又其物ヲ土地ニ定著セシメタル者ノ何  
人ナルヤノ如キハ敢テ問フヲ要セサルナリ今例ヲ以テ土地ノ定著物ヲ示セハ地上若クハ地下ノ  
水、礦物、水管、瓦斯管、建物、建物ノ定著物(戸扉ノ類)塙籬、柵、水車、土手、橋梁、樹  
木、樹木ノ菓實等ノ如キナリ單ニ地面ニ置キ地上ニ止マリ又ハ地中ニ埋メタルノミニテ固著ノ  
状態ナキ物ハ土地ノ定著物ニアラサルヲ以テ例ヘハ土地上ニ在ル動物、埋メタル寶玉、假埋メ  
シタル樹木、番小屋、足場ノ類ハ不動産ニアラサルナリ

動産

(第百八十六解) 右ニ述ヘタル土地及ヒ土地ノ定著物以外ノ物ハ動産ナリ是レ本條第二項ノ明  
定スル所ナリ然リ而シテ土地ノ定著物ハ若シ其定著ノ關係ヲ絶止シ土地ヨリ分離シタルトキハ  
不動産タルノ性格ヲ失ヒ動産トナルヤ論ヲ俟タルナリ例ヘハ伐採シタル樹木收穫シタル果  
實、取毀チタル建物ノ如キハ動産ナリ

動産不動産ノ區別ハ物ニ付テノ區別ナリ而シテ物トハ有體物ヲ指スヲ前條ノ規定スル所ナリ故  
ニ此區別ハ之レヲ權利ニ適用ス可カラサルナリ(次解參看)然レトモ法律ハ實際ノ便宜上ヨリ  
シテ此點ニ付キ唯一ノ例外規定ヲ設ケタリ本條第三項即チ是レナリ同項ニヨレハ無記名債權ハ  
動産ト看做ス夫レ無記名債權ハ本來無形ナルヲ以テ動産不動産ノ區別ニ入ルヘキモノニ非ラス  
然レトモ該債權ノ成立效用(讓渡質入等)及實行ハ其債權證書ノ作製處分及ヒ呈示ヲ必要トス  
ルモノナリ從テ該債權ノ價值ハ證書ニ密著シ債權ハ之レト其運命ヲ共ニスルヲ以テ本則トナス  
(無記名債權ニ付テノ詳細ナル説明ハ之ヲ債權編ノ講述ニ讓ル、本法第四百七十二條參看)是ヲ  
以テ實際論トシテハ證書即チ債權ナリト云フモ敢テ不可ナキナリ是レ本條カ無記名債權ヲ動産  
ト看做シ以テ之ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケシメントスル所以ナリ(即チ無記名債權ハ債權ナル  
ニハ相違ナシト雖トモ其得喪ニ關シ動産ノ規定ヲ適用スヘキナリ)

(第百八十七解) 動産不動産ノ區別ハ古來各國法制ノ認ムル所ナリ而シテ此區別ノ原因ヲ釋ス  
ルニ動産ヲ輕ンシ不動産ヲ重シト思惟シタルニ職由スルカ如シ然レモ若シ如此區別カ單ニ動産  
不動産ノ輕重ノミニ因ルモノトセハ今日ニ於テハ亦昔日ノ如ク重要ナルモノト云フ可カラス何

動産不動産  
ノ區別ノ必  
要ナル理由

トナレハ今日ニ於テハ動産ノ富漸ク廣大トナリ往往不動産ニ優ルノ觀アレハナリ然ルニ今尙ホ此區別ヲ放棄セスシテ之ヲ重要視スルハ抑モ亦理由アリテ存スルナリ何ソヤ曰ク不動産ハ一定不動ノ所在ヲ有スルモ動産ハ其所在常ニ不確定ニシテ移動常ナキカ故ニ兩者ハ法律上ニ於ケル移動轉換ノ方法手續其他諸般ノ法律上ノ事項ニ付キ(例ヘハ能力、讓渡ノ公示方法、先取特權、質、抵當、時效、裁判管轄、差、押方法、國際私法ニ關シ)別異ノ取扱ヲ必要トスルコト勘カラサルニ因ルナリ

舊民法トノ比較

(第百八十八解) 今本條ト舊民法ノ動産不動産ノ區別ニ關スル規定(舊民法財産編第七條乃至第十四條)トヲ對比スルニ其間著シキ差異アルコトヲ發見スヘシ予輩ハ茲ニ其差異ヲ詳論スルノ時間ト餘白トヲ有セサルニヨリ其最モ顯著ナルモノノミニ就テ一言シ以テ讀者ノ注意ヲ促スニ止メン

舊民法ハ動産不動産ノ區別ヲ權利ノ上ニ迄及ホシタリ(舊民法財産編第十三條第十四條)是ノ如キハ或ル特別ノ場合ニ於テ便利ナリト雖トモ(例ヘハ訴訟上ノ強制執行ニ關シ民事訴訟法第六編第二章參看)又ハ遺贈ニ關シ(即チ一人カ其資産ノ中動産ヲ甲者ニ不動産ヲ乙者分ニ與スト云ヘル場合)敢テ一般ニ該區別ヲ以テ權利ノ上ニ及ホスノ必要ナキナリ故ニ本法ハ動産不動産ノ區別ハ原則上物即チ有體物ノミニ限り權利ニ付テハ其適用ナキモノトナシタリ而シテ若シ場合ニヨリ權利ヲ動産若クハ不動産ト同一ニ取扱フヘキ必要アルハ特ニ相當ノ規定ヲ設ケ之ヲ明示スルノ方針ヲ採リタルコト敢テ疑ナキナリ

又舊民法ハ動産及不動産ノ一種トシテ用法ニヨル動産及ヒ不動産ナル者ヲ認メタリ(舊民法財産編第九條及第拾二條)然ルニ本法ハ全ク之ヲ認メサルナリ抑モ舊民法カ用法ニ因ル不動産ヲ認メタル理由ハ不動産ノ處分ハ用法ニヨル不動産ノ處分ヲ包含セシムルノ必要ニアリテ存スルナリ然レトモ此必要ニ應スルニハ物ノ主從ノ關係(次條參看)ヲ認ムルヲ以テ足レリ(舊民法財産編第拾五條參照)何ソソ殊更ラニ自然ノ狀態ニ反シテ用法ニヨル不動産ト云フカ如キ奇異ナル者ヲ認ムルヲ要センヤ況ンヤ如此ハ本邦ノ慣習ニ反スルノミナラス近時ノ立法ニ於テ其例ナキニ於テヤ故ニ本法カ之ヲ刪除シタルハ正當ト云ハサルヲ得サルナリ又所謂用法ニ因ル動産ナル者ハ從來之ヲ認ムルノ例ナク又理論上全ク根據ナキノミナラス毫モ實際上ニ用ナキ贅物ナルコト一般學者ノ定論ナリ本法カ之レヲ削去シタルハ寧ロ當然ノ事ニ屬スルナリ

第八十七條 物ノ所有者カ其物ノ常用ニ供スル爲メ自己ノ所有ニ屬スル他ノ物ヲ以テ之ニ附屬セシメタルトキハ其附屬セシメタル物ヲ從物トス

主物、從物

從物ハ主物ノ處分ニ隨フ

(第百八十九解) 本條ハ主物、從物ノ區別ニ關スル規定ナリ(舊民法財産編第十五條第四十一條第二項參照)

從物ハ通常主物ノ處分ニ從フヲ以テ主物從物ノ區別ハ法律上實ニ重要ナルモノナリ然ルニ主物從物ノ性質ニ付テハ學說及ヒ立法例未タ全ク一定ニ歸シタリト云フヲ得ス是ヲ以テ特ニ法條ヲ設ケテ其性質ヲ明ニスルノ必要アリ然リ而シテ本條ハ單ニ汎ク主物從物ノ何タルヤヲ識ルノ標準ヲ示スニ止メ舊民法財產編第拾五條第二項カ用法ニ因ル不動產ヲ以テ委ク從物トナシタル例ニ倣ハサルナリ蓋シ舊民法ノ如クスルトキハ本邦ノ慣習ニ背キ不測ノ結果ヲ生スルノ虞アルニ因ルナリ

夫レ主物トハ他物カ之レニ對シテ從タル關係ヲ有スル物ナリ故ニ從物ノ性質ヲ明ニスルトキハ主物ノ何タルヤハ自カラ瞭然タリ是レ本條第一項カ從物ノ性質ヲ明定スル所以ナリ今之レニ依リテ從物タルニ必要缺ク可カサル條件ヲ示セハ即チ左ノ五アリ

- (一) 一個獨立ノ物ナルコト 羅馬法ニヨレハ從物ニ添付物及ヒ附屬物ノ二種アリ前者ハ物ト物質的ニ固著シ其現實ノ一部分ヲ爲スモノニシテ後者ハ敢テ主物ノ一部分トナルコトナク之レニ附從スル一個獨立ノ物ナリ而シテ外國ニ於テハ今日ニ於テモ尙ホ右羅馬法ニ倣ヒ從物中ニハ此二種ヲ包含スル者ト爲スモノアリ然レトモ或ル物ノ一部分ヲ組成スル添付物カ其物ト法律上ノ運命ヲ共ニスルハ其物ノ組成分子ナルカ故ナルヲ以テ之ヲ從物トシテ其物ノ處分ニ從フヘキコトヲ示スハ理論ノ正鵠ヲ得タリト云フ可カラス故ニ本條ハ最近ノ立法例及學說ニ從ヒ從物トハ一個獨立ノ存在ヲ有スル物ノミヲ指スコトトナセリ例之時計ノ鎖 硯ノ蓋ノ如キハ一個獨立ノ存在ヲ有スルヲ以テ從物ナリト雖トモ時計ノ蓋 未タ收獲セサル樹木ノ果實ハ

其時計又ハ樹木ノ一部分ナルカ故ニ從物ニアラサルナリ

- (二) 主物ニ附屬スルコト 所屬附從ノ意ノ關係ナキトキハ從物ニアラス例ヘン三幅對ノ掛物ノ如キハ互ニ或ル關係ヲ有スト雖トモ其間附屬ノ關係ナキカ故ニ從物ニアラス反之家屋ニ備付タル疊ノ如キハ其家屋ノ從物ナリ

- (三) 右附屬ノ關係ハ主物ノ常用ニ供セラルル爲メナルコト 他ノ物ノ用ニ供セラルルトハ其物ノ效用ヲシテ完カラシムルノ謂ニシテ其物ノ利用、便益、若クハ粧飾ノ爲メナルトヲ問ハサルナリ然リ而シテ從物ハ主物ノ常用ニ供セラルヘキ物ナルヲ以テ單ニ一時ノ目的ノ爲メニ他ノ物ノ用ニ供セラルル物ハ從物ニ非サルナリ例ヘハ家屋ニ備付ケタル疊建具ノ如キハ家屋ノ常用ニ供セラルル物ナレハ從物ナリト雖モ家屋中ニ備付タル戸柵、椅子、机ノ如キハ家屋ノ常用ニ供セラルルモノニアラサルヲ以テ從物ニアラサルナリ又從物ハ他ノ物ノ用ニ供セラルル性質ヲ有スヘキニヨリ單ニ其物ノ所有者一身ノ便益等ノ爲メニ附屬セシメタル物ハ從物ニアラサルナリ例ヘハ時計ニ附屬セシメタル小印ノ如キハ時計ノ用ニ供セラルル物ニアラサルヲ以テ從物ニアラサルナリ然レトモ從物ハ必スシモ動產タルコトヲ要セス不動產ト雖トモ他ノ不動產ノ從物タルコトナシトセス例ヘハ土地ノ定著物タル建物ノ支柱ハ土地ノ定著物ニシテ而カモ其建物ノ從物ナルカ如シ(但シ動產ノ從物タル不動產ハ實際ニ於テ之レナカルヘキナリ)

- (四) 主物ト所有者ヲ同クスルコト 主物從物ノ區別ノ實用ハ專ラ從物ヲシテ主物ノ處分ニ從ハ

シムルニアリ然ルニ若シ此兩者カ其所有者ヲ異ニスルトキハ此目的ニ適セサルナリ是レ此要件アル所以ナリ

(五) 主物從物ノ所有者ニヨリ主物ノ常用ニ供セラルル爲メ之ニ附屬セシメラレタルコト 故ニ例ヘハ賃借人カ賃借物ノ常用ニ供スルカ爲メ賃貸人ノ所有物ヲ附屬セシムルモ此兩物間ニ主從ノ關係ヲ生スルモノニアラサルナリ

(第九十條) 右ノ如ク從物ハ主物ノ常用ニ供セラレ之レニ附屬スルモノナルヲ以テ法律的交易上(即チ取引上)ニ於テ恰カモ主物ノ一部分ナルカ如ク看做シ主物ノ處分ハ從物ニ及フモノトナスハ實際上多クノ場合ニ於テ當事者ノ意思ニ適合スルナリ是ヲ以テ本條第二項ハ從物ハ主物ノ處分ニ從フト定メタリ故ニ例ヘハ主物ヲ讓渡シ若クハ質入スルトキハ從物モ亦共ニ讓渡シ若クハ質入シタルモノトナルナリ夫レ然リト雖トモ此規定タルヤ多クノ場合ニ於ケル當事者ノ意思ヲ推定シ之ニ因リテ制定セラレタルモノナルヲ以テ若シ當事者カ反對ノ意思ヲ表示スルカ又ハ其場合ニ付キ反對ノ慣習アリテ當事者カ之ニ依ルノ意思ヲ有シタルトキハ之レヲ適用セシテ其意思ニ依ルヘキコト固ヨリ明ナリ要スルニ此規定ハ當事者ノ意思ノ分明ナラサル場合ニ對スル解釋ノ標準ヲ示スニ過キサルナリ

### 第八十八條 物ノ用方ニ從ヒ收取スル產出物ヲ天然果實トス

物ノ使用ノ對價トシテ受クヘキ金錢其他ノ物ヲ法定果實トス

### 果實

(第九十一條) 本條及次條ハ果實ニ關スル通則ナリ殊ニ本條ハ果實ノ何物ナルヤヲ規定スルモノナリ

果實トハ一般ニ之ヲ解スルトキハ物ノ產出物ナリ然レトモ法律上ニ於テハ尙ホ物ノ產出物ニアラサルモ之レト同一視スヘキモノハ亦之レヲ果實トナスナリ於是乎法律上ニ於テハ天然果實ト法定果實トノ區別ヲ生ス

### 天然果實

天然果實トハ物ノ用法ニ從ヒ收取スル產出物ナリ是レ本條第一項ノ定ムル所ナリ依是觀之天然果實ハ

(一) 物ノ產出物ナリ 產出物トハ或ル物(元物)ヨリ生シタル自然物ニシテ未タ人工ヲ經サル物ヲ云フ故ニ製作物ニ對スル意ナリ例ヘハ綿花ハ產出物ナリト雖トモ之レニ人工ヲ加ヘテ作リタル綿糸ハ製作物ニシテ產出物ニアラサルナリ又產出物ハ有機的ナルモノアリ又物理的ナルモノアリ樹木ノ果實禽獸ノ子ノ如キハ有機的產出物ニシテ鑛山ヨリ出ツル鑛物ノ如キハ物理的產出物ナリ

(二) 物ノ用方ニ從ヒ收取スル產出物ナリ 即チ天然ノ力ニ依ルト多少人力ヲ加ルトヲ問ハス其物ノ用方ノ自然ノ順序ニ從ヒ採取スルコトヲ得ヘキ物ナラサル可カラサルナリ故ニ例ヘハ大風ノ爲メ吹折ラレタル樹枝ハ果實ニアラス反之年年採取スヘキ小枝ハ果實ナリ又耕作用ノ田畑ヨリ採取シタル米麥ノ如キハ果實ナリト雖トモ其地中ニ井ヲ穿チ偶然掘出タル鑛石ノ如キハ果實ニアラサルナリ

右ノ二要件ヲ具備スル物ハ即チ天然果實ナリ從來ノ學說中ニハ右二要件ノ外尙ホ定期ニ採取シ得ヘキコト及ヒ元物ノ原質ヲ害セスシテ採取シ得ヘキコトヲ以テ天然果實ノ要件トナスモノアリト雖本法ハ之ヲ採用セサルナリ抑モ此二件ハ天然果實ノ通常備フル所ナリト雖トモ之レヲ以テ其必要缺クヘカラサル要素ト爲スハ不可ナリ何トナレハ例ヘハ彼ノ鑛山ヨリ産出スル鑛物ノ如キハ此二件ヲ缺クト雖トモ天然果實タルコト敢テ疑ナケレハナリ以上ノ説述ニヨリ天然果實ノ何物ナルヤヲ明ニシタリト信スルヲ以テ次ニ法定果實ノ説明ニ移ラン

法定果實

本條第二項ニ依レハ法定果實トハ物ノ使用ノ對價トシテ受クヘキ金錢其他ノ物ナリ之ヲ換言スレハ法定果實ハ物ヲ使用スル者カ使用ノ利益ニ代ヘテ與フル所ノ物ナリ例ヘハ貸金ノ利息借家料小作米等ノ如キナリ如此法定果實ハ物ノ使用ノ對價タル性質アルヲ要スルヲ以テ單ニ好意上ヨリ與フル謝禮ト見ルヘキ物ハ法定果實ニアラス又法定果實ハ金錢其他ノ物ナルヲ以テ勞力ノ如キハ假令ヒ物ノ使用ノ對價トシテ之ヲ供スルモ法定果實ニアラサルナリ

第八十九條 天然果實ハ其元物ヨリ分離スル時ニ之ヲ收取スル權利ヲ有スル者ニ屬ス

法定果實ハ之ヲ收取スル權利ノ存續期間日割ヲ以テ之ヲ取得ス

果實ノ取得

(第九十二條) 本條ハ果實收取權利者ニ變更ヲ來シタル場合ニ於ケル果實ノ所屬ヲ定ムルモノナリ(舊民法財産編第五十條、第五十二條、乃至第五十四條、第二百二十六條、第二百五十七條

第二項 第九十四條第一項參照)

果實ヲ收取スルコトヲ得ル權利者(果實權利者ト稱ス)ノ何人ナルヤハ各場合ニ付テノ法律規定ニヨリテ定マルモノナリ(例ヘハ元物ノ所有者小作人賃借人占有者ノ如シ)然リ而シテ此等ノ果實權利者ノ變更シタル場合ニ於テ果實カ前權利者ニ屬スヘキヤ將タ後ノ權利者ニ屬スヘキヤハ重要ナル問題ニ屬スルナリ本條ハ此點ニ就キ天然果實ト法定果實トノ間ニ區別ヲ設ケタリ乞フ先ツ天然果實ニ關スル規定ヲ究メン

夫レ天然果實ハ元物ノ產出物ナルヲ以テ其未タ元物ヨリ分離セサル間ハ元物ノ一部分ニ過キスシテ獨立ノ存在ヲ有スル物ニアラサルナリ故ニ其未タ分離セサル間ハ果實權利者ト雖トモ之レカ所有權ヲ取得スルコトヲ得サルヤ條理上明ナリ是ヲ以テ果實權利者ハ果實カ元物ヨリ分離スル時ニ於テ初メテ其果實ノ所有權ヲ得テ其迄ニ果實權利者ニ變更ヲ來シタルトキハ其分離スル時現ニ果實權利者タル者ニ於テ其果實ノ所有權ヲ取得スヘキモノト爲ササル可カラス是レ本條第一項ニ於テ天然果實ハ其元物ヨリ分離スル時ニ之ヲ收取スル權利ヲ有スル者ニ屬スト規定スル所以ナリ故ニ例ヘハ甲者カ乙者ノ不動産ヲ善意ニテ占有セシニ(故ニ甲者ハ本法第八十九條第二項ニヨリ果實權利者ナリシナリ)未タ果實ヲ分離セサル前ニ乙者ノ請求ニヨリ其不動産ヲ返還セシ場合ニ於テハ其果實ハ甲者ニ屬セスシテ乙者ニ屬スルナリ(乙者ハ本法第二百

六條ニヨリ果實權利者ナリ）然リ而シテ果實ノ元物ヨリ分離スルハ自然ニヨルト人力ニヨルト又其分離者カ果實權利者ナルト否ト又其果實カ充分ニ成熟セルト否トヲ問ハサルナリ（舊民法財産編第五十二條第百二十六條第百九十四條カ此點ニ付キ種種ノ區別ヲ設クルハ實際上ノ煩雜ヲ來タスノ虞アリ且ツ理論上ノ根據ナキモノト云ハサルヲ得ス）

注意ノ爲メ一言センニ右ニ説明シタル本條第一項ノ規定ハ只タ果實權利者變更ノ場合ニ於ケル果實ノ所有權所得者ヲ定メタルニ過キササルヲ以テ前後ノ果實權利者相互間ニ於ケル（債權的）法律關係ハ一般ノ原則ニ從ヒテ定マルモノナリ故ニ例ヘハ前果實權利者カ果實成熟ノ爲メ勞力ト費用トヲ費シタルニ拘ハラズ果實ヲ收取セザリシトキハ後チノ果實權利者即チ果實ヲ收取シタル者ニ對シ本法第七百三條以下ノ規定ニヨリ不當利得ノ返還ヲ請求スルヲ得ヘキナリ  
次ニ法定果實ニ就テ説カン夫レ法定果實ハ元物ノ使用ノ對價物ナリ故ニ初ヨリ元物ト分離シテ獨立ナルモノト云フ可ク且ツ日々遞加スルモノト云ハサル可カラス是ヲ以テ法定果實權利者ニ變更アリタル場合ニハ各權利者ハ其權利ノ存續中ニ其對價物ノ利益ヲ受クルモノトナスヲ以テ最モ適當ナル法理トナス是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ故ニ例ヘハ一ヶ月十五圓ノ家賃ナル家屋ヲ或ル（小ノ月ト假定ス）月ノ二十日ニ讓渡シ其月末ニ至リ讓受人カ全月ノ家賃ヲ受取リタルトキハ内十圓ヲ讓渡人ニ分與セサル可カラス（賣買ノ時ハ本法第五百七十五條ノ特例アリ）

### 第四章 法律行為

法律行為ハ法的事實ノ一ナリ

私權ノ發生及ヒ取得ノ差異

私權ノ取得

（第九十三條） 本章ニ於テハ一般ノ法律行為ニ關スル通則ヲ網羅スルモノナリ夫レ法律行為ハ私權ノ發生、變更、及ヒ消滅ノ原因即チ法的事實ノ一ナリ故ニ之レニ關スル事項ヲ明カニセント欲セハ先ツ法的事實一般ニ付テ説カサル可ラス而シテ法的事實ヲ明カニセント欲セハ勢ヒ私權ノ發生、變更及ヒ消滅ノ事ヲ究メサル可カラス是ヲ以テ予輩ハ先ツ私權ノ發生、變更及ヒ消滅ニ關シ述フル所アラントス

（第九十四條） 私權ノ發生、變更及ヒ消滅ハ法律ニ於テ其原因トシテ認めタル事實ノ實際ニ起生シタルニヨリテ成ルモノナリ

私權ノ發生トハ一ニ私權ノ創設トモ稱スヘキモノニシテ新ニ私權ノ生スルヲ云フナリ之レニ似テ非ナルモノアリ即チ權利ノ取得是レナリ私權ノ取得トハ私權カ一定ノ權利主體（法律上ノ人格ヲ有スル者即チ人及ヒ法人）ニ附屬スルヲ云フ故ニ私權ノ發生ト混同スヘカラス何トナレハ私權ノ發生アルトキハ必ラスヤ其私權ノ取得アルコト固トヨリ明ナリト雖トモ私權ノ取得アレハトテ必スシモ私權ノ發生伴フモノニアラサレハナリ（即チ私權ノ移轉ノ場合ニ於テハ私權ノ取得アルモ其發生アルニアラス）

依是觀之私權ノ取得ハ或ハ（第一）私權ノ發生ト同時ナルアリ（例ヘハ物ノ先占）或ハ（第二）既ニ發生シテ現ニ存續スル私權ニ係ルコトアリ更ラニ後者ニ在リテハ取得ノ結果或ハ（甲）取得

者ノ權利カ前權利者ノ權利ニ關係アル場合アリ故ニ此場合ニ於テハ取得者ハ其權利ヲ主張セン

二五二

ニハ管タニ其取得原因ノミナラス尙ホ前權利者ノ權利ノ有效ニ存在セシコトヲ證明スルコトヲ  
得サル可カラス例ヘハ物ノ讓渡或ハ(乙)取得者ノ權利ノ存在カ否ヲ獨立ニシテ前權利者ノ權  
利ノ存在ニ關ハラサル場合アリ(例之時效ニ因ル取得ノ如シ)然リ而シテ右(第一)及ヒ(第二)  
ノ(乙)ノ取得ヲ獨立取得ト名ケ(多數ノ學者ハ之ヲ原始取得ト名ク然レトモ右(第二)ノ(乙)  
ノ場合ニ對シテハ此名稱少シク不當ナルヤノ感アリ故ニ予ハ取得ノ結果ノ點ヨリ觀テ之ヲ獨立  
取得ト名クルヲ可ナリト信ス)右(第二)ノ(甲)ヲ繼承取得ト稱ス(一ニ承繼ト稱ス然レトモ  
承繼ナル語ノ通常ノ意義ハ次ノ(イ)ノ場合ノミヲ指スカ如シ)此繼承取得ハ或ハ(イ)前權利  
者ノ權利ト同一ノ權利ノ取得ナルコトアリ(例ヘハ前權利者ノ權利カ所有權ナレハ取得者ノ權  
利モ亦所有權ナリ)或ハ(ロ)前權利者ノ權利中ニ包含セラルル權利ナルコトアリ(例ヘハ前權利  
者ノ權利ハ所有權ニシテ所得者ノ權利ハ地役權ナルカ如シ)又右(イ)ノ繼承取得ハ或ハ(A)特  
定ノ權利ニ關シテ行ハルコトアリ之レヲ特別繼承取得又ハ特別承繼ト名ク或ハ(B)權利義務ノ  
包括ニ關シテ行ハルコトアリ之レヲ一般繼承取得又ハ一般承繼ト名ク(例ヘハ相続ノ如シ)  
私權ノ消滅トハ私權カ其存在ヲ失フナリ故ニ必スシモ私權ノ喪失(即チ一旦得タル私權ヲ更ニ  
失フ)トハ一致シテ成就スルモノニアラス何トナレハ私權移轉ノ場合ニハ從來ノ權利者ハ其  
權利ヲ失フモ權利ハ取得者ノ手ニ於テ尙ホ生存スル者ナレハナリ然レトモ私權ノ消滅アレハ必  
ラスヤ私權ノ喪失アルハ免カル可カラサルナリ要スルニ私權ノ消滅ト喪失トノ關係ハ猶ホ私權

私權ノ消滅  
及喪失

私權ノ變更

ノ發生ト其取得トノ關係ノ如キモノナリ  
私權ノ變更トハ一定ノ原因ニ由リテ發生シタル私權ノ性質及ヒ效力ニ多少ノ變更ヲ來スヲ云フ  
ナリ(私權ノ發生原因ヲ改ムルトキハ私權ノ變更ト云フ可カラスシテ却テ從來ノ私權ト全ク別  
異ナリ新私權ノ發生アリト云フヘシ)換言スレハ私權ノ内容若クハ主體ノ變更ヲ云フナリ而シ  
テ私權ノ内容ノ變更ハ或ハ其數量ノ増減ナルコトアリ(例ヘハ千圓ノ貸金權減シテ五百圓ノ權利  
トナルカ如シ)或ハ其性質ノ變更アルコトアリ(例ヘハ物ノ所有權變シテ損害賠償ノ債權トナ  
ルカ如シ)又權利主體ノ變更ハ從來ノ主體ト全ク別人トナルコトアリ(權利ノ移轉)或ハ主體  
ノ増減ナルコトアリ(例ヘハ從來一人ノ所有權カ共有ニ變シ又ハ反對ニ共有變シテ一人ノ所有  
トナルカ如シ)或ハ此兩者同時ニ生スルコトアリ(例ヘハ從來甲者ノミカ權利者タリシニ乙丙丁  
ノ三者代ハリテ其主體トナルトキハ權利ノ移轉アルト同時ニ權利主體ノ増加アルカ如シ)  
(第九十五條)前ニ述ヘタルカ如ク私權ノ發生 變更及ヒ消滅ハ法律上其原因トシテ認めラ  
レタル事實ノ起生ニ因ルモノナリ此事實ヲ名テ法的事實ト稱ス法的事實ハ種種アリト雖トモ要  
スルニ人ノ行爲及其他ノ事實(假リニ事件ト名ケン)ナリトス而シテ其最要部分ヲ占ムルハ人  
ノ行爲ナリ其他ノ法的事實ハ例ヘハ人ノ出生、死亡、時ノ經過等ノ類ナリ  
法的事實中ノ最要部分ヲ占ムル所ノ人ノ行爲中ニ於テ第一位ヲ占ムルモノハ法律行爲ニシテ不  
法行爲之ニ次ク此兩者以外ノ行爲ニシテ法的事實タルモノハ至テ稀ナリト雖トモ全ク之レナシ  
ト云フ可カラス例ヘハ生活ノ本據ヲ定ムル行爲ノ如キ是レナリ然レトモ此等僅少ノ行爲ニ對シ

法的事實



テハ本法中一般ニ行ハルヘキ法規ナシ故ニ各場合ニ就テ適當ノ決論ヲ爲スヘキノミ（不法行為ハ債權發生ノ原因ナレハ本法第三編第五章ニ一般ノ規定アリ）

人ノ行為以外ノ法的事實ハ其數稍稍多クシテ一般共通ノ規定ヲ爲スヲ得ス獨リ時ニ關シテハ或ル程度ニ於テ如此規定ヲナスコトヲ得ヘキノトス殊ニ所謂時効ナルモノニ就テ然リ（本法第一編第五章及ヒ第六章ヲ看ルヘシ）

（第九十六解）予ハ以上ニ於テ本章所定ノ法律行為ニ關スル説明ノ前提論ヲ爲シタリ故ニ是ヨリ法律行為自體ニ就テ述ヘン

法律行為トハ或ル私法上ノ效果ヲ生セシメント欲スル私人的意思ノ表示ナリ請フ此定義ヲ分晰シテ説明セン

（一）法律行為ハ意思表示ナリ 法律行為ハ行為ノ一種ナリ行為トハ意思ノ外界ニ發動（表示）スルヲ云フ故ニ表示セラレサル意思ハ法律行為ニアラス然レトモ此表示ハ必スシモ明示タルヲ要セス默々ノ裡意思ヲ表ハス場合ニモ亦其表示アリ之レヲ默示ノ意思表示ト云フ（此點ニ付テハ後テニ至リ更ラニ説ク所アルヘシ）

（二）法律行為ハ私法上ノ效果ヲ生セシメント欲スル私人的意思ノ表示ナリ 故ニ

（イ）表示セラレタル意思ハ法律上ノ效果ヲ生セシメント欲スルモノナリ 然レトモ必スシモ直接ニ此效果ヲ生セシメント欲スル意思ナルコトヲ要セス彼ノ催告、契約ノ申込ノ如キ間接ニ此效果ヲ目的トスルモノモ亦法律行為タルニ妨ケナキナリ又必スシ

約ノ申込ノ如キ間接ニ此效果ヲ目的トスルモノモ亦法律行為タルニ妨ケナキナリ又必スシ

モ此效果ノミヲ目的トスルモノナルコトヲ要セス例ヘハ先占ノ如キ一方ニ於テ事實上ノ效果ヲ目的トスルモノモ亦法律行為ナリ

（ロ）表示セラレタル意思ハ法律上ノ效果ヲ生セシメント欲スルノ意思ナリ 即チ法律行為ハ法律カ行為者ノ希望ニ從ヒ法律上ノ效果ヲ發生スルコトヲ許スモノナリ故ニ其希望ノ有無ニ拘ハラス法律上ノ效果ヲ生スルモノモ亦法律行為ニアラス例ヘハ不法行為、加工行為、（本法第二百四十六條）ノ如キハ法律行為ニアラス然レトモ實際法律カ生セシムル所ノ效果ハ必スシモ行為者ノ希望シタルモノノミニ限ルニアラス（例ヘハ賣買ヲナシ其物品ニ瑕疵アリタルニヨリ擔保ノ責任ヲ負フカ如キハ行為者ノ希望シタル所ニアラスト雖トモ之レカ爲メ賣買カ法律行為タルニ妨ケナキナリ）又法律行為ハ其效果ヲ實際ニ發生セサルモ法律行為タル性質ヲ失ハス即チ法律上ノ效果ヲ生セシメント欲スル意思表示トシテノ組成分子ヲ具備スル以上ハ假令法律上無効若クハ取消シ得ヘキノナリト雖トモ法律行為ナリ

（ハ）行為者ノ發生セシメントスル効果ハ私法上ノ效果ナリ 私法上ノ效果ハ私權ノ發生 變更及ヒ消滅ナリ故ニ國家（機關）ノ命令、國際條約ノ如キ公法上ノ效果ヲ生セシメントスルモノハ意思表示ナレトモ法律行為ニアラス

（ニ）表示セラレタル意思ハ私人的意思ナリ 即チ私人ノ意思又ハ私人トシテノ意思ナリ故ニ國家其他ノ公法的資格ヲ有スル者其資格ヲ以テナシタル意思表示ハ假令其目的私法上ノ效

法律行為ノ  
種別

果ヲ生セシムルニアル場合ト雖トモ（例へハ公共ヲ事業ノ爲メノ土地收用）法律行為ニアラサルナリ反之公法的資格ヲ有スル者カ私人トシテ爲シタル意思表示（例へハ國家カ私人ノ資格ニ於テ一私人ト締結スル賣買契約ノ如シ）ハ法律行為ナリ

（第九十七條）法律行為ハ觀察點ヲ異ニスルニ從ヒ種種ニ區別スルコトヲ得ヘシ其重要ナルモノ即チ左ノ如シ

- (一) 生前行為ト死後行為トノ區別 死後行為トハ行為者ノ死後ニ生スヘキ法律關係ノ變動ニ對シテ處置ヲ爲ス所ノ法律行為ナリ此他ノ法律行為ハ總テ生前行為ナリ遺言ノ如キハ死後行為ニシテ賣買贈與ノ如キハ生前處分ノ例ナリ然リ而シテ此兩者カ權利處分ニ關スルトキハ之ヲ生前處分若クハ死後處分ト稱ス（本法第四十二條參照）
- (二) 單獨行為ト双方行為トノ區別 單獨行為（例へハ本法第一百八條參照）ハ一ニ之ヲ片面行為又ハ一方行為ト名ク即チ行為者一人ノ意思表示ニヨリテ完全ニ成立スルモノナリ双方行為ハ又之ヲ雙面行為ト名ク即チ二人以上ノ（表示セラレタル）意思ノ合致スルニ依リテ成立スル者ナリ本法ハ之ヲ契約ト名ク（本法第三編第二章參照）然リ而シテ單獨行為ハ或ハ一定ノ人（意思表示ノ相手方ト稱ス）ニ對スルモノアリ（追認催告ノ如シ）或ハ然ラサルコトアリ（法人ノ設立ニ關スル寄附行為ノ如シ）又契約ハ債權ニ關スルノミナラス物權ニ關シ又ハ親族關係ニ關スルコトアリ是レ本法ノ契約ノ意義ナリトス（故ニ舊民法財產編第二百九十六條第二項ノ意義ト異ナルナリ）

法律行為ノ  
構成分

- (三) 有償行為ト無償行為トノ區別 有償行為トハ其行為ニ依リテ得ル所ノ利益ニ對シテ代價ヲ爲スヲ要スルモノナリ例へハ賣買、消費、貸借ノ如シ無償行為トハ其行為ニ依リテ得ル所ノ利益ニ對シテ代價ヲ爲スコトヲ要セサルモノナリ例へハ免除、負擔ナキ贈與ノ如シ
  - (四) 要式行為ト不要式行為トノ區別 要式行為ハ其行為ヲ爲スニ當リテ一定ノ形式ヲ踐ムヲ要スルモノナリ不要式行為ハ其反對ナリ近世ニ於テハ法律行為ハ不要式ナルヲ以テ常トス要式行為ハ或ハ書面ヲ要シ（本法第四百六十七條第二項第五百五十條）或ハ證人ヲ要シ（例へハ婚姻ノ如シ）或ハ登記ヲ要ス（例へハ本法第七十七條）而シテ其形式不踐行ノ結果ハ各場合ニ於テ異ナリ然レモ此ニ關シテ特別ノ規定ナキトキハ其結果ハ法律行為ノ無效ヲ來タスモノトス
- （第九十八條）法律行為ハ或ル法律上ノ效果ヲ生セシメントスル意思表示ナルカ故ニ意思及ヒ表示ノ二者其一ヲ缺クトキハ法律行為ナルモノ成立セズ即チ表示セラルヘキ意思アルモ其表示アラサル即チ單ニ腹案ニ屬スルトキ又ハ單ニ意思表示ノ外形アルノミニシテ其實意思ナキ場合（例へハ夢中ノ誠言）ニハ法律行為成立セサルナリ之ヲ以テ意思及ヒ其表示ハ一般法律行為ニ必要ナル構成分子ナリ（一般構成分子ト名ク）
- 或ル特種ノ法律行為（例へハ賣買）ノ法律上ノ效果（及ヒ體様）ヲ觀ルニ或ハ（一）法律上必ラス其種類ノ行為ニ附着スヘキモノ（即チ其種類ノ行為ノ法律上ノ性質ヲ成スモノ）アリ（例へハ賣買ニ於テハ代價及物件ニ付テノ權利、義務發生スルカ如シ）或ハ（二）法律上通常其行為ノ效果

ニ屬スルモ行爲者ノ意思ニ依リテ之ヲ除斥シ得ヘキモノアリ(例ヘハ賣買ニ於ケル賣主ノ擔保義務ノ如シ)或ハ三法律上必然又ハ通常其行爲ノ效果ニ屬スルモノニアラサルモ偶々行爲者ノ特別意思ニ依リ附加セラレタルモノアリ(例ヘハ賣買ニ附加シタル條件期限ノ如シ)而シテ右ノ一ヲ法律行爲ノ必要效果トシ又二ヲ通常效果トシ又三ヲ附加效果ト稱スルコトヲ得ヘシ然リ而シテ個々ノ場合ニ於テ行爲者ノ此等ノ效果ニ關シテ爲ス所ノ意思ノ決定ハ即チ其法律行爲ノ構成分子ヲ爲スモノトス(法律行爲ノ特別構成分子ト名ク)於是乎或ル特種ノ法律行爲ノ構成分子ハ講學上必要構成分子、通常構成分子、及ヒ附加(偶然)構成分子ノ三ニ區別スルコトヲ得ルナリ

個々ノ場合ニ於テ特定ノ法律行爲ノ成立スルニ至ルニハ行爲者ハ(第一)其種ノ法律行爲ノ具備スヘキ必要構成分子ニ付キ意思表示ヲ爲ササル可カラヌ加之假令本來ハ其種ノ法律行爲ノ通常構成分子若クハ附加構成分子ニ屬スヘキモノナリト雖モ若シ行爲者カ之レヲ以テ其特定法律行爲ノ成立ニ必要缺クヘカラサル要件トナシタルキハ(第二)此等ノ點ニ付テモ亦行爲者ノ意思表示アルニアラサルハ其法律行爲ハ成立スルニ至ラサルモノトス(講學上此第二ヲ名ケテ特定法律行爲ノ任意上ノ必要構成分子ト稱シ之レニ對シテ右ノ第一ヲ特定法律行爲ノ性質上ノ必要構成分子ト稱スルコトヲ得ヘシ)反之此兩必要構成分子ニ屬セサル附隨ノ事項ニ付テハ假令行爲者ノ意思表示ナシト雖トモ其法律行爲ノ成立ヲ妨ケサルモノトス例ヘハ賣買契約ニ就テハ物品及ヒ代價ノ點(性質上ノ必要構成分子)及ヒ契約者ニ於テ必要缺ク可カラサルモノト爲タル

法律行爲ノ有效要件

事項例ヘハ擔保義務ノ點(任意上ノ必要構成分子)ニ付キ契約者双方ノ意思表示ノ合致アリタル以上ハ其他ノ事項(例ヘハ物品ノ送附、双方ノ義務履行ノ日時ノ如シ)ハ之ヲ決定セサリシトスルモ其賣買契約ハ成立シタルモノナリ

(第九十九解) 前段ニ述ヘタルカ如ク或ル特定ノ法律行爲ハ其性質上及ヒ任意上ノ必要構成分子ニ付キ意思表示アルヲ以テ成立スルモノナリ然レトモ此兩構成分子ヲ具備スル法律行爲ハ必スシモ常ニ法律上完全ナル效果ヲ奏スルモノニアラス時ニ法律上ノ有效要件ヲ缺クカ爲メ或ハ全ク無効ナルコトアリ或ハ取消シ得ヘキコトアリ今一般法律行爲ニ通スル有效要件ヲ擧ケレハ即チ左ノ如シ

- (一) 法律上ノ制限ヲ守ルコトヲ要ス
  - (二) 行爲者カ能力者タルコトヲ要ス
  - (三) 行爲者カ適法ノ方式ニヨリ其意思ヲ表示スルコトヲ要ス
  - (四) 表示セラレタル意思カ眞實ナルコトヲ要ス
- 右(一)及(四)ニ付テハ本章各節ニ於テ説明スヘシ、右(二)ニ付テハ既ニ本編第一章第二節能力ノ部ニ於テ之ヲ説述シタリ

(第二百解) 本章ハ一般法律行爲ノ通則ヲ掲ケタルモノナリ之ヲ舊民法ニ比スルニ同法ハ權利ノ得喪消滅ニ關スル一般ノ規定ヲ設ケスシテ只タ財産編第二部ニ於テ合意ニ關スル規定ヲ掲ケタリ然レトモ私法上ノ行爲ハ合意ノミニ限ラサルコトハ疑ナキ所ニシテ舊民法ト雖トモ合意以

本章ト舊民法トノ比較

法律行為ノ  
種別

果ヲ生セシムルニアル場合ト雖トモ（例ハ公共ヲ事業ノ爲メノ土地收用）法律行為ニア  
ラサルナリ反之公法的資格ヲ有スル者カ私人トシテ爲シタル意思表示（例ハ國家カ私人  
ノ資格ニ於テ一私人ト締結スル賣買契約ノ如シ）ハ法律行為ナリ

（第九十七條）法律行為ハ觀察點ヲ異ニスルニ從ヒ種種ニ區別スルコトヲ得ヘシ其重要ナル  
モノ即チ左ノ如シ

（一）生前行為ト死後行為トノ區別 死後行為トハ行為者ノ死後ニ生スヘキ法律關係ノ變動ニ對  
シテ處置ヲ爲ス所ノ法律行為ナリ此他ノ法律行為ハ總テ生前行為ナリ遺言ノ如キハ死後行為  
ニシテ賣買贈與ノ如キハ生前處分ノ例ナリ然リ而シテ此兩者カ權利處分ニ關スルトキハ之ヲ  
生前處分若クハ死後處分ト稱ス（本法第四十二條參照）

（二）單獨行為ト双方行為トノ區別 單獨行為（例ハ本法第一百八條參照）ハ一ニ之ヲ片面行  
爲又ハ一方行為ト名ク即チ行為者一人ノ意思表示ニヨリテ完全ニ成立スルモノナリ双方行爲  
ハ又之ヲ雙面行為ト名ク即チ二人以上ノ（表示セラレタル）意思ノ合致スルニ依リテ成立スル  
者ナリ本法ハ之ヲ契約ト名ク（本法第三編第二章參照）然リ而シテ單獨行為ハ或ハ一定ノ人  
（意思表示ノ相手方ト稱ス）ニ對スルモノアリ（追認催告ノ如シ）或ハ然ラサルコトアリ（法  
人ノ設立ニ關スル寄附行為ノ如シ）又契約ハ債權ニ關スルノミナラス物權ニ關シ又ハ親族關  
係ニ關スルコトアリ是レ本法ノ契約ノ意義ナリトス（故ニ舊民法財產編第二百九十六條第二  
項ノ意義ト異ナルナリ）

（三）有償行為ト無償行為トノ區別 有償行為トハ其行為ニ依リテ得ル所ノ利益ニ對シテ代價ヲ爲  
スヲ要スルモノナリ例ハ賣買、消費、貸借ノ如シ無償行為トハ其行為ニ依リテ得ル所ノ利  
益ニ對シテ代價ヲ爲スコトヲ要セサルモノナリ例ハ免除、負擔ナキ贈與ノ如シ

（四）要式行為ト不要式行為トノ區別 要式行為ハ其行為ヲ爲スニ當リテ一定ノ形式ヲ踐ムヲ要  
スルモノナリ不要式行為ハ其反對ナリ近世ニ於テハ法律行為ハ不要式ナルヲ以テ常トス要式  
行為ハ或ハ書面ヲ要シ（本法第四百六十七條第二項第五百五十條）或ハ證人ヲ要シ（例ハ  
婚姻ノ如シ）或ハ登記ヲ要ス（例ハ本法第七十七條）而シテ其形式不踐行ノ結果ハ各場  
合ニ於テ異ナリ然レモ此ニ關シテ特別ノ規定ナキトキハ其結果ハ法律行為ノ無効ヲ來タスモ  
ノトス

法律行為ノ  
構成

（第九十八條）法律行為ハ或ル法律上ノ效果ヲ生セシメントスル意思表示ナルカ故ニ意思及  
ヒ表示ノ二者其一ヲ缺クトキハ法律行為ナルモノ成立セズ即チ表示セラルヘキ意思アルモ其表  
示アラサル即チ單ニ腹案ニ屬スルトキ又ハ單ニ意思表示ノ外形アルノミニシテ其實意思ナキ場  
合（例ハ夢中ノ誠言）ニハ法律行為成立セサルナリ之ヲ以テ意思及ヒ其表示ハ一般法律行為  
ニ必要ナル構成分子ナリ（一般構成分子ト名ク）

或ル特種ノ法律行為（例ハ賣買）ノ法律上ノ效果（及ヒ體様）ヲ觀ルニ或ハ（一）法律上必ラス  
其種類ノ行為ニ附着スヘキモノ（即チ其種類ノ行為ノ法律上ノ性質ヲ成スモノ）アリ（例ハ  
賣買ニ於テハ代價及物件ニ付テノ權利、義務發生スルカ如シ）或ハ（二）法律上通常其行為ノ效果

ニ屬スルモ行為者ノ意思ニ依リテ之ヲ除斥シ得ヘキモノアリ(例ヘハ賣買ニ於ケル賣主ノ擔保義務ノ如シ)或ハ三法律上必然又ハ通常其行為ノ效果ニ屬スルモノニアラサルモ偶々行為者ノ特別意思ニ依リ附加セラレタルモノアリ(例ヘハ賣買ニ附加シタル條件期限ノ如シ)而シテ右ノ一ヲ法律行為ノ必要效果トシ又二ヲ通常效果トシ又三ヲ附加效果ト稱スルコトヲ得ヘシ然リ而シテ個々ノ場合ニ於テ行為者ノ此等ノ效果ニ關シテ爲ス所ノ意思ノ決定ハ即チ其法律行為ノ構成分子ヲ爲スモノトス(法律行為ノ特別構成分子ト名ク)於是乎或ル特種ノ法律行為ノ構成分子ハ講學上必要構成分子、通常構成分子、及ヒ附加(偶然)構成分子ノ三ニ區別スルコトヲ得ルナリ

個々ノ場合ニ於テ特定ノ法律行為ノ成立スルニ至ルニハ行為者ハ(第一)其種ノ法律行為ノ具備スヘキ必要構成分子ニ付キ意思表示ヲ爲ササル可カラヌ加之假令本來ハ其種ノ法律行為ノ通常構成分子若クハ附加構成分子ニ屬スヘキモノナリト雖モ若シ行為者カ之レヲ以テ其特定法律行為ノ成立ニ必要缺クヘカラサル要件トナシタルハ(第二)此等ノ點ニ付テモ亦行為者ノ意思表示アルニアラサレハ其法律行為ハ成立スルニ至ラサルモノトス(講學上此第二ヲ名ケテ特定法律行為ノ任意上ノ必要構成分子ト稱シ之レニ對シテ右ノ第一ヲ特定法律行為ノ性質上ノ必要構成分子ト稱スルコトヲ得ヘシ)反之此兩必要構成分子ニ屬セサル附隨的ノ事項ニ付テハ假令行為者ノ意思表示ナシト雖トモ其法律行為ノ成立ヲ妨ケサルモノトス例ヘハ賣買契約ニ就テハ物品及ヒ代價ノ點(性質上ノ必要構成分子)及ヒ契約者ニ於テ必要缺ク可カラサルモノト爲タル

法律行為ノ  
有效要件

事項例ヘハ擔保義務ノ點(任意上ノ必要構成分子)ニ付キ契約者双方ノ意思表示ノ合致アリタル以上ハ其他ノ事項(例ヘハ物品ノ送附、双方ノ義務履行ノ日時ノ如シ)ハ之ヲ決定セサリシトスルモ其賣買契約ハ成立シタルモノナリ

(第九十九解) 前段ニ述ヘタルカ如ク或ル特定ノ法律行為ハ其性質上及ヒ任意上ノ必要構成分子ニ付キ意思表示アルヲ以テ成立スルモノナリ然レトモ此兩構成分子ヲ具備スル法律行為ハ必スシモ常ニ法律上完全ナル效果ヲ奏スルモノニアラス時ニ法律上ノ有效要件ヲ缺クカ爲メ或ハ全ク無効ナルコトアリ或ハ取消シ得ヘキコトアリ今一般法律行為ニ通スル有效要件ヲ擧ケレハ即チ左ノ如シ

- (一) 法律上ノ制限ヲ守ルコトヲ要ス
  - (二) 行為者カ能力者タルコトヲ要ス
  - (三) 行為者カ適法ノ方式ニヨリ其意思ヲ表示スルコトヲ要ス
  - (四) 表示セラレタル意思カ眞實ナルコトヲ要ス
- 右(一)及(四)ニ付テハ本章各節ニ於テ説明スヘシ、右(二)ニ付テハ既ニ本編第一章第二節能力ノ部ニ於テ之ヲ説述シタリ

(第二百解) 本章ハ一般法律行為ノ通則ヲ掲ケタルモノナリ之ヲ舊民法ニ比スルニ同法ハ權利ノ得喪消滅ニ關スル一般ノ規定ヲ設ケヌシテ只タ財産編第二部ニ於テ合意ニ關スル規定ヲ掲ケタリ然レトモ私法上ノ行為ハ合意ノミニ限ラサルコトハ疑ナキ所ニシテ舊民法ト雖トモ合意以

本章ト舊民  
法トノ比較

外ノ法律行為ヲ無効トスルニハアラス而カモ同法カ之レニ關スル通則ヲ設ケザリシハ實ニ一大缺點ト云ハサル可カラス是ヲ以テ本法ハ舊民法合意ノ規定中契約ノミニ適用スヘキモノハ之ヲ第三編債權ノ部(第五百二十一條以下)ニ讓リ本編總則ノ部ニ於テハ一般法律行為ニ關スル通則ヲ定メタリ

### 第一節 總 則

法律行為ニ付テハ法律上ノ制限

(第二百一解) 本節ハ法律行為ノ總則トシテ法律行為ヲ爲スニ方リテハ如何ナル法律上ノ制限アルカラ示ス然リ而シテ本節ニヨレハ法律行為ノ制限ハ法律行為ノ包含事項カ國家一般ノ秩序ニ背反セサルヲ要スルニアリ夫レ法律行為ハ或ル私法上ノ效果ヲ發セシメントスル意思表示ナリ而シテ私法上ノ效果タル者ハ通常專ラ私人ノ利益ニ關シ國家ノ利益ニ影響スル所ナシ故ニ法律行為ノ内容ハ通常行為者ノ任意ナラサル可カラス苟モ行為者ノ其法律行為ニ因リテ發生セシメント欲シタル(又ハ欲シタリト看做スヘキ)事項ハ皆法律上ノ保護ヲ受クヘシ夫レ然リ然ルト雖トモ之レ通常ノ場合ニ就テノ議論ニシテ法律行為ノ内容カ國家一般ノ秩序ニ反スル場合ニハ然ルコトヲ得サルナリ蓋シ國家一般ノ秩序ハ私人ノ意思ヲ以テ左右スルコトヲ許スヘキニアラサレハナリ是ヲ以テ國家一般ノ秩序ニ背反スル法律行為ハ全ク無効トナササル可カラス是レ各國法制其揆ヲ一ニスル所ニシテ固トヨリ至當ノ事ニ屬スルナリ請フ尙ホ各本條ニ就キ研究スル所アラシ

### 第九十條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス

不正ノ目的ヲ有スル法律行為

(第二百二解) 本條ハ不正ノ事項ヲ目的トスル法律行為ノ無効ナル旨ヲ明カニスル規定ナリ(舊民法財産編第三百四條第一項第二號及ヒ第三號第三百二十二條第一項第三百二十八條參照) 本條ニ所謂公ノ秩序ニ反スル事項トハ直接ニ國家ノ生存ヲ維持スルニ必要ナル秩序ニ反スル事項ナリ如此事項ノ顯著ナルモノハ概テ強行法殊ニ禁止法ノ規定ニヨリ明カニ禁止シアリト雖トモ悉ク然リトハ云ヒ難シ蓋シ如此事項ハ立法者ノ想像力ヲ以テ悉ク盡クスコト不能ナレハナリ故ニ法律ノ禁止ニ屬スル場合ノ外如何ナル事項カ公ノ秩序ニ反スルヤハ各場合ニ就テノ裁判官ノ認定ニ任スルモノトス 又所謂善良ノ風俗ニ反スル事項トハ善良正實ナル人ノ爲ササル事柄ニシテ間接ニ國家一般ノ利益ニ害スルモノヲ云フ如此事項モ亦多クハ法律ノ強行規定ニ服スト雖トモ之ニ漏レタルモノ亦少シトセス而シテ其規定シタル場合ノ外如何ナル事項カ所謂善良ナル風俗ニ反スルヤ各場合ニ於ケル執法者ノ認定ニ從フヘキコト前段ニ同シ 又法律行為カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項(所謂不正ノ事項)ヲ目的トスルハ法律行為其モノハ上ヨリ觀察シテ行為者カ其法律行為ニヨリテ不正ノ事項ヲ達センコトヲ欲シタリト決論スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テ然ルナリ故ニ法律行為カ不正ノ事項ヲ目的トスルヤ否ハ其實

際ノ包含事項ニ依リテ決ス單ニ行爲者ノ腹案ニ屬シ其法律行爲(即チ意思表示)ノ一部トナラサルシ事項ハ敢テ問ハサル者トス依是觀之不正ノ作爲又ハ不作爲ヲ目的トスル法律行爲ノ無効ナルハ勿論(例ヘハ人ヲ殺スノ義務ヲ負フ、終生結婚セサルノ義務ヲ負フ所ノ行爲ハ無効ナリ)、尙ホ法律行爲ノ理由ノ不正ナル場合ニ於テモ亦無効ナリ(例ヘハ「犯罪ヲ爲サシメンカ爲メ贈與ス」ト云フトキハ無効ナリ、反之與贈ヲナスハ受贈者自カラ進ンテ或ル犯罪ヲ爲サントノ希望ヲ以テ「贈與ス」ト云フトキハ其希望タル單ニ行爲者ノ意中ニ止マリタル理由ナルカ故ニ無効ナラス)

右ノ如ク不正ノ事項ヲ目的トスル法律行爲ハ無効ナリ所謂無効ノ意如何ハ後チノ第百十九條ノ說明ニ讓ル

第九十一條 法律行爲ノ當事者カ法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異

リタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

任意ニ反スル法律行爲

(第二百二解) 本條ハ法律行爲ノ當事者カ任意法ニ依ラサルコトヲ得サル旨ヲ規定スルモノナリ(舊民法財産編第三百二十八條參照)

凡ソ法ニ強行法ト任意法トノ別アリ此區別ノ標準タル畢竟其法規カ公ノ秩序ノ維持ニ必要ナルヤ否ニアリテ存ス即チ前者ハ公ノ秩序ヲ維持スルニ出テタルモノナリ從テ縱令各人カ其法規ノ適用ヲ免カレント欲スルモ許ササルナリ後者ハ其反對ナリ抑モ任意法ナルモノハ假令之ヲ強行

セサルモ爲メニ公ケノ秩序ニ反スル所ナキヲ以テ立法者ハ各人ノ便宜ニ任シ其適用ヲ排斥スルコトヲ許シタルモノナレハ法律行爲ノ當事者カ之ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思表示ニ從ヒ當事者ノ法律關係ヲ決定スヘキナリ是レ即チ本條ノ規定アル所以ナリ例ヘハ賣買契約ニ於テ買主ハ契約履行前ニ於テ其物ノ危險ヲ負擔ストハ本法第五百三十四條ノ規定スル所ナリ然レトモ契約者ハ豫メ其危險ノ負擔ハ賣主之レニ任スヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得ルカ如シ

本條ニヨリ任意法ノ適用ヲ排斥スルニハ之ヲ排斥スルノ意思表示アルヲ要ス此意思表示ハ默示ナルヲ得ヘキハ勿論ナリト雖トモ輕輕シク推斷スルコトナキヲ要ス何トナレハ若シ誤斷アルトキハ當事者ノ一方ヲ害スルコト甚シケレハナリ

如何ナル法規カ任意法ニ屬スルヤニ付テノ一般ノ標準ハ公ノ秩序ノ維持ニ必要ナルニアルコト前ニ述ヘタルカ如シ然ルニ個個ノ法規ニ付テ其任意法ナルヤ否ヤヲ判定スルハ頗ル困難ナリコトアルハ免ル可カラサルナリ予輩ハ此點ニ關シ注意ノ爲メ左ノ說明ヲ附ス

任意法ニ二種アリ一ハ法律カアル一定ノ場合ニ於ケル當事者ノ意思ヲ解釋シタルモノ他ノ一ハ法律カ或ル一定ノ場合ニ於テ最モ能ク當事者ノ利益ヲ保護スルニ足ルト信シテ定メタル者即チ是レナリ前者ハ本法ニ於テハ常ニ推定スト云ヘル語例ニ依ルヲ以テ一點ノ疑ヲ生セス(例ヘハ第四百二十條末項ノ如シ)ト雖トモ他ノ任意法ニ至リテハ法規ノ明文ノミニ依リテ之ヲ判定シ難シ親族法及ヒ相續法ノ規定ハ多ク強行法ニ屬シ債權法ノ規定ハ多ク任意法ナリ物權法ノ規定ニシテ強行法ニ屬スルモノ亦尠シトセス

本條ニハ只々當事者カ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異リタル意思ヲ表示シタルトキ云々トアリテ  
善良ノ風俗ノ事ヲ云ハス然レトモ善良ノ風俗ニ關スル規定ハ善良ノ風俗ヲ維持スルニ必要ナル  
ニ出ツ然ラハ即チ之レヲ強行スルニ非サレハ國家一般ノ秩序ヲ害スルヤ明ナリ從テ此種ノ規定  
モ亦強行法ナルヲ以テ當事者カ任意ニ排斥スルコトヲ得サルヤ勿論ナリ

第九十二條 法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル慣習アル場

合ニ於テ法律行為ノ當事者力之二依ル意思ヲ有セルモノト認ムヘキト  
キハ其慣習ニ從フ

慣習ニ依ラ  
ントスル法  
律

(第二百四解) 本條ハ法令ニ異ナリタル慣習ニ依ラントスル法律行為ノ效力如何ヲ定ムルモノ  
ナリ(舊民法財産編第二百五十九條第二項參照) 慣習トハ一般又ハ一部ノ人民カ常例トスル慣  
行ナリ慣習ハ成文法ナキ國ニ於テハ法ノ力ヲ有スルヲ以テ常トスト雖トモ苟モ成文法ノ發達シ  
タル國ニ於テハ汎ク慣習ニ法力ヲ與フルコトヲ得ス何トナレハ若シ慣習ニ汎ク法力ヲ與フルト  
セハ寧ロ始メヨリ成文法ヲ制定セサルニ如カサレハナリ我邦ノ如キ日々益々成文法ノ發達ヲ圖  
ル國ニ於テハ固トヨリ汎ク慣習ノ法力ヲ認ム可カラス只々成文法ノ補充助成ノ爲メ其ノ法力ヲ  
認ムヘキノミ本法中往往慣習ニ從フコトヲ規定シ之ニ法力ヲ與ヘタル條文アルハ蓋シ此理ニヨ  
ルナリ(本法第二百十七條、第二百十九條、第二百二十八條、第二百三十六條、第二百六十三

條、第二百六十八條、第二百六十九條、第二百七十七條、第二百七十八條ノ類)

慣習ハ成文法ヲ補充助成スル場合ノ外、法トシテ效力ナシ已ニ法トシテノ效力ナキ以上ハ裁判  
官ハ之ニ依リテ法律行為者ノ關係ヲ判定ス可カラサルヤ固トヨリ明カナリ然リト雖トモ法律行  
爲カ慣習ニ依リテ其關係ヲ定メント欲スルトキハ如何曰ク前條ノ立法本旨ヲ貫カントセハ法律  
ハ如此欲望ヲ全然無視スヘキニアラス即チ其慣習ニシテ法令中公ノ秩序ニ關スル規定ニ違反セ  
サルモノナルトキハ行為ヲシテ之ニ從フコトヲ許ササル可カラズ本條ハ即チ此趣旨ヲ明示シタ  
ルモノナリ故ニ畢竟前條ノ敷衍タルニ過キサルナリ

本條ノ意義ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明ナリト雖トモ注意ノ爲メ一言スヘキコトアリ即チ本條ニ  
ヨリ慣習ニ從ヒ法律行為者ノ關係ヲ定ムルハ其行為者カ「之ニ依ル意思ヲ有セルモノト認ムヘ  
キトキ」ナリ故ニ必シモ慣習ニヨルノ意思ヲ表示シタルヲ要セス各個ノ場合ニ於ケル事情ニヨ  
リ其意思ヲ認定シ得ヘキトキハ其慣習ニ從フモノトス

### 第二一節 意思表示

(第二百五解) 法律行為ハ法律上ノ效果ヲ發生セシメントスル意思ノ表示ナルヲ以テ意思表示  
ハ法律行為ノ基本ヲ成スモノナリ若シ意思表示ニシテ完全ナラザランカ法律行為モ亦從テ完全  
ナラサルナリ本節ハ即チ此意思表示ニ關スル法律上ノ通則ヲ掲グルモノニシテ殊ニ其有效要件  
及ヒ其效力發生ノ時期ニ關スル規定ヲ包容ス今各本條ノ説明ニ進入スルニ先チ意思表示ノ有效

本節ノ規定



要件ニ就テ豫メ説述ヲ要スルモノアリ請フ次解ヲ看ルヘシ（意思表示ノ效力發生ノ時期ハ各本條ニ譲ル）

論  
有  
效  
表  
示  
ノ  
要  
件  
況

（第二百六解） 意思表示ノ法律上有效ナルニハ左ノ四要件ノ完備スルコトヲ要ス（前第百九十八解参照）

（一） 意思 意思ハ意思表示ノ根基ナリ苟クモ意思ノ成立ナキ所意思表示アルノ道理ナシ縱令外觀上意思表示ノ體アルモ意思ノ成立ナキトキハ法律上全ク無効ナラサルヲ得ス故ニ（イ）意思無能力者（幼者、瘋癲、白痴）ノ意思表示（ロ）直接ニ身體上ニ強暴ヲ受ケタルトキ又ハ深醉シタルトキノ如キ全ク意思ヲ缺キタル場合ニハ能力者ノ爲シタル意思表示ト雖トモ無効ナラサルヲ得ス

（二） 表示 縱令意思ノ成立アリト雖トモ其表示ナケレハ意思表示ナルモノアル道理ナシ故ニ表示セラレサル意思ハ法律上何等ノ效力アルコトヲ得ス

表示ノ方法ニ關シテハ古昔ハ法律上一定ノ方式（證書、證人ノ立會ノ如シ）ニ依ルヲ要スルモノ多之レアリタリト雖トモ近世ニ於テハ一般ニ方式ニ拘泥セサルヲ原則トナシ要式ハ寧ロ僅少ナル例外ニ屬ス（前第百九十七解要式行爲ノ不要式行爲ノ說明参照）故ニ意思ノ表示ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ妨ケアルコトナキヲ原則トナス是ヲ以テ意思ノ表示ハ（イ）明示又ハ默示ヲ以テシ明示トハ口頭書面又ハ容態ニ依リ明カニ意思ヲ表ハスナリ默示トハ其場合ノ事情ニヨリ意思ノ表示アリタルモノト推測セラルヘキヲ云フ默示ノ意思表示アリタルヤ否ハ一

ニ裁判官ノ認定ニ任ス例ヘハ契約ノ申込ニ對シ沈黙スル場合ニ於テ若シ取引ノ慣例、契約ノ性質、當事者ノ關係等ヨリシテ其申込ヲ拒絕スルノ意思アラハ返答ヲナスヘキ事情アルトキハ其沈黙ハ即チ其申込ニ對シ承諾ヲ表シタルモノト推測スヘキカ如シ（ロ）面接又ハ通信ノ方法ヲ以テシ（通信ハ使者、郵便、電信、電話等其方法ノ如何ヲ問ハサルナリ）（ハ）本人自カラ又ハ代理人ヲ以テスルコトヲ得ヘシ

意思表示ハ之ヲ受クヘキ者アルヲ以テ通例トス例ヘハ契約ノ申込ハ承諾ヲ表スヘキ者ニ於テ之ヲ受クヘク貸金ノ催告ハ借主ニ於テ之ヲ受クヘキカ如シ此ノ如キ意思表示ヲ受クヘキ者ヲ稱シテ意思表示ノ相手方ト名ク然リ而シテ意思表示ハ相手方アル場合ニ於テハ必ラスヤ之ニ對表シテ表スコトヲ要スル者トス若シ然ラサレハ表意者ハ獨語スルト一般ナルヲ以テ法律上意思表示アリタルモノト云フコトヲ得サルナリ反之相手方ナキ場合（例ヘハ財團法人寄附行爲ノ如シ）ニ於テハ單ニ意思ノ發表アルノミヲ以テ足ルヤ固トヨリ明ナリ

（三） 意思ト表示トノ一致 即チ表示セラレタル意思ハ眞ノ意思ナラサル可カラス表示セラレタル意思（説明ノ便宜上假リニ客觀的意味ト名ケン）ト眞ノ意思（客觀的意味ナル語ニ對シテ主觀的意味ト名ケン）トカ一致セサル場合ニ於ケル意思表示ノ法律上ノ效力ニ關シ從來左ノ三説アリ

（イ） 意思説 此説ハ主觀的意味ニ重キヲ置キ苟クモ主觀的意味ト客觀的意味ノ一致ヲ缺クトキハ意思表示ハ法律上全ク無効ナラサル可カラスト論ス是レ古來一般ニ唱道セラルル所ニシテ

今日ト雖トモ猶ホ一大勢力アル所ノ學說タリ

(ロ) 表示說 此說ニヨレハ意思ノ表示ニ重キヲ置キ意思表示ノ效力ハ專ラ客觀的意思ニ依リテ定ムヘク主觀的意思ハ毫モ問フヲ要セス從テ客觀的意思カ主觀的意思ト一致セサルモ意思表示ノ無效ヲ來タスコトナク其客觀的意思ニ依リ法律上ノ效ヲ生スヘキナリ此說タルヤ法律的交通ノ安全ヲ保障スルノ必要ニ應シ近世ニ於テ唱道セララルル所ニシテ亦一ノ有力ナル學說タルヲ失ハス

(ハ) 折衷說 是レ即チ意思說ト表示說トヲ折衷シタルモノニシテ其根本原理トシテハ意思說ヲ採リ之ニ表示說ノ理論ヲ加味シタルモノナリ即チ此說ニヨレハ主觀的意思ト客觀的意思トカ一致セサルトキハ意思表示ハ法律上何等ノ效ナキヲ以テ原則トシ而シテ此原則ヲ以テ貫ケハ法的交通ノ不安ヲ來スノ虞アルトキニ限り主觀的意思ヲ顧ミルコトナクシテ客觀的意思ニ法律上ノ效ヲ有セシムルモノトス

理論上ヨリ觀ルトキハ右ノ三說中意思說最モ正鵠ヲ得タリト雖トモ此說ハ輒ク法的交通ノ不安ヲ來スノ虞レアリ故ニ實際ノ便宜上ヨリ論スレハ折衷說ヲ以テ最モ適當ナルモノト云フヘシ本法ハ實際ノ便宜ヲ重シ折衷說ヲ採用セリ其結果ハ各本條ニ就テ之ヲ究ムヘシ

(四) 任意ノ意思表示 即チ意思表示ハ表意者ノ任意ニ爲シタルモノナルコトヲ要ス表意者カ不法ノ檢束ヲ受ケテ爲シタル意思表示ニハ縱令前ノ三要件ヲ具備スル場合ト雖トモ完全ナル法律上ノ效力ヲ有セシム可カラサルナリ故ニ詐欺強迫ニ因ル意思表示ハ完全ナル效アルコトヲ得ス

右ノ四要件ノ中(一)及ヒ(二)ハ意思表示ノ性質上當然ナルモノニ屬ス故ニ本法ハ此兩者ニ付テハ何等ノ規定ヲ設ケス反之(三)及ヒ(四)ノコトニ關シテハ法律上特定ヲ要スルモノアルヲ以テ本節各本條ニ於テ之レニ關スル規定ヲ掲ケタリ

第九十三條 意思表示ハ表意者カ其眞意ニ非サルコトヲ知リテ之ヲ爲シタル爲メ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ但相手方カ表意者ノ眞意ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ其意思表示ハ無效トス

心裡留保

(第二百七解) 本條ハ所謂心裡留保ノ場合ヲ規定スルモノナリ前解ニ於テ述タルカ如ク意思表示ハ客觀的意思ト主觀的意思トノ一致アルヲ要スルモノナリ然ルニ此一致ヲ缺ク場合實際上往往之レアリ此場合ヲ分チテ二トナス曰ク表意者カ故意ニ不一致ヲ生セシメタル場合曰ク表意者ノ不慮ニ不一致ヲ生シタル場合即チ是レナリ表意者カ故意ニ不一致ヲ生セシメタル場合ハ更ラニ分レテ心裡留保及ヒ虛偽ノ表示ノ二トナル本條ハ即チ此心裡留保ノ場合ヲ規定ス(虛偽ノ意思表示ハ次條ニ表意者ノ不慮ニ不一致ヲ生シタル場合ハ第九十五條ニ規定ス)

所謂心裡留保ノ場合トハ表意者カ故意ニ其眞意ニ非サルコトヲ表示シタル場合ヲ云フ例ヘハ甲

者其住家ヲ讓渡スノ意ナキニモ拘ハラズ故意ニ之ヲ讓渡ス旨ヲ表示シ又ハ他ノ建物ヲ讓渡ス眞意ナルニ拘ハラズ故ラニ其住家ヲ讓渡ス旨ヲ表示スルカ如シ而シテ此ノ如ク故ラニ眞意ニ非ラサルコトヲ表示スルニ至リタル理由ハ或ハ相手方ヲ欺カンカ爲メ或ハ諧謔ノ爲メ或ハ事物ノ説ノ引例ノ爲メナル等種種多ナルヘシト雖トモ此等ノ理由ノ如何ハ毫モ問フ所ニアラス苟クモ其眞意ニ非ラサルコトヲ知リツツ爲シタル意思表示ナル以上ハ心裡留保アリテ存スルナリ本條本文ノ規定ニヨレハ意思表示ハ心裡留保アリタルカ爲メ法律上無効ナルモノニ非ラスシテ表示セラレタル客觀的意思ニ依リ法律上ノ效力ヲ生スルモノトス夫レ心裡留保ノ場合ニハ主觀的意思ト客觀的意思トノ不一致アルヲ以テ意思説ノ原則(前解參看)ニヨレハ其意思表示ハ無効ナラサルヲ得スト雖トモ心裡留保アリヤ否ヤハ外面上之ヲ知ルノ難キモノナレハ他人ハ(意思表示ノ相手方)其意思表示ヲ以テ表意者ノ眞意ナリト信シ諸種ノ取引及ヒ計畫ヲ爲サン然ルニ其意思表示ヲ以テ無効ナリトセハ他人ハ不測ノ損害ヲ蒙ルニ至ラン是ヲ以テ法律ハ法的交通ノ安全ヲ保持センカ爲メ本條本文ニ於テ意思説ヲ採ラスシテ表示説ニ依リタリ右ハ表意者ノ相手方カ心裡留保アリタルコトヲ知ラスシテ其意思表示ヲ以テ表意者ノ眞意ナリト信シタル場合ニ就テ論セリ然レトモ若シ表意者ノ相手方カ心裡留保ノコトヲ知リ若クハ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ毫モ相手方ヲ保護スヘキ理由ナキヲ以テ意思説ノ原則ニ從ヒ其意思表示ハ全ク無効ナラサルヲ得ス是レ即チ本條但書ノ規定ナリトス然リ而シテ茲ニ所謂相手方カ心裡留保ノコトヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ相當ノ注意ヲ施サハ知ルコトヲ得ヘカリシトキ換言

スレハ知ラザリシハ其不注意ニ歸スヘキ場合ヲ云フ故ニ是レ意思表示當時ノ事情表意者ト相手方トノ關係等ニヨリテ判定スヘキ事ニ屬スルモノナリ例ヘハ甲者其友人ニ向テ散步ノ約ヲ爲シ戲レテ曰ク若シ此約ニ背カハ一萬圓ヲ與ヘント然ル後チ甲者カ其約ヲ果サストセンニ其友人ハ一萬圓ヲ請求スルコトヲ得サルナリ何トナレハ甲者ノ意思表示ニ心裡留保アリタルコトハ輒ク之レヲ知ルコトヲ得ヘカリシナレハナリ

第九十四條 相手方ト通シテ爲シタル虚偽ノ意思表示ハ無効トス

前項ノ意思表示ノ無効ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

虚偽ノ意思表示

(第二百八解) 本條ハ所謂虚偽ノ意思表示ニ關スル規定ナリ(舊民法證據編第五十條乃至第五十二條參照)

所謂虚偽ノ意思表示アルハ表意者カ相手方ト通謀シテ眞意ニ非サル意思ノ表示ヲ爲シタル場合ナリ故ニ此場合ハ前條心裡留保ト異ナリ表意者カ故意ニ主觀的意思ト客觀的意思トノ不一致ヲ來サシメタルノ外尙ホ豫メ相手方ト通謀シタルコトヲ必要トス而シテ相手方ト通謀スルトハ即チ相手方ノ承諾ヲ受クルヲ云フナリ故ニ單ニ相手方カ表示セラレタル意思ノ眞意ニアラサルコトヲ知リタルノミノトキハ本條ノ適用ナクシテ却テ前條但書ニ依ルナリ

虚偽ノ意思表示ハ全ク無効ナルコト本條第一項ノ定ムル所ナリ是レ已ニ前條但書ノ場合ニ於テ意思表示ヲ無効トスル立法ノ本旨ヲ了解シタル以上ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明ナリ夫レ然リ然

ルニ虚偽ノ意思表示ノ場合ニハ表意者及ヒ相手方ハ其意思表示ヲ以テ真ノ意思表示ナルカノ如ク装ヒ以テ他人ヲ欺カント欲スルヲ常トスルモノナレハ他人ハ其意思表示ヲ有效ナルモノナリト信シテ諸種ノ取引ヲ爲スハ固ヨリ當然ナリ故ニ若シ其意思表示ノ無効ヲ以テ如此他人ニ對抗スルコトヲ得ルモノトセハ其利益ヲ害スルハ固トヨリニシテ其結果遂ニ法律的交通ノ不安ヲ來シ一般ノ信用ヲ傷クルニ至ルヤ多辯ヲ要セスシテ明ナリ是ヲ以テ本條第二項ハ虚偽ノ意思表示ノ無効ハ之ヲ以テ善意(即チ虚偽ノ意思表示ナルコトヲ知ラサルヲ云フ)ノ第三者(即チ表意者及ヒ相手方以外ノ者)ニ對抗スルコトヲ得サル者トナセリ然リ而シテ「………」………第三者ニ對抗スルコトヲ得スルコトハ表意者及ヒ相手方ヨリ第三者ニ向テハ其意思表示ノ無効ナルコトヲ以テ對抗スルヲ得サルノ意ナルヲ以テ第三者ヨリ表意者及ヒ相手方ニ對シテハ其無効ヲ主張スルコトヲ許ササルニ非ラサルナリ

今マ例ヲ以テ本條ノ適用ヲ示サン甲者アリ乙者ノ土地ヲ買受クルノ意ナキモ衆議院議員被選資格ヲ作ランカ爲メ乙者ニ依頼シ表面上乙者ノ土地ヲ買受ケタリ(此賣買ハ即チ虚偽ノ意思表示ナリ)(一)後チ乙者ヨリ其土地ノ返還ヲ請求スルトキハ甲者ハ此請求ヲ斥クルコトヲ得ス(何トナレハ本條第一項ニヨリ前ノ表面上ノ賣買ハ無効ナレハナリ)(二)丙者アリ右甲乙者間ノ土地賣買ノ虚偽ナルコトヲ知ルト雖トモ其土地カ甲者ノ名義ナルヲ奇貨トシ之ニ僅少ナル金錢ヲ支拂ヒ其土地ヲ買ヒ取リタリ後チ乙者ヨリ其土地ノ取戻ヲ請求スルヲアレハ丙者ハ其請求ヲ拒ムコトヲ得ス(何トナレハ丙者ハ惡意ナレハナリ)(三)丁者アリ右ノ賣買ノ虚偽ナルコトヲ知ラス之

隠蔽セラレタル法律行為ノ效力

ヲ有效ナリト信シテ其土地ヲ甲者ヨリ抵當ニ取り之ニ金錢ヲ貸與セリ(甲)後チ乙者ハ右賣買ノ無効ヲ主張シテ丁者ノ抵當權ノ無効ヲ唱フルコトヲ得ス(何トナレハ丁者ハ善意ナルヲ以テ本條第二項ノ保護ヲ受クルモノナレハナリ)(乙)之ニ反シテ丁者ハ右賣買ノ無効ヲ主張シ甲者ノ詐僞ヲ理由トシテ其ノ貸借ヲ取消シ縱令ヒ期限アリトスルモ直チニ貸金ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(是レ即チ善意ノ第三者カ虚偽ノ意思表示ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ル例ナリ)

(第二百九解) 表示者カ相手方ト通シテ虚偽ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テハ其虚偽ノ意思表示ニ依リテ他ノ眞實ナル意思表示ヲ隠蔽セントスルニアルコトアリ例ヘハ名ヲ賣買ニ借リテ其實單ニ寄託ヲ爲シタルカ如シ如此場合ニ於テハ其隠蔽セラレタル眞實ノ意思表示ノ效力ハ法律行為ノ通常規則ニヨリ定マルモノトス決シテ隠蔽セラレタル意思表示ナルカ爲メニ其效力ニ支障ヲ來タスモノニアラサルナリ是レ法律ニ明文ナシト雖トモ解釋論上當然ノ事ニ屬ス故ニ右ノ設例ニ於テ賣買ハ無効ナレトモ寄託ハ有效ナルモノトス

第九十五條 意思表示ハ法律行為ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス

但表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得ス

(第二百十解) 本條ハ表意者カ不慮ニ眞意ニアラサル意思表示ヲ爲シタル場合ニ就テ規定スル

モノナリ(舊民法財産編第三百九條乃至第三百一一條ヲ參照スヘシ)

夫レ表意者カ不慮ニ眞意ニアラサル意思表示ヲ爲スハ即チ表意者カ法律行爲ノ事ニ關シ錯誤ニ陷リタル場合ナリ錯誤ニハ二個ノ意義アリ一ハ誤認ニシテ一ハ不知ナリ前者ハ事物ニ關スル識認ノ中セサルヲ云ヒ後者ハ事物ニ關スル識認ノ全ク欠缺スルヲ云フ普通ニ錯誤ト云フトキハ前者ノ意義ヲ有スト雖トモ法律上ニ於テハ兩者共ニ包含セララルナリ

錯誤ハ觀察點ヲ異ニスルニ從ヒ種種ニ區別スルコトヲ得ヘシト雖トモ法律上ニ於テ重要ナルモノハ左ノ如シ

(一) 意思表示ノ理由(理由)ノ錯誤ト法律行爲其モノニ關スル錯誤 凡ソ表意者カ意思表示ヲ爲スニ至ルハ諸種ノ胸算想像ニ起ルモノナリ(例ヘハ後日大利益ヲ得ルノ時期アラント信シテ土地ヲ買フ、自己ノ住家カ燒失シタリト信シテ借家ヲ爲スノ類)如此胸算想像ニ付テノ錯誤ヲ名ケテ意思表示ノ理由ノ錯誤ト云フ此錯誤ハ意思表示ノ效力ニ影響スル所ナキヲ以テ法律上ノ原則トス(尤モ次條ノ詐欺ニ因リテ生シタル錯誤ハ例外トス)何トナレハ此ノ如キ全然表意者ノ心裡作用ニ屬スルモノヲ以テ意思表示ノ效力ニ影響アラシムルトキハ法的交通ノ安全得テ期ス可カラサレハナリ之レニ反シテ法律行爲其モノニ關スル錯誤ハ意思ノ内容ニ關スル錯誤ニシテ其結果ハ表示セラレタル意思(即チ客觀的意思)ノ内容ト眞實ノ意思ノ内容トノ不一致ヲ來タスモノナリ此ノ錯誤ハ意思說ノ主義ヲ採用スル法制ニ於テハ意思表示ノ效力ニ幾分ノ影響アルヲ常トス本條所定ノ錯誤ハ即チ此種ノモノニ屬スルモノトス例ヘハ錯誤ノ爲

メ、賣ルノ眞意ナリシニ買フト言ヒ、甲物ヲ賣ルノ眞意ナリシニ乙物ヲ賣ルト言ヒ、甲者ニ賣ルノ眞意ナリシニ乙者ニ賣ルト言ヒ、代金引換ニテ賣ルノ眞意ナリシニ掛賣リト言ヒシカ如キ類ナリ

(二) 一方ノ錯誤ト双方ノ錯誤トノ區別 是レ專ラ契約ニ付テ生スル區別ナリ一方ノ錯誤トハ例ヘハ甲倉庫ノ米ノ賣買ヲ約セシニ契約者ノ一方ハ甲倉庫トハ乙倉庫ノコトナリト信シタル場合ノ如ク契約者双方ノ意思表示ハ合致シタリシモ其一方ニ於テ錯誤ノ爲メ眞意ト表示セラレタル意思トカ齟齬スルナリ又双方ノ錯誤トハ例ヘハ甲倉庫ノ米ノ賣買ヲ約セシニ甲倉庫ト稱スル倉庫ニケアリテ契約者双方各異ナル倉庫ヲ考ヘ居リタル場合ノ如ク意思表示ハ表面上合致シタリト雖トモ契約者双方ニ於テ眞實ノ意思ト表示セラレタル意思トカ一致セサルヲ云フナリ然レトモ法律行爲即チ契約ノ效力ニ及ホス影響ノ上ヨリ論スルトキハ一方ノ錯誤ト双方ノ錯誤トノ間差異アルコトナキナリ故ニ此區別ハ講學上ノ區別トシテハ重要ナレトモ法律ノ實際上ニハ影響スル所ナキモノト云フヘシ

(三) 重要ナル錯誤ト不重要ナル錯誤トノ區別 夫レ表意者カ錯誤ニ陷リタルトキハ主觀的意思ト客觀的意思トノ不一致アルヲ以テ純然タル意思說ノ主義ニヨルトキハ其意思ハ法律上效力ヲ有セサルモノトナササルヲ得ス然リト雖トモ如何ナル輕微ナル錯誤ト雖トモ爲メニ其意思表示ノ效力ヲ妨クルモノトスルトキハ法的交通ノ安全得テ期ス可カラス是ヲ以テ各國ノ法制ハ皆錯誤ノ重要ナルモノニ限り意思表示ノ效力ニ支障ヲ及ホスモノトナセリ於是乎重要ナル錯

錯誤ノ效果

本條ノ解釋

法律行為ノ要素ノ解

誤ト不重要ナル錯誤トノ區別ヲ生ス本法亦此區別ヲ採用セリ而シテ如何ナル種類ノ錯誤カ本  
 法上重要ナルモノニ屬スルカハ次解ニ於ケル本條ノ解釋ニヨリテ明瞭トナルヘシ  
 以上ハ錯誤ノ種類ニ就テ論セリ次ニ錯誤ノ效果ニ付テ論センニ此點ニ關シテハ各國法制其揆ヲ  
 一ニセス或ハ錯誤ヲ以テ場合ヲ異ニスルニ從ヒ法律行為ノ無效若クハ取消ノ原因トナシ或ハ一  
 般ニ無効ノ原因トナス本法ハ後者ニ倣ヘリ蓋シ本法ニヨレハ次解ニ明ナルカ如ク所謂重要ナル  
 錯誤ノ範圍最モ狹小ナルヲ以テ場合ヲ區別シテ錯誤ノ效果ヲ異ニスルノ必要ナケレハナリ  
 予ハ以上ニ於テ本條ニ基キ錯誤ヲ概論シタリ請フ之ヨリ本條ノ解釋ニ移ラン  
 (第二百十一解) 本條本文ノ規定ニ依ルトキハ法律行為ノ要素ニ錯誤アルトキハ意思表示ヲ無  
 效ナラシムルモノナリ依是觀之本法上所謂重要ナル錯誤ハ法律行為ノ要素ニ付テノ錯誤ナリ然  
 ラハ法律行為ノ要素トハ如何曰ク特定ノ法律行為ノ必要構成分子ナリ詳言スレハ其法律行為ノ  
 性質上又ハ行為者ノ意思上必要缺ク可カラサルモノト認ムヘキ内容事項ナリ法律行為ノ性質  
 (賣買、交換、寄託ト云フカ如シ) 及目的物(賣買ノ物品、代價ノ如シ)ハ常ニ法律行為ノ要素ナ  
 ルコト疑ナシト雖トモ其他ノ事項ニ在リテハ個個ノ場合ニ就テ裁判官ノ認定ニ任スヘキ事實問  
 題ニ屬スルモノトス(例ヘハ無償行為ノ場合ニハ相手方ハ通常要素ナルヘシ何トナレハ無償行  
 爲ハ相手方ノ何人ナルヤヲ問ハスシテ之ヲ爲スカ如キハ人情ノ常ニアラサレハナリ又意思表示  
 ニヨリ物ニ一定ノ品質アルヲ要ストセシトキハ品質モ亦法律行為ノ要素ナリ)  
 右ノ如ク所謂重要ナル錯誤ハ法律行為ノ要素ノ錯誤ナルヲ以テ其要素以外ノ點ニ付テノ錯誤及

舊民法トノ比較

ヒ緣由ニ付テノ錯誤(前解(一號)ハ意思表示ノ效力ニ影響スル所ナキナリ反之苟クモ法律行為  
 ノ要素ニ錯誤アル以上ハ如何ナル場合ト雖トモ意思表示ハ全ク無効ナリ(無効ノ意義ニ付テハ  
 後チノ第十九條ヲ看ルヘシ)然リト雖トモ錯誤カ表意者ノ重過失ニ出テタルトキハ此限ニア  
 ラス是レ本條但書ノ規定スル所ナリ請フ少シク之ヲ解カン  
 夫レ重要ナル錯誤アル場合ニ於テ意思表示ヲ無効トスルトキハ相手方ニ取り迷惑シトセス然  
 レトモ表意者ノ過失ニ出テサルトキハ是レ已ムヲ得サルノ規定ナリ然レトモ錯誤カ表意者ノ過  
 失ニ出テタルトキハ相手方ヲ保護スルノ規定ナカル可カラス是ヲ以テ此過失ノ場合ニハ表意者  
 ハ一般不法行為ノ原則ニヨリ相手方ノ損害ヲ賠償セサル可カラサルハ勿論ナリ(本法第七百九  
 條以下)ト雖トモ法律ハ是ヲ以テ尙ホ足レリトセス表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意  
 者ハ自カラ進ンテ其意思表示ノ無効ヲ主張スルコトヲ得サルモノトナセリ然リ而シテ所謂重大  
 ナル過失トハ普通人トシテ少シク注意ヲ施サハ爲ササル過失ノ意ナルヲ以テ果シテ表意者ニ重  
 大ナル過失アリタルヤ否ヤハ個個ノ場合ニ就テ規定スヘキ事實問題ナリトス又表意者ニ重大ナ  
 ル過失アリタルトキハ表意者ノミ其意思表示ノ無効ヲ主張スルヲ得サルモノニシテ相手方ニ於  
 テハ其無効ヲ主張スルコトヲ妨ケサルヤ解釋上明ナリ  
 (第二百十二解) 予ハ以上ニ於テ本條ノ規定ヲ說了セリ終ニ臨ンテ本條ト舊民法(財産編第三  
 百九條以下)ノ規定トヲ比較セン  
 舊民法上合意ノ阻却原因タル錯誤ノ中合意ノ性質又ハ目的物ノ錯誤ハ法律行為ノ要素ノ錯誤ナ

ルコト勿論ナルヲ以テ本條ニ入ルナリ又合意ノ原因ノ錯誤ハ結局他ノ合意ノ構成要素ノ錯誤ニ歸スルコト一般學者ノ定論ナルヲ以テ所謂原因ノ錯誤ハ亦本條ニ入ルヘシ又當事者ニ關スル錯誤ハ決意ノ原因タルトキハ法律行為ノ要素ノ錯誤ナルヲ以テ亦本條ニ入ル反之合意ノ取消原因タル錯誤中決意ノ原因ヲ爲サル當事者ニ關スル錯誤ハ如此輕微ナル錯誤ヲ以テ契約ノ效力ヲ妨クルハ交通ノ不安ヲ來タスコト甚シキヲ以テ本法ハ之ヲ採ラス又目的物ノ品質品格ニ關スル錯誤ヲ以テ汎ク契約ノ瑕疵ヲ爲スモノトスルハ結局當事者カ自己ノ鑑定ヲ誤リタルヲ理由トシテ契約ノ效力ヲ左右スルヲ許スモノニシテ法的交通ノ安全ニ害アルヤ明ナリ故ニ本法ハ之ヲ採ラス(但シ當事者カ一定ノ品質品格ヲ指定シタルニ之ヲ得サリシトキハ事情ノ如何ニヨリ或ハ目的物ノ錯誤ト看做シ本條ノ適用ヲ受クルコトアルヘク或ハ詐欺ヲ理由トシテ次條ニヨリ契約ヲ取消スコトヲ得ヘシ)又履行ノ時及ヒ場所ニ關スル錯誤ハ通常輕微ナル錯誤ナルヲ以テ之ヲシテ法律行為ノ效力ニ影響セシムルハ取引ノ不安ヲ來タスカ故ニ本法ハ之ヲ採ラス(但シ履行ノ時場所ト雖トモ當事者カ特ニ之ヲ法律行為ニ缺クヘカラサル事項トシテ指定シタルトキハ本條ノ適用アルヤ勿論ナリ)又舊民法ハ特ニ合意ニ影響ナキ錯誤ヲ明定スト雖トモ如此ハ己ニ法律行為ノ效力ヲ左右スヘキ錯誤ヲ指示シタル以上ハ無用ノ長物ナレハ本法ハ之ヲ省ク又舊民法ハ法律ノ錯誤ト事實ノ錯誤トヲ區別スト雖トモ是レ陳腐ノ說ニシテ近世ノ法理ノ認メサル所ナリ蓋シ此兩者ヲ區別シテ法規ヲ異ニスル道理ナキニヨルナリ故ニ本法ハ之ヲ省ケリ

以上ハ錯誤ニ關スル新舊兩法ノ比較論ノ大略ナリ若シ夫レ舊民法カ錯誤ノ規定ヲ合意ノ部ニ入

レタルニ反シ本法カ之ヲ一般ノ法律行為ノ總則ニ編入シタルカ如キ顯著ナル差異ニ至テハ殆ント明指ヲ要セサル所ニシテ其優劣モ亦識者ヲ俟テ後テ知ラサルナリ

第九十六條 詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得

或人ニ對スル意思表示ニ付キ第三者カ詐欺ヲ行ヒタル場合ニ於テハ相手方カ其事實ヲ知りタルトキニ限り其意思表示ヲ取消スコトヲ得

詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

(第二百十三解) 本條ハ表意者カ他ヨリ決意ノ自由ニ拘束ヲ受ケテ爲シタル意思表示ノ效力ヲ定ムルモノナリ(舊民法財産編第三百十二條乃至第三百十七條參照)

表意者カ決意ノ自由ヲ全ク缺キタル場合(例ヘハ無理ニ其手ヲ執テ手形ニ署名捺印セシムルカ如シ)ニハ全ク意思ナキカ故ニ其外觀上ノ意思表示ハ全ク無効ナルヤ論ナシト雖トモ表意者カ他人ノ詐僞術中ニ陥リ又ハ強迫ニ遭遇シ爲メニ決意ノ自由ヲ拘束セラレタルトキハ全ク意思ナシト云フヲ得ス從テ其意思表示ヲ以テ無効トナスコトヲ得ス然リト雖トモ如此意思表示ヲ以テ全ク瑕疵ナキモノトシ全然有效視スルハ立法ノ宜キヲ得タルモノニアラサルコト多辯ヲ要セスシテ明ナリ之レ各國悉ク本條ニ類スル法規ヲ定ムル所以ナリ

予ハ本條ヲ解スルニ當リ便宜上分説ノ方法ヲ採リ先ツ詐欺ノ場合ヲ論シ而シテ後チ強迫ノ場合ヲ述ヘシ

詐欺ノ場合

(第二百十四解) 詐欺トハ他人ヲシテ錯誤ニ陥ラシメ以テ意思ヲ決定表示セシメンカ爲メ眞實ヲ虚示シ而シテ現實ニ其結果ヲ生シタルヲ云フ故ニ詐欺ハ

- (一) 故意ニ眞實ヲ虚示スルナリ 眞實ヲ虚示スルトハ事實又ハ法律ヲ構造隱蔽若クハ變狀シテ表示スルナリ是ヲ以テイ誤テ眞實ノ虚示ヲ爲スモ詐欺ヲ爲サス(自己ノ信認(見込)ニ反スル事ヲ表示スルモ客觀的眞實ニ反セサル以上ハ亦詐欺ヲ爲サス) 單ニ沈黙シタルトキ(例ヘハ他人ノ問ニ對シテ答ヘス又ハ他人ノ錯誤ニ陥ラントスルヲ知リテ之レヲ忠告セサルカ如シ)ハ亦詐欺ヲナサス
- (二) 他人ヲシテ錯誤ニ陥ラシメ以テ意思ヲ決定表示セシメンカ爲メニナシタルモノナリ 故ニ戲言ノ如キハ此意思ヲ以テスルニアラサルヲ以テ詐欺ニアラス
- (三) 他人カ現ニ錯誤ニ陥リ因テ意思ヲ決定表示シタルヲ要ス 故ニ(イ)他人カ虚偽ナルコトヲ知リタルトキ(虚示アルト否トニ拘ハラス其意思表示ヲ爲シタルトキ等ノ如キ虚示カ表意者ノ決意ニ影響ナカリシトキハ詐欺ニアラス

夫レ單純ノ錯誤(詐欺ニ因ラサル錯誤)ハ多クハ表意者ノ過失ニ出ツルモノナルヲ以テ之ニ由リテ常ニ意思表示ノ效力ヲ妨クルモノトスルハ不可ナルヲ以テ法律ハ只タ重要ナル錯誤ノ場合ニ限り意思表示ヲ無効トナシ其他ノ場合ニハ毫モ意思表示ノ效力ニ支障ナキモノトナセリ(前條參看) 然リト雖トモ他人ノ詐欺ニ因リ意思表示ヲ爲シタル者ハ縱令多少ノ過失アリトスルモ他人ノ惡所爲ニヨリテ錯誤ニ陥リタル者ナリ殊ニ詐欺者ハ詐欺ニヨリテ不當ノ利益ヲ得ントスルヲ以テ常トス然レハ即チ法律ハ此場合ニ於テハ被詐欺者即チ表意者ヲ保護シ詐欺者ヲ抑ヘサル可カラサルヤ理ノ當然ナリ是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ乃チ此規定ニヨルトキハ被詐欺者ハ其意思表示ノ取消權ヲ有スルモノナリ故ニ被詐欺者ハ其意思表示カ自己ニ不利ナルトキハ此權ヲ行使シテ其惡結果ヲ避クルヲ得ヘク又自己ニ利益ナルトキハ其儘意思表示ノ結果ヲ收ムルコトヲ得ヘキナリ(意思表示ノ取消ニ付テハ後チノ第二百十條以下ヲ看ルヘシ)

相手方ナキ意思表示ハ(例ヘハ相續ノ承認若クハ拋棄ノ如シ)何人ノ詐欺ニ因リテ之レヲ爲シタルヲ問ハズ表意者ハ毎ニ之ヲ取消スコトヲ得ヘシト雖トモ(尤モ第三項ニ注意スヘシ)相手方アル意思表示ノ場合ニ於テ局外者タル他人カ詐欺ヲ行ヒタルトキハ相手方ニ於テ其詐欺ヲ知リタルニアラサレハ意思表示ヲ取消スコトヲ得サルモノトス是レ本條第二項ノ規定スル所ナリ蓋シ若シ相手方カ局外者ノ詐欺ヲ知ラサルニモ拘ハラズ意思表示ノ取消ヲ許ストキハ多少過失アル所ハ被詐欺者ヲ保護センカ爲メ毫モ過失ナキ相手方ヲシテ他人ノ非行ノ結果ヲ負ハシムルノ不條理ニ陥レハナリ依是觀之詐欺ノ理由ヲ以テ相手方アル意思表示ノ取消ヲ許スハ相手方自カラ詐欺ヲ行ヒタルカ又ハ相手方カ他人カ詐欺ヲ行ヒタルコトヲ知リタル場合ニ限ルモノトス

被詐欺者ハ意思表示ノ取消權ヲ有スルヲ以テ之ヲ行使シタルトキハ何人ニ向テモ其取消ヲ以テ



強迫ノ場合

對抗スルコトヲ得サル可カラサルカ如シ然リト雖トモ元來詐欺ハ之ヲ發覺スルコト難ク殊ニ被詐欺者以外ノ者ニ於テハ最モ難シトナス故ニ意思表示カ詐欺ニ因由スルコトヲ知ラス之ヲ以テ完全無缺ナリト信シ各種ノ取引及ヒ計畫ヲ爲ス者アルハ理ノ當然ナリ然ルニ其意思表示ノ取消ヲ以テ之レ等ノ善意者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトセハ善意者ノ損害果シテ如何是ヲ以テ本條第三項ハ詐欺ニヨル意思表示ノ取消ハ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトナセリ

終リニ臨ミ本條詐欺ニ關スル規定ノ適用範圍ヲ一言セン夫レ欺欺ニ因リ表意者カ詐欺ニ陥リタル場合ニ就テ想像スルニ其詐欺ハ或ハ甲)法律行為ノ要素タル事項ニ付テ或ハ乙)法律行為ノ要素ニ屬セサル事項ニ付テ或ハ丙)法律行為ノ緣由タル事項ニ付テ存スルモノナリ若シ右甲)ノ場合ニ於テ表意者ニ甚シキ過失ナキトキハ前條ノ規定ニヨリ其意思表示ハ全ク無効ナリ故ニ本條ハ專ラ右乙)及丙)ノ場合並ニ右甲)ノ場合ニ於テ表意者ニ重大ナル過失アリタルトキニ適用アルナリ

(第二百十五解) 予ハ之ヨリ強迫ノ場合ヲ説カン

強迫トハ他人ヲシテ恐怖心ヲ生セシメ以テ意思ヲ決定表示セシメンカ爲メニ不正ノ害惡ヲ加ヘントスルノ意ヲ示シ而シテ現實ニ其結果ヲ生シタルヲ云フ故ニ強迫ハ

(一) 不正ノ害惡ヲ加ヘントスル意ヲ示スナリ 故ニ權利アリテ爲スモ強迫ニアラス又他人ノ身體ニ直接ノ暴行ヲ加ヘテ或ル行為ヲナシムルハ強迫ニアラス(暴行ハ全ク意思ノ欠缺ヲ來スコト前ニ述タリ反之強迫ハ單ニ意思ノ自由ヲ抑制スルノミ)

(二) 他人ニ恐怖ノ心ヲ生セシメ以テ意思ヲ決定表示セシメンカ爲メニナシタルモノナリ

(三) 他人カ現ニ恐怖心ヲ生シテ意思ヲ決定表示シタルヲ要スルモノナリ 強迫ノ行為アルモ決意ニ影響ナケレハ法律上強迫ニアラス(前解三)ノ説明ニ準ス)

本條ノ所謂強迫ノ意義ハ以上述フルカ如シ故ニイ)強迫者カ眞ニ害惡ヲ加ヘントスルノ意アルト否トロ)害惡ヲ表意者ニ加ヘントスル意ヲ示スト他人ニ加ヘントスル意ヲ示ストハ害惡ハ目前ニアルト將來ニアルトニ強迫ノ目的物如何(例ヘハ生命、身體、自由、名譽、財産等何レニテモ可ナリ)ホ)強迫者ノ何人ナルヤ(ハ)強迫ノ方法害惡ノ程度如何等總テ之ヲ問ハサルモノトス

本條第一項ニ依レハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ルナリ是レ固トヨリ至當ノ事ニシテ近世ノ各國立法例ノ概テ採用スル所ナリ

強迫ニ關スル本條ノ規定ハ意義明瞭ニシテ其解釋ニ付キ疑ノ生スヘキ餘地ナキヲ以テ之ヲ省ク以下ハ只タ注意ノ爲メ一言スルノミ

強迫ニ因ル意思表示ノ取消ハ善意ノ第三者ニ對シテモ效力アルナリ之レ詐欺ト異ナル所ナリ蓋シ詐欺ノ場合ニハ表意者ニ多少ノ過失アリト云フヲ得ルモ強迫ノ場合ニ在リテハ然ラサレハナシ詐欺ノ場合ニハ表意者ニ多少ノ過失アリト云フヲ得ルモ強迫ノ場合ニ在リテハ然ラサレハナリ

第三者カ強迫ヲ行ヒタル場合ニ於テ縱令相手方カ其事實ヲ知ラサルトキト雖トモ意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノナリ之レ亦詐欺ノ場合ト異ナル所ナリ蓋シ詐欺ノ場合ニハ多少過失アルモノト看ルヘキ被詐欺者ヨリモ第三者ノ事實ヲ知ラサル(即チ毫モ過失ナキ)相手方ヲ保護スルノ理由アリト雖トモ強迫ノ場合ニハ被強迫者ニ過失アリト云フヲ得サレハナリ

夫レ強迫ハ恐怖ヲ生シ恐怖ハ即チ感思ノ瑕疵ヲ成ス於是乎凡ソ恐怖ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消  
 スコトヲ得サル可カラストノ法理論アリ即チ例ヘハ將ニ洪水ノ爲メ溺レントスル者他人ニ救ヲ  
 求メテ曰ク汝予ヲ救ハハ千金ノ報酬ヲ與ヘント水ヲ能クスル者アリ之ヲ救ヒタリトセンニ其者  
 ニ恐怖心ニ因リ意思表示ヲ爲シタルモノナルヲ以テ之ヲ取消シ千金ノ義務ヲ免カルルヲ得サル  
 可カラストノ説アルナリ(舊民法財産編第三百十三條第二項參照)然レトモ是レ謂ハレナキ議  
 論ニシテ探ルニ足ラサルヲ以テ本條ハ之ヲ省ケリ

第九十七條 隔地者ニ對スル意思表示ハ其知通ノ相手方ニ到達シタル時  
 ヨリ效力ヲ生ス

表意者力通知ヲ發シタル後ニ死亡シ又ハ能力ヲ失フモ意思表示ハ之力  
 爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

隔地者ニ對  
 スル意思表示  
 生ノ效力發

(第二百十六條) 本條ハ隔地者ニ對スル意思表示ノ效力發生ノ時期ヲ定メタルモノナリ(舊民  
 法財産編第三百八條財産取得編第二百五十七條)  
 隔地者ニ對スル意思表示ノ效力發生時期如何ハ實際上ノ關係重大ニシテ適當ニ之ヲ規定スルコ  
 ト甚タ困難ナリ故ニ從來此問題ニ就テハ議論百出今日ト雖トモ學說立法例未タ一ニ歸セサルナ  
 リ予ハ今先ツ此等ノ諸說中根本的ナルモノヲ舉ケ之ニ付キ簡短ナル評論ヲ下シ而シテ後チ本條

ノ解釋ヲ爲スヘシ

諸學說

- (第二百十七條) 隔地者ニ對スル意思表示ノ效力發生ノ時期ニ關スル諸說ハ左ノ如シ
- (一) 表白說 是レ即チ表意者カ意思ノ決定ヲ外形上ニ顯ハシタル時ヲ以テ本間ノ時期トナスモ  
 ノナリ例ヘハ書狀ヲ認メタル時ヲ以テ意思表示ノ效力ヲ發生スト云フカ如シ
  - (二) 發信說 是レ即チ表意者カ相手方ニ對シテ意思表示ノ通知ヲ發シタル時ヲ以テ本間ノ時期  
 トナスモノナリ例ヘハ書狀ヲ郵便ニ附シ又ハ使者ヲ發シタル時ハ意思表示ノ效力發生スト云  
 フカ如シ
  - (三) 受信說 是レ即チ意思表示ノ相手方カ其意思表示ノ通知ヲ受領(到達)シタル時ヲ以テ本間  
 ノ時期トナスモノナリ例ヘハ書狀到着シ又ハ使者到着シタル時ハ意思表示ノ效力發生スト云  
 フカ如シ
  - (四) 了知說 是レ即チ意思表示ノ相手方カ其意思表示ヲ了知シタル時ヲ以テ本間ノ時期トナス  
 モノナリ例ヘハ書狀ヲ披見シタル時又ハ使者ノ口上ヲ聞キタル時ハ意思表示ノ效力發生スト  
 云フカ如シ
  - (五) 折衷說 是レ即チ以上ノ諸說ヲ折衷シタルモノニシテ或ハイ意思表示ノ效果ハ其通知ヲ發  
 シタル時ニ發生シタルモノトナスヘシト雖トモ意思表示カ取消シ得ヘカラサルモノトナルハ  
 初メテ其通知カ相手方ニ到達セシ時ナリト説キ或ハロ意思表示ハ其通知カ相手方ニ到達シタ  
 ル時ヲ以テ效力ヲ發生スト雖トモ一旦其效力ヲ發生シタルトキハ通知發達ノ時ニ遡ルト説キ

或ハ(ハ)意思表示ハ表意者ニ對シテハ其通知發送ノ時ニ相手方ニ對シテハ其通知到達ノ時ニ效力ヲ發生スト説ク者アリイ及ロ説ハ其實際上ノ結果ニ至テハ同一ナルモノニシテ只々其立論ノ順序ヲ異ニスルノミ即チイ説ハ發信説ヲ基トシ之ニ受信説ノ一班ヲ加味シロ説ハ受信説ヲ根本トナシ之ニ發信説ノ思想ヲ加ヘタルモノナリ又ハ説ハ表意者ニ對シテハ發信説ヲ探リ相手方ニ對シテハ受信説ヲ適用シタルモノナリ

以上隔地者ニ對スル意思表示ノ效力發生ノ時期ニ關スル諸説ニ付キ本法立法ノ立脚點ヨリ短評ヲ下スコト左ノ如シ(予輩ノ私見ハ必シモ本法立法者ノ意見ト一致セス然レトモ今ハ之ヲ省ク)

右ノ諸説中丁知説ハ能ク相手方アル意思表示ノ性質及ヒ本旨ニ適スルモノナルヲ以テ理論上ヨリ觀察スルトキハ正ニ採用スヘキモノナリ然リト雖トモ此説ニ依ルトキハ表意者ハ往往相手方ニ於テ意思表示ノ通知ヲ丁知シタルヤ否ヤヲ確知スルコトヲ得サルヲ以テ相手方カ實際其通知ヲ丁知シタルニモ拘ハラズ之ヲ知ラスト僞ル場合ニ於テ之レカ反對ヲ證明スルコト極メテ難キノ弊アリ且又此説ニ依ルトキハ意思表示ノ效力發生ノ時期ハ相手方ノ惡意又ハ怠慢ニ因リ無限ニ遲延セラルルノ弊アルナリ故ニ此説ハ理論上ハ不可ナシト雖トモ實際ノ便宜ニ適ハサルナリ又表白説ハ意思表示ノ本旨ニ適ハサル所アリ(後段參照)加之此説ハ亦實際ノ便宜上缺點アリ即チ之レニヨルトキハ相手方ハ表意者ニ於テ表白行為ヲ爲シタルヤ否ヤヲ確知スルコトヲ得サルカ爲メ丁知説ニ付テ述タル所ニ類スル反證ノ困難ヲ感シ其他相手方ニ不利ノ結果ヲ生セシムルノ

弊アルナリ又折衷説ハ或ハ實際ノ便宜ニ適フトスルモ皆毫モ理論上ノ根據ヲ有セサルナリ右ノ如ク丁知説表白説及ヒ折衷説ノ三者ハ實際上ハ理論上ノ缺點アルコト明ナリ然リ而シテ之レニ關スル右ノ評論ヲ咀嚼スレハ本問題ハ勢ヒ發信説若クハ受信説二者其一ニ依リテ決セラルヘキ者ナルコトヲ覺ルヘキナリ然ルニ此兩說中何レヲ採ルヘキヤニ就テ學說最モ紛紛タリ本法ハ本條ニ於テ一般法律行為ノ通則トシテ受信説ヲ採用シタリ而シテ其理由ヲ釋スルニ抑モ法律行為ニ就テ行為者ノ意思ノ決定ノミヲ以テ足レリトセス尙ホ其表示ヲ必要トスル所以ノモノハ關係者ヲシテ其意思ノ決定ヲ了知セシメンカ爲メナリ故ニ丁知説ヲ以テ最モ理論上可ナリトスルモ該説ハ前段ニ述ヘタルカ如キ實際上ノ弊害アル故ニ採用スルコトヲ得ス今マ發信説及ヒ受信説ハ兩者共ニ法律行為ニ就テ意思ノ表示ヲ必要トシタル法律ノ本旨ニ適ハスト雖トモ已ニ丁知説ヲ採用スルコトヲ得スト決シタル以上ハ右兩說中該説ノ理論ニ最モ近似スルモノヲ採ルヲ可トス然ルニ右兩說中受信説ハ比較的丁知説ニ近シ何トナレハ意思表示カ相手方ニ到達シタルトキハ相手方ハ即時之ヲ了知スルヲ以テ通常トナセハナリ故ニ理論上ヨリ考レハ發信説ヲ排シテ受信説ヲ採用セサルヲ得サルナリ然ラハ實際ノ便宜上ヨリ論スレハ如何曰ク多クノ場合ニ於テハ受信説ヲ可トスレトモ二三ノ場合ニ於テハ發信説ニ依ルヲ便利トスルコトアリ是ヲ以テ特別ノ法律行為ニ就テハ發信説ヲ認メサルヲ得スト雖トモ一般法律行為ノ通則トシテハ受信説ヲ採用スルヲ便利トナスナリ

以上ノ見解ニヨリ本法ハ本條ニ於テ隔地者ニ對スル意思表示ノ效力發生ノ時期ニ關シ法律ノ通

則トシテ受信説ヲ採リ而シテ特別ノ法律行為ニ關シテハ例外規定トシテ發信説ヲ採用シタリ此  
例外規定ノ最モ顯著ナルモノヲ契約ノ承諾ニ關スル第五百二十六條ナリトス（其他本法第十九  
條ノ類アリ）

本條ノ解

（第二十八條） 本條ハ專ラ隔地者ニ對スル意思表示ニ就テ規定ス夫レ隔地者ト云ヘハ一見遠  
隔ノ地ニ在ル者ノ如シト雖トモ如此文字ニ拘泥シテ其意ヲ定ムルトキハ狹キニ失ス蓋シ其法理  
上ノ意義ハ總ヘテ對談者以外ノ者ヲ指スナリ故ニ電話ヲ以テスル場合ハ本條ノ關スル所ニアラ  
ズ又本條ノ意思表示ハ明示ノモノニ限ル是レ本條ニ於テ「、通知ノ、」トアルニヨリテ  
明ナリ何トナレハ默示ノ意思表示ノ場合ニハ其通知アルヘキ道理ナケレハナリ

本條第一項ニ依レハ隔地者ニ對スル意思表示ノ效力發生ノ時期ハ其通知カ相手方ニ到達シタル  
時ナリ通知カ到達スルトハ例ヘハ書狀、電信、使者等カ相手方ニ着スルヲ云フ然レトモ相手方  
其人自身カ其通知ヲ受取リタルコトヲ要セスシテ其代理人ト看做スヘキ人（家族、雇人等）カ  
之ヲ受取リタルトキハ通知ハ到達シタルモノトス

如此隔地者ニ對スル意思表示ハ其通知カ相手方ニ到達シタル時ヲ以テ其效力ヲ生スルモノト定  
メタル以上ハ其結果トシテ意思表示ノ通知カ相手方ニ到達スル前又ハ同時ニ其取消ノ通知相手  
方ニ達スレハ取消有效トナリ反之取消ノ通知カ意思表示ノ通知到達後ニ到着スルトキハ其取消  
ハ無効ナリ

又受信説ノ結果トシテ表意者カ既ニ意思表示ノ通知ヲ發シタル後ト雖トモ其未タ相手方ニ到達

相手方ナキ  
意思表示ノ  
效力發生ノ  
時期

セサル時間ニ於テ死亡シ又ハ事實上若クハ法律上ノ能力ヲ失ヒタルトキ（例ヘハ發狂シ若クハ  
禁治産者トナルカ如シ）ハ意思ノ全部若クハ一部ノ欠缺ヲ生スルカ故ニ法律行為ノ原則ニヨリ  
其意思表示ハ完全ナル効ナクシテ無効若クハ取消シ得ヘキモノトナラサルヲ得サルカ如シ然レ  
トモ本條第二項ハ實際ノ便宜上ヨリシテ如此事由ノ生スルモ意思表示ハ爲メニ其效力ヲ妨ケラ  
レスシテ完全ナル効ヲ生スルモノト定メタリ蓋シ如此事由生スルモ相手方ハ之ヲ知ラサルヲ以  
テ常トスルカ故ニ其事由ノ爲メ意思表示ノ效力ヲ妨クルモノトスルトキハ不測ノ損害ヲ蒙ルヘ  
ケレハナリ然リト雖トモ表意者カ豫メ此規定ニ反對スル意思表示ヲ爲シタルトキハ固トヨリ之  
ニ從フヘキナリ（尙ホ後チノ第五百二十五條ニ注意スヘシ）

（第二十九條） 相手方ナキ意思表示對談者ニ對スル意思表示及ヒ默示ノ意思表示ニ付テハ本  
條ニ類スル一般的规定ナシ（契約ノ承諾ニ付テハ第五百二十六條第二項ノ特別規定アリ）故ニ法  
律ハ此等ノ意思表示ノ效力發生ノ時期ハ之ヲ執法官ノ解釋ニ一任シタルモノト云フヘシ然リ而  
シテ本條ニ於テ受信説ヲ以テ發信説ニ優ルトナシタル立法ノ精神ニ依リ本法ノ法理ヲ探究スル  
ニ此等ノ意思表示ニハ其性質ノ容ス限リハ了知説ノ趣旨ヲ應用スヘキモノトス故ニ對談者ニ對  
スル意思表示ハ對談者カ之ヲ知了シタル時（然レトモ對談者ハ意思表示ト同時ニ之ヲ了知スル  
ヲ常トスルカ故ニ發信説ノ趣旨ヲ應用スト云フモ實際上多クノ場合ニ於テ結論ヲ同フス）又相  
手方ナキ意思表示ハ之ヲ了知スヘキ一定ノ對手者ナキヲ以テ表意ノ時又默示ノ意思表示ハ相手  
方ニ於テ其意思表示ト認ムヘキ事實ノアリタルコトヲ知リタル時ヨリ其效力ヲ發生スルモノト

云ハサルヲ得サルナリ

二九〇

第九十八條 意思表示ノ相手方力之ヲ受ケタル時ニ未成年者又ハ禁治産者ナリシトキハ其意思表示ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス但其法定代理人力之ヲ知りタル後ハ此限ニ在ラス

未成年者及  
ヒ禁治産者  
ニ對スル意  
思表示

(第二百一十條) 本條ハ未成年者又ハ禁治産者ニ對スル意思表示ノ效力ヲ規定スルモノナリ  
未成年者及ヒ禁治産者ハ一般ノ法律行為(即チ意思表示)ニ就テノ無能力者ニシテ其自ラ意思表  
示ヲ爲ス場合ハ本編第一章第二節ニ於テ規定スル所ナリ而シテ其規定ハ未成年者及ヒ禁治産者  
ヲ保護スルニアリ本條ハ即チ此精神ヲ貫カントスルニアリテ要スルニ未成年者又ハ禁治産者ニ  
對シテ爲シタル意思表示ハ其法定代理人力之ヲ知りタル後チニアラサレハ該兩者ニ對抗スル  
コトヲ許ササルナリ(對抗云々トアルカ故ニ未成年者又ハ禁治産者ハ自己ノ利益ノ爲メ表意者  
ニ對シ其意思表示ノ效力ヲ致サシムルヲ得ルヤ明ナリ)  
本條ニ於テハ只タ未成年者及ヒ禁治産者ニ對スル意思表示ノミニ就テ規定シ其他ノ無能力者即  
チ準禁治産者及ヒ妻ニ對スル意思表示ニ就テハ別ニ定ムル所ナシ故ニ此兩者ニ對スル意思表示  
ノ效力ハ普通人ニ對スル意思表示ニ於ルト同シキナリ蓋シ此兩者ハ一般ノ行為ニ付テ無能力ナ  
ルニ非スシテ只タ自ラ重要ナル行為ヲ爲スニ方リ保佐人又ハ夫ノ同意ヲ要スルノミナルヲ以テ

法律ハ他人ヨリ之ニ對シテナス所ノ意思表示ニ關シテハ特更ラニ之ヲ保護スルノ必要ナシト爲  
シタルナリ

### 第三節 代理

代理ノ性質

(第二百一十一條) 或ル法律行為ノ效果タル法律關係ヲ生セシメント欲スル者ハ自カラ其行為  
ヲ爲スヲ以テ常トス然レトモ或ハ自己ノ便宜上或ハ法律上ノ能力欠缺スルカ爲メ往々他人ノ助  
成ニ依ルコトアリ此助成ニ二種アリ曰ク表示上ノ助成(表示上ノ代理ト名ク)曰ク意思上ノ助  
成(意思上ノ代理ト稱ス)是レナリ前者ニ在リテハ意思表示ノ内容ハ本人(即チ其法律行為ノ  
效果ヲ生セシメント欲スル者)之ヲ定メ助成者ハ唯タ其本人ノ意思ヲ外部ニ向テ表顯スルニ止  
マルモノナリ故ニ其助成者ハ本人カ其意思ヲ表示スルニ用ユル器具ニ過キスシテ書狀電話機ト  
法理上異ナルコトナキナリ例ヘハ單ニ手ノ口上ヲ述フヘキ使者ハ表示上ノ助成者ナリ之レニ反  
シテ後者ニ在リテハ意思表示ノ内容ヲモ亦助成者之ヲ決定スルモノニシテ所謂本人ニ代リテ便  
宜事ヲ處スルナリトス故ニ助成者ハ本人ノ器具ニアラスシテ自カラ意思ヲ決定シ其自己ノ意思  
ヲ表示シ而カモ其效果ハ之ヲ本人ニ歸セシムルモノナリ代理ナル語ハ廣汎ナル意義ニ於テハ右  
ニ述ヘタル表示上ノ助成及ヒ意思上ノ助成二者共ニ包含スト雖トモ其普通ノ意義ハ只タ後者ノ  
ミヲ指スナリ本節ノ代理ナル語モ亦此普通ノ意義ヲ有スルナリ請フ左ニ其定義ヲ述ヘン  
代理ノ性質ニ關シテハ從來種種ノ說アリト雖トモ其小異ヲ捨テテ大同ヲ取ルトキハ次ノ二說ニ

歸ス

二九二

(第二) 代理トハ法律上或ル人(本人即チ被代理者)カ他人(即チ代理人)カ爲シタル法律行爲ト同一ナル法律行爲ヲ爲シタルモノト看做シ其人ニ對シテ該法律行爲ノ效果ヲ生セシムルモノナリ

此說ニ依ルトキハ代理ノ特質ハ左ノ三點ニアリ

(一) 法律行爲ハ代理人ノ法律行爲ナリ (二) 然レトモ此法律行爲ノ效果ハ代理人ニ對シテ生スルニアラスシテ却テ被代理者(本人)ニ對シテ發生スルモノナリ (三) 何トナレハ法律ハ被代理者カ代理人ノ爲シタル法律行爲ト同一ナル行爲ヲ爲シタルモノト看做セハナリ

(第二) 代理トハ或ル人(本人)カ爲サントスル法律行爲ヲ他人(代理人)カ助クルナリ

此說ニ依ルトキハ代理ノ特質ハ左ノ二點ニアリ

(一) 代理人ノ行爲ハ獨立行爲ニアラスシテ補助行爲ナリ (二) 法律行爲ハ本人ノ意思ト代理人ノ意思ニ依リテ成立スルニ至ルモノナリ故ニ法律行爲ハ有效無效等ハ兩者ノ意思ヲ標準トシテ處斷スルヲ以テ原則トス

本法ハ右ノ二說中ニ就キ第一說ヲ採用シタリ是レ其九十九條第一項ニ依リテ殆ント疑ヒナキ所ニ屬ス而シテ第一百一條ノ如キハ其結果ナリト云フヘキナリ

代理ノ性質右ノ如クナル以上ハ學說上ニ於テ間接代理(之レト區別スル爲メ右ニ説明シタル眞ノ代理ヲ直接代理ト名ク)ト稱スルモノハ法理上代理ノ性質ヲ有セサルモノト所謂間接代理

間接代理ハ  
代理ニアラ  
ス

代理權

授權

トハ甲者(即チ代理人)ハ自己ノ名義及ヒ責任ヲ以テ法律行爲ヲ爲シ(從テ其法律行爲ノ效果ハ甲者ニ對シテ生ス)而シテ後チ其法律行爲ノ效果ヲ更メテ乙者(即チ本人)ニ移スナリ例ヘハ仲買人カ或ル物ヲ賣買シ而シテ後チ其賣買ニ依リテ取得シタル物品若クハ代金ヲ依託契約ニ基キ依託人ニ移轉スルカ如シ(此場合ニ於テ賣買ノ相手方ニ對シテハ仲買人契約本人ニシテハ依託人ハ無關係ナル第三者ナリ)此間接代理ハ其最終ノ實際上ノ結果ニ於テ前段ニ説明シタル眞ノ代理ト其接ヲ一ニスト雖トモ其法理上ノ性質ノ異ナルコトハ深ク論セスシテ明ナリ

(第二百二十二條) 或ル人(代理人)カ他人(本人)ノ爲メニ法律行爲ヲ爲シ其效果ヲシテ(恰カモ其他人カ該法律行爲ヲ爲シタルカ如ク)之ニ對シテ生セシムルコトヲ得ルノ權ナリ此代理權ハ或ル法律規定ニ基テ生スルコトアリ(後述ノ法定代理即チ是レナリ)或ハ本人ノ意思ニ基テ發生スルコトアリ(後述任意上ノ代理即チ是レナリ)然リ而シテ本人カ代理人ニ代理權ヲ附與スル行爲ヲ授權ト云フ(授權ニ付テハ尙ホ次段ヲ看ルヘシ)又代理權ノ範圍ハ其發生基因タル法律規定又ハ授權ニ依リテ定マルヲ以テ原則トス然レトモ權限ノ定メナキ場合ニ於テハ爭疑ヲ生スルヲ以テ本法ハ特ニ此ノ場合ニ處スヘキ規定ヲ示セリ(本法第百三條)

授權ハ單獨行爲ナリヤ將タ双方行爲ナリヤ詳言スレハ授權ハ本人ノ意思表示ノミニテモ有效ニ成立スルヤ將タ其外代理人ノ承諾アルニアラサレハ成立セサルヤ即チ委任ナリヤ(本法第六百四十三條以下參看)ハ一ノ疑問ナリ此疑問タル本法第百九條ノ解釋ニ依リテ決定セラルヘキモノナリト雖トモ同條ノ文意聊カ曖昧ナル所アルカ爲メ未タ其解釋一定スルニ至ラス現ニ現行民

代理ノ區別

法起草委員間ニ於テモ亦見解區々ニ出ルカ如シ（明治廿九年法學協會雜誌第十四卷自第六號至第十號討論參看）予輩ハ此問題ニ付テハ獨特ノ意見ヲ有ス而シテ予輩ノ結論ハ授權ハ單獨行為ナリト云フニアリ而シテ其立論ノ根據及ヒ反對說ノ反駁ハ請フ之ヲ後チノ第九九條ノ說明ニ讓ラン

（第二百二十三條）

代理ハ觀察點ヲ異ニスルニ從ヒ種種ニ區ツコトヲ得其重要ナルモノ左ノ如シ

- (一) 法定代理及ヒ任意代理前、者ハ代理權發生ノ原因カ法律ノ規定ニ存スルモノナリ舊民法ハ此種ノ代理中裁判所カ法律規定ニ依リテ代理人ヲ選任スル場合（例ハ本法第二十五條、第五十六條ノ如シ）ヲ裁判上ノ代理ト稱シ特種ノ代理トナセシモ是レ假令間接トハ雖トモ同シク法律規定ニヨリ代理權ノ發生スル場合ナルヲ以テ法定代理ノ内ニ入ルヘキ者ニシテ決シテ特種ノ代理ト看做スヘキモノニアラス故ニ本法ハ之ヲ改メタリ父母、後見人、法人ノ理事、不在者ノ財産管理人ノ如キハ法定代理人ノ例ナリ反之任意代理ハ代理權カ本人ノ意思ニ基クモノニシテ代理ハ通常此種ニ屬スルモノナリ

- (二) 有限代理及ヒ無限代理、前者ハ代理權ノ範圍カ特定セラレタルモノニシテ從來一ニ特別代理ト稱スルモノナリ後者ハ其範圍ノ特定セラレサルモノニシテ從來一ニ總理代理ト名クルモノナリ（本法第百三條ノ說明ヲ參看スヘシ）

- (三) 表名代理及ヒ匿名代理、前者ハ本人ノ何人ナルヤヲ表示シテ爲スモノニシテ後者ハ其否ヲサルモノナリ（本法第九十九條及ヒ第百條參看）

- (四) 有權代理及ヒ無權代理 前者ハ代理人カ代理ヲ爲ス時ニ代理權ヲ有スルモノニシテ後者ハ當時其權ヲ有セサルモノナリ（本法第百十三條乃至第百十八條參看）

第九十九條 代理人カ其權限内ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ爲シタル意思表示ハ直接ニ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ第三者カ代理人ニ對シテ爲シタル意思表示ニ之ヲ準用ス

（第二百二十四條） 本條ハ代理ノ效果ヲ示シタルモノナリ（舊民法人事編第九十七條、第二百二十六條、財産取得編第二百二十九條第一項第二百四十四條第二百五十條第一項參照）

凡ソ代理ニ於テハ代理人ノ意思表示ハ本人ノ意思表示ト看做サレ直接ニ本人ニ對シテ效果ヲ生ス故ニ代理人ノ意思表示ニヨリ權利ヲ得義務ヲ負フ者ハ本人ニシテ代理人ハ毫モ之レニ關係ナキモノトス然レトモ代理カ此效果ヲ有スルニハ次に二要件ノ具備スルコトヲ要ス

- (一) 代理人カ其代理權内ニ於テ意思表示ヲ爲シタルコト、若シ代理人カ其權限外ニ涉リ行為ヲ爲ストキハ其行為ニ付テハ決シテ代理人ニアラサルナリ（尙ホ後チノ第百十三條以下ヲ看ルヘシ）

- (二) 代理人カ本人ノ爲メニ其意思表示ヲ爲スコトヲ示シタルコト、所謂本人ノ爲メニ意思表示ヲ爲ストハ本人ニ代リテ意思表示ヲ爲スノ意ナリ舊民法及外國多數ノ法制ニ依レハ代理人ハ

代理人ノ行為ノ效果

代理ノ效果

代理人ニ對  
スル行為ノ  
效果

必ス本人ノ名ヲ以テ行為ヲナスコトヲ要スト定ムルト雖トモ是レ狭キニ失シ正當ノ理由ナキ  
ヲ以テ本條ハ假令本人ノ名ヲ以テ爲ササルモ本人ニ代リテ行為ヲ爲スコトヲ示ス以上ハ有效  
ナル代理行為トナセリ(尙ホ次條ヲ見ルヘシ)

二九六

(第二百二十五解) 右ハ専ラ代理人カ爲ス所ノ意思表示ニ付テ論セリ今反對ニ第三者(本人以  
外ノ者)ヨリ代理人ニ對シテ爲ス意思表示ノ效果ヲ論セン乃チ本條第二項ニヨレハ此場合ニモ  
亦前解所説ノ規定ヲ準用スヘキナリ是ヲ以テ第三者カ代理人ニ對シテ(一)其代理權限内ニ屬スル  
事項ニ付キ(二)本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ(換言スレハ本人ニ對シテ效果ヲ生セシムル意思  
ヲ示シテ)意思表示ヲ爲ストキハ其意思表示ハ直接ニ本人ニ對シテ效力ヲ生スルモノトス

第百條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サスシテ爲シタル意思表示  
ハ自己ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但相手方カ其本人ノ爲メニ  
スルコトヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ前條第一項ノ規  
定ヲ準用ス

(第二百二十六解) 本條ハ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サスシテ爲シタル意思表示ノ效  
果ヲ定ムルモノナリ(舊民法人事編第九十七條、財産取得編第二百二十九條第二項參照)  
前條ニ依レハ代理人ノ意思表示カ本人ニ對シテ效力ヲ生スルニハ本人ノ爲メニ爲スコトヲ示ス

本人ノ爲メ  
ニスルコトヲ  
示ササル代  
理人ノ行為

ヲ以テ第一要件トナス故ニ若シ代理人カ其要件ヲ充實セスシテ爲シタル意思表示ハ本人ニ對シ  
テ效力ヲ生セサルヤ論ヲ俟タサルナリ(前條所掲ノ代理人ノ意思表示ニ關スル第一要件即チ代  
理人ハ代理權限ヲ越ユルコトヲ許サストノ規定ニ背キタル場合ニ付テハ後チノ第一百十三條以下  
ヲ看ルヘシ)又此場合ニ於テハ代理人ハ自己ノ爲メニ其意思表示ヲ爲スノ意思ヲ有スルモノニ  
アラサルカ故ニ代理人ニ對シテモ亦タ該意思表示ノ效力ヲ生スヘカラサルニ似タリ(前第九十  
五條ノ適用)然リト雖トモ若シ如此クナルトキハ他人ハ動モスレハ不測ノ損害ヲ蒙ルヲ以テ取  
引ノ安全ヲ害スルコト尠シトセス蓋シ代理人カ意思表示ヲ爲スニ方リ本人ノ爲メニスルコトヲ  
示サルルトキハ他人ハ代理人カ自己ノ爲メニ其意思表示ヲ爲シタルモノト信シテ取引ヲ爲スハ  
理ノ當然ナリ然ルニ其所信ニ反センニハ他人ノ失望洵ニ想フヘキナリ是ヲ以テ法律ハ如此他人  
ヲ保護センカ爲メ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サスシテ意思表示ヲ爲シタルトキハ代理  
人自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做スト定メ代理人ヲシテ其意思表示ノ效果ヲ受ケシメタリ而  
シテ此規定カ代理人ニ取リ不當ナラサルハ代理人ニハ此場合ニ於テ少クモ怠慢ノ責ムヘキモノ  
アルニ因ルナリ夫レ然リ然レトモ此レ全ク代理人カ本人ニ代リテ意思表示ヲ爲スコトヲ知ラザ  
リシ者ヲ保護スルニ出テタル規定ナルヲ以テ若シ他人カ其情ヲ知り若クハ之ヲ知ラザリシハ過  
失ニ出テタリト認定スヘキトキハ之レニ依ラスシテ前條第一項ヲ準用シ本人ニ對シテ意思表示  
ノ效力ヲ生スルモノトス蓋シ如此場合ニハ代理人ハ本人ノ爲メニ意思表示ヲ爲スノ意思ヲ有シ  
而シテ其相手方タル他人ハ其意思ヲ知り(知ルコトヲ得ヘカリシハ知リシト同様ニ論定スルコ



トヲ得ヘシ)タルモノナルヲ以テ只タ偶マ本人ノ爲メニスルコトヲ示ササリシノ理由ヲ以テ其之ヲ示シタル場合ト法律上ノ取扱ヲ異ニスヘキ道理ナケレハナリ

第一百條 意思表示ノ効力カ意思ノ欠缺、詐欺、強迫又ハ或事情ヲ知り

タルコト若クハ之ヲ知ラサル過失アリタルコトニ因リテ影響ヲ受クヘキ場合ニ於テ其事實ノ有無ハ代理人ニ付キ之ヲ定ム

特定ノ法律行為ヲ爲スコトヲ委託セラレタル場合ニ於テ代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒ其行為ヲ爲シタルトキハ本人ハ其自ラ知りタル事情ニ付キ代理人ノ不知ヲ主張スルコトヲ得ス其過失ニ因リテ知ラサリシ事ニ付キ亦同シ

(第二百二十七解) 本條ハ代理ニ於ル意思表示ノ効力ハ如何ナル程度マテ本人若クハ代理人ノ意思ノ状態ニ依リテ判定スヘキヤヲ定ムルモノナリ  
代理ノ定義ニ就テ説述シタルカ如ク代理ニ於ケル意思表示ハ代理人ノ意思ノ表示ナリ故ニ凡ソ意思ノ状態カ意思表示ノ効力ニ影響スル場合ニ於テハ代理人ノ意思ノ状態ニ依テ判定スヘキモノニシテ本人ノ意思如何ハ問フヲ要セサルナリ是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ此規定ニ依

レハ意思ノ欠缺(尤モ次條ヲ看ルヘシ)詐欺、強迫又ハ或ル事情ヲ知りタルコト若クハ之ヲ知ラサル過失アリタルコトカ意思表示ノ効力ヲ左右スヘキ場合ニ於テハ代理人ノ意思ヲ標準トシテ其事實ノ有無ヲ決スヘキモノトス故ニ例ヘハ代理人カ心裡留保若クハ虚偽ノ意思表示ヲ爲シ又ハ法律行為ノ要素ニ付キ錯誤ヲ爲シタルトキハ其意思表示ハ全ク無効ナルヘク(前第九十三條乃至第九十五條參看)又詐欺強迫ニ因リ代理人ノ意思表示ニ瑕疵アリタルトキハ其意思表示ハ取消シ得ヘク(前第九十六條參看、此取消ハ本人ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得)又代理人カ相手方ノ心裡留保ヲ知り若クハ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ相手方ノ意思表示ハ無効ナルヘキカ如シ(前第九十三條但書參看)又假令本人ノ意思ニ付キ右ノ如キ状態存スルモ其ノ代理人ノ意思ニ付テ存セサル以上ハ毫モ意思表示ノ効力ヲ左右セサルモノトス要スルニ右ノ如キ場合ニ於テハ本人ノ意思ノ状態如何ハ敢テ問フヲ要セサルナリ

以上ハ一般ノ原則ナリ此ニハ例外アリ即チ時定ノ法律行為ノ委託ヲ受ケタル代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒ意思表示ヲ爲シタル場合はレナリ(本條第二項)此場合ニ於テハ本人ノ意思(指圖)カ代理人ノ意思ノ決定上ニ大ナル影響アルコト勿論ナルヲ以テ若シ本人カ或ル事情ヲ知り若クハ知り得ヘカリシトキハ假令代理人カ其事情ヲ知ラサリシト雖トモ本人ハ其不知ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス故ニ例ヘハ他人カ心裡留保ヲ以テ契約ノ申込ヲ爲シタル場合ニ於テ本人カ其心裡留保ヲ知ラスト雖トモ本人ハ其有效ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス故ニ例ヘハ他人カ心裡

留保ヲ以テ契約ノ申込ヲ爲シタル場合ニ於テ本人カ其心裡留保ヲ知ルニモ拘ハラズ代理人ニ指圖シテ該申込ヲ承諾セシメタルトキハ假令代理人ハ心裡留保ヲ知ラズト雖トモ本人ハ其契約ノ有效ヲ主張スルコトヲ得サルナリ(前第九十二條)

右ノ例外規定ハ唯タ本人ニ於テ代理人ノ不知ヲ主張スルコトヲ得サル旨ヲ定ムル者ナルヲ以テ相手方其他ノ第三者ハ其不知ヲ主張スルコトヲ妨ケス又此規定ハ唯タ或ル事情ノ知、不知ノミニ關スルヲ以テ意思ノ欠缺殊ニ錯誤及ヒ詐欺強迫ニ就テハ尙ホ本條第一項ニ依モノトス又此規定ハ只タ任意上ノ代理ノ場合ノミニ適用アルモノニシテ法定代理ニハ適用ナシ之レ法文ニ「、法律行為ヲ爲スコトヲ委託セラレタル代理人、」トアルニ依リテ明ナリ又法文ニ「特定ノ法律行為ヲナスコトヲ委託セラレタル代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒ、」トアルヲ以テ或ハ無限授權ノ場合(即チ委託事件ノ特定セサル場合)ニハ例令ヒ代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒ其意思表示ヲ爲スモ此例外規定ヲ適用ス可カラサルニ似タリ然レトモ是レ徒ラニ法文ノ字句ニ拘泥シタル解釋ニシテ探ルニ足ラサルナリ何トナレハ此場合ト雖トモ代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒ事ヲ處スル以上ハ其事件ニ限リタル特定委託ノ場合ト其事情ヲ同シクスルヲ以テ法律ノ取扱上之ヲ區別スル道理ナケレハナリ故ニ法文ニ特定ノ法律行為云々ノ特定ナル語ハ寧ロ省クニ如カサルナリ

終リニ臨ミ一ノ注意スヘキコトアリ即チ代理ノ場合ニ於テ法律行為ノ效力ニ影響スヘキ事項中意思ノ欠缺、詐欺、強迫及ヒ或ル事情ノ知、不知ハ代理人ノ意思ニ付テ決定スヘキ者ナリト雖

代理人ノ能力

トモ(意思ノ解釋モ亦然ラサルヲ得ス)其他ノ事項(例ヘハ法律行為ノ效果ヲ受クルノ資格其行為ノ方式等)ハ皆本人ノ身上ニ付テ決スルモノトス

第二百二條 代理人ハ能力者タルコトヲ要セス

(第二百二十八條) 本條ハ代理人ノ能力ニ關スル規定ナリ(舊民法財産取得編第二百三十四條參照)

代理行為ハ代理人カ自己ノ意思ニ依リテ爲ス所ノ法律行為ナリトスル以上ハ代理人ハ完全ナル行為能力者タラサル可カラサルカ如シト雖トモ決シテ然ラズ蓋シ法律ニ於テ無能力ノ規定ヲ設クルハ無能力者ヲ保護セントスルニアリ然ルニ代理行為ハ直接ニ本人ニ對シテ效力ヲ生スルノミニシテ代理人ニ對シテハ何等ノ效力ヲ生セサルヲ以テ代理人ハ其行為ニ因リ損害ヲ被ムルノ虞ナシ故ニ無能力者ニ他人ノ代理人トナルコトヲ許スモ之レカ保護ノ上ニ於テ害アルコトナシ又本人ニ於テ無能力者ヲ以テ代理人ト爲スニ足ルト信シタルトキハ別ニ之ニ代理ヲ委託スルコトヲ禁スルノ理由ナキナリ故ニ本條ハ無能力者ト雖トモ代理人タルコトヲ得ル旨ヲ明定セリ此ノ如ク無能力者ハ代理人トナルヲ妨ケスト雖トモ是レ專ラ代理關係(即チ法律行為ニヨリテ本人ニ權利義務ヲ生セシムルト云フ關係)ノ點ヨリ觀察シタルモノナルヲ以テ代理人トシテ本人又ハ相手方ニ對シテ負擔スルコトアルヘキ責任ノ點ヨリ觀察スルトキハ無能力ハ尙ホ無能力者タル法律上ノ保護ヲ受クヘシ故ニ例ヘハ無能力ナル代理人カ本人トノ委任契約ニ(本法第六

百四十三條以下) 依り代理ヲ爲スニ當リ委任契約ノ原則ニ從ヒ本人ニ對シテ責任ヲ負フニ至ルトキハ無能力ニ關スル保護規定ニヨリ其委任契約ヲ取消シ以テ其責任ヲ免カルルヲ得ヘク又無能力ナル代理人ハ前第百條本文ノ規定ニヨリ相手方ニ對シテ責任ヲ負フヘキ場合ニ於テモ亦同シク無能力ニ關スル保護ヲ受クヘキナリ

本條ニ所謂無能力者トハ學問上所謂行爲無能力者ニシテ意思無能力者ニアラサルナリ即チ相當ノ年齢ニ達シタル未成年者 一時本心ニ復シタル禁治産者、準禁治産者又ハ妻ナリ然リ而シテ意思無能力者(幼者心神喪失者)ノ如キハ全ク代理人タルコトヲ得サルハ毫モ疑ナキ所ナリ是レ前條ニヨリテモ亦推斷スルコトヲ得何トナレハ前條ニ依レハ代理人ニ付キ意思ノ全欠アルトキハ其意思表示ハ常ニ無効ナルヲ以テ意思無能力者ヲ代理人トナスモ代理ノ實効ナケレハナリ  
本條ハ汎ク代理人ニ付テ定ムト雖トモ主トシテ任意上ノ代理ニ付テ實用アリ法定代理ノ重ナル場合即チ無能力者ノ法定代理ノ場合ニ於テハ無能力者ヲ以テ代理人ト爲スヘカラサルヤ自明ノ理ナリ

第二百三條 權限ノ定ナキ代理人ハ左ノ行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス

一 保存行爲

二 代理ノ目的タル物又ハ權利ノ性質ヲ變セサル範圍内ニ於テ其利用又ハ改良ヲ目的トスル行爲

代理權ノ範圍

(第二百二十九條) 本條ハ代理權ノ範圍ニ關スル規定ナリ(舊民法第九十三條、第二百七十七條、財產取得編第二百二十四條第二項、第二百三十二條第二項參照)

代理人ノ權限ハ代理權發生ノ原因タル法律ノ規定(裁判所ノ命令ヲモ包含ス)又ハ本人ノ授權ニ依リテ定マルモノナルコト自カラ明ナリ然レトモ此等ノ原因ニヨリテ代理權限ノ定メナキトキ即チ無限代理(從來所謂總代理)ノ場合(廣汎ナル語辭ヲ以テ授權シタルトキノ如シ)ハ如何從來ノ立法ハ多ク斯ノ如キ場合ニ於テハ代理人ハ只タ管理行爲ヲ爲スコトヲ得ルニ止リ處分行爲ハ爲スコトヲ得サル旨ヲ定ム然リト雖トモ管理行爲及處分行爲ナル語ハ極メテ漠然タルカ故ニ疑義ヲ生スルノ虞レナシトセス是ヲ以テ本條ハ所謂管理行爲ト看做スヘキモノヲ列舉シ以テ爭疑ヲ未萌ニ防ケリ(故ニ本條列舉以外ノ行爲ハ學問上處分行爲ト稱スルヲ得ヘシ)即チ本條ニヨレハ權限ノ定メナキ代理人ハ左ノ行爲ノミヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(一) 保存行爲、是レ即チ財產ノ朽廢毀損紛失ヲ豫防又ハ修復スルコトヲ目的トスル行爲ナリ例ヘハ家屋ノ修繕、時効ノ中斷、權利ノ登記ノ如シ又保存ノ必要ヨリシテ代理ノ目的タル物又ハ權利ノ性質ヲ變スルモ尙ホ保存行爲タリ腐朽ノ虞アル物ヲ賣却シ盜難ヲ避ケンカ爲メ金錢ヲ預金トナスカ如シ

(二) 代理ノ目的タル物又ハ權利ノ利用又ハ改良ヲ目的トスル行爲但シ其物又ハ權利ノ性質ヲ變スルコトヲ得ス、(換言スレハ他ノ種類ノ物又ハ權利ニ變スルコトヲ得サルナリ)例ヘハ物ノ賃貸ヲ爲シ又預金ヲ預ケ替ユルハ利用ヲ目的トシ土地ニ肥料ヲ施ス爲メニ爲ス行爲土地ノ地

役權ノ消滅ヲ來ス行爲ハ改良ヲ目的トシ而カモ其物又ハ權利ノ性質ヲ變セサルモノナリ之ニ反シテ例ヘハ現金ヲ公債證書トナシ耕地ヲ宅地トナシ所有權ヲ永小作權トスルカコトキハ代理ノ目的タル物又ハ權利ノ性質ヲ變スルモノナルヲ以テ無限代理人ニ於テ之レヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ主トシテ本人ノ授權ニ基ク代理ノ場合ニ適用アリト雖トモ法律ノ規定ニ原因スル代理ノ場合ニ於テモ若シ其法律規定中代理權限ノ定メナキトキハ亦本條ニ依ルヘキナリ是レ本條ニ汎ク代理人トアルニ依リテ明カナル所ナリ又本條ニ所謂行爲トハ法律行爲ヲ指スモノナリ蓋シ代理人トハ本人ニ代リテ法律行爲ヲ爲スモノヲ云ヒ而シテ本條ハ其權限ノ範圍ヲ規定スルモノナレハナリ

第四百四條 委任ニ因ル代理人ハ本人ノ許諾ヲ得タルトキ又ハ己ムコトヲ

得サル事由アルトキニ非サレハ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ス

委任上ノ代理人ノ復代

(第二百三十條) 本條以下第七條迄ハ復代理人ニ關スル規定ナリ而シテ本條ハ委任ニ因ル代理人ノ復代理人選任ノ條件ヲ定ム(舊民法財産取得編第二百三十五條參照)

委任上ノ代理人トハ本法第六百四十三條以下ニ規定セル本人ト代理人トノ間ニ締結シタル契約ニ基キ代理權ヲ有スル代理人ナリ此ノ如キ代理人ハ更ニ代理人(所謂後代理人)ヲ選任シテ其委任事項ノ處理ニ當ラシムルヲ得ルヤ今純然タル理論上ヨリ論スルトキハ委任上ノ代理ノ場合

ニハ委任者(本人)ハ代理人其人ヲ信用シテ委任シタル者ナレハ代理人カ他人ヲシテ其代理事項ニ當ラシムルハ委任當初ノ本旨ニ違フモノナリ故ニ之ヲ許スヘカラス夫レ然リ然リト雖トモ委任上ノ代理人ハ如何ナル場合ト雖トモ復代理人ヲ任スルコト能ハストスルトキハ實際上ノ不便甚シキナリ故ニ本條ハ原則トシテハ委任代理人ノ代理復任ヲ認メス只タ特定ノ場合ニ限リ之ヲ許セリ即チ本人ノ許諾ヲ得タルトキ又ハ己ムコトヲ得サル事由アルトキ即チ是レナリ己ムコトヲ得サル事由トハ代理人疾病ニ罹リ其他重大ナル事情ノ爲メ自カラ代理行爲ヲ爲スコト能ハサルカ如キモノニシテ果シテ斯カル事由アリヤ否ヤハ裁判官ノ認定ニ屬スル事實問題ナリ

復代理人ノ性質ハ後チノ第七條ノ說明ニ讓ルト雖トモ要スルニ代理人ノ代理人即チ代理人自カラ代理行爲ヲ爲スニ方リ使用スル所ノ補助者ニアラスシテ直接ニ本人ヲ代理スル者ナリ本條ハ原則トシテ復代理人ノ選任ヲ禁スルノミニシテ委任上ノ代理人カ代理行爲ヲ爲スニ方リ補助者ヲ使用スルコトハ法律ノ禁スル所ニアラス蓋シ補助者ヲ使用スルトキハ代理人ハ其補助者ノ行爲ニ付キ自己ノ行爲トシテ全然責任ヲ負フヘキモノナルヲ以テ委任當初ノ趣旨ニ反スル所ナケレハナリ(尙補助者ト復代理人トノ差ニ付テハ後ノ第七條ヲ看ルヘシ)

以上説明シタルカ如ク法律ハ本條ニ掲ケタル特別ノ場合ヲ除キ委任上ノ代理人ノ復代理人選任ヲ禁セシヲ以テ之ニ反シテ選任セラレタル復代理人ノ法律行爲ハ本人ニ對シテハ何等ノ效力ヲ生セサルヤ明ナリ

第四百五條 代理人カ前條ノ場合ニ於テ復代理人ヲ選任シタルトキハ選任

及ヒ監督ニ付キ本人ニ對シテ其責ニ任ス  
代理人カ本人ノ指名ニ從ヒテ復代理人ヲ選任シタルトキハ其不適任又ハ不誠實ナルコトヲ知りテ之ヲ本人ニ通知シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其責ニ任セス

復代理ノ場  
合ニ於ケル  
委任上ノ代  
理人ノ責任

(第二百二十一解) 本條ハ委任上ノ代理人ノ復代理人ヲ選任シタル場合ニ於ル責任ヲ規定スルモノナリ(舊民法財産取得編第二百卅五條參照) 委任上ノ代理人カ適法ニ復代理人ヲ選任シタルトキハ復代理人ト本人トノ間ニ直接ノ代理關係ヲ生シ該代理人ハ復代理人ノ行爲ニ付テハ責任ヲ負ハサルモノトス(後チノ第七條ノ說明參看) 然レトモ委任上ノ代理人ハ本法第六百四十四條ニヨリテ明ナルカ如ク委任事務ニ關シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲ス可キ義務アルモノナルヲ以テ復代理人ノ選任及監督ニ付テモ亦此注意ヲ施ササル可カラサルハ當然ナリ故ニ若シ此義務ニ違背シタルトキハ本人ニ對シ之レニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セサル可カラス是レ本條第一項ノ規定ナリトス(此場合ニ於テ本人ハ後チノ第七條ニヨリ復代理人ニ對シテ權利ヲ行フコトヲ得ヘシ)

右ノ如ク委任上ノ代理人ハ復代理人ノ選任及ヒ監督ニ付キ責任ヲ負フト雖トモ若シ其選任カ本人ノ指名ニ基キタルトキハ假令其復代理人カ適正ナラサル者ナリト雖モ之レカ責ニ任セサルモ

ノトス然リト雖トモ委任上ノ代理人ハ常ニ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲ササル可カラサルヲ以テ若シ本人ノ指名シタル復代理人ノ不適任又ハ不誠實ナルコトヲ知ルニモ拘ハラズ之ヲ本人ニ通知シ若クハ其復代理人ヲ解任スルコトヲ怠リタルトキハ本人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免カルルコトヲ得サルナリ是レ即チ本條第二項ノ規定ニシテ固ヨリ至當ノ事ニ屬ス

第六六條 法定代理人ハ其責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルコトヲ得但己ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ前條第一項ニ定メタル責任ノミヲ負フ

法定代理人  
ノ代理復任  
及此場合ニ  
於ケル責任

(第二百三十二解) 本條ハ法定代理人ノ復代理人選任ノ權及ヒ其選任ノ場合ニ於ケル責任ヲ定メタルモノナリ(舊民法人事編第九十條第二項、財産取得編第二百三十五條參照)

後見人、法人ノ理事、不在者ノ財産管理人等ノ如キ法定代理人ハ直接間接ニ法律ノ規定ニ基キ代理權ヲ有スルモノニシテ其代理權ノ範圍ハ常ニ廣汎ナリ從テ其執ルヘキ事務夥多ナルモノナリ故ニ自カラ其總テノ事務ヲ處理スルヲ難キ場合ヲ生スルハ當然ナルヲ以テ法定代理人ハ自由ニ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ルニ非ラスハ實際上ノ不便甚シカルヘシ是ヲ以テ法律ハ法定代理人ハ委任上ノ代理人ト異ナリ自由ニ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ルヲ以テ原則トナセリ然レトモ是レ一般ノ通則ナレハ前第五十五條ノ如キ特別ノ例外アルヲ妨ケス

斯ノ如ク法定代理人ハ自由ニ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ルモノトスルトキハ同時ニ此場合ニ於ケル法定代理人ノ責任ヲ重カラシメサル可カラス若シ然ラスンハ法定代理人ハ動モスレハ此權ヲ濫用シ職責ヲ免カレンコトヲ企ツルニ至リ遂ニ其弊ニ堪ヘサルヘシ故ニ法律ハ法定代理人ハ自己ノ責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ルモノトナセリ而シテ自己ノ責任ヲ以テスルトハ即チ復代理人ノ總テノ行為ニ付キ（即チ其選任及ヒ監督ニ付テノミニアラス）本人ニ對シテ責ヲ負ヒ其他代理復任アリタルカ爲メ生シタル損害ニ付テ責ヲ負フヲ云フナリ

右ノ如ク代理復任ノ場合ニ於ケル法定代理人ノ責任ヲシテ委任上ノ代理人ニ比シ重カラシメタル所以ハ法定代理人カ濫リニ其職責ヲ免カレントスルコトヲ防止スルニ在リ故ニ法定代理人カ實際疾病等ノ如キ己ムヲ得サル事由ニヨリ復代理人ヲ選任シタルトキハ委任上ノ代理人カ同一ノ事由ニヨリ代理復任ヲ爲シタル場合ト責任ノ上ニ於テ區別アルノ道理ナシ是レ本條但書ノ規定アル所以ナリ然リ而シテ此法文ニ前條第二項ノ援用ナキハ蓋シ法定代理ノ場合ニハ（一）本人ノ指名云々ノ事ヲ生セス（例ヘハ法人、不在者ノ代理ノ場合）又ハ（二）法定代理人カ其指名ニ從フヲ要セサルニ因ルナリ（後見ノ場合）

第七百七條 復代理人ハ其權限内ノ行為ニ付キ本人ヲ代表ス

復代理人ハ本人及ヒ第三者ニ對シテ代理人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

復代理人ノ權利義務

（第二百二十三條） 本條ハ復代理人ノ權利義務ヲ規定スルモノニシテ即チ復代理人ノ法律上ノ

性質地位ヲ明カニスルモノナリ（舊民法財産取得編第二百二十六條參照）

代理復任ノ事タル元ト代理權ノ實行ニシテ代理人ト本人ヲ代理シテ之ヲ爲スモノナレハ本人自カラ復代理人ニ代理權ヲ與ヘタルモノト觀ルヘシ是レ本法カ從來多數ノ立法例ニ倣ヒ復代理人ノ法律上ノ地位ニ付テ採用シタル原理ナリ

右ノ原理ニ依ルトキハ復代理人ノ法律上ノ地位ハ純然タル代理人ト毫モ異ナル所ナシ故ニ復代理人ハ其代理權ノ範圍内ニ於テ直接ニ本人ヲ代表シ從テ復代理人ノ爲シタル行為及ヒ復代理人ニ對シテ爲シタル行為ハ直接ニ本人ニ對シテ效力ヲ生シ（本法第九十九條）其他第一百一條乃至第一百三條等ノ適用アルハ勿論ナリ又本人及ヒ第三者ニ對シテ代理人ト同一ノ權利義務ヲ有スルモノトス（即チ本人トノ關係ニ於テハ第四百四條乃至第六百六條、第六百四十三條乃至第六百四十九條等ノ適用アリ又第三者トノ關係ニ於テハ第百條第百十七條等ノ適用アリ）

以上ノ説明ニ依レハ復代理人ハ本人ノ代理人ナルコト疑ナキ所ナリ而シテ復代理人ノ法律上ノ地位ハ之レニ依リテ解釋セラレタルモノトス今序次復代理人ト本代理人（復代理人ト區別スル爲メ如斯名ク）トノ法律上ノ關係ヲ一言セン即チ此兩者ノ間ニ於テハ只タ本代理人カ前第五條及第六百六條ニヨリ本人ニ對シ賠償ヲ爲シタル場合ニ於テ復代理人ニ對シテ求償スルコトヲ得ルニ過キササルナリ

第八百八條 何人ト雖モ同一ノ法律行為ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又

ハ當事者雙方ノ代理人ト爲ルコトヲ得ス但債務ノ履行ニ付テハ此限ニ在ラス

自己ノ相手方又ハ當事者雙方ノ代理

(第二百三十四條) 本條ハ或ル人カ同一ノ法律行為ニ付キ其相手方ノ代理人トナリ又ハ當事者雙方ノ代理人トナルコトヲ禁スルモノナリ(舊民法人事編第九十九條、財產取得編第三十七條參照)

代理人カ本人ヲ代表シテ本人ト法律行為ヲ爲スノ不能ナルコトハ勿論ナリト雖トモ本人ヲ代表シテ自己ト法律行為ヲ爲シ(即チ甲者ト自己トノ間ニ於ケル法律行為ニ付キ甲者ヲ代表スルナリ)又ハ當事者雙方ヲ代表シテ法律行為ヲ爲ス(即チ甲乙兩者間ニ於ケル法律行為ニ付キ其兩者ヲ代理スルナリ)ハ理論上敢テ不能ノ事ニアラサルナリ現ニ或ル法制ハ之ヲ許スヲ以テ原則トスルモノアリ然リト雖トモ代理人ハモト一意専心ニ本人ノ利益ヲ圖ラサル可ラサル者ナリ然ルニ若シ本人ノ代理人トシテ自己ト法律行為ヲ爲シ又ハ本人ノ對手者ヲモ代理スルトキハ右ニ述タル代理人ノ責ヲ盡スコト普通ノ心情上甚タ難シトスル所ニシテ被代理者ヲ害スルコト多キヤ明カナリ故ニ如此ハ公益上之ヲ禁スルニ如カス是レ本條ニ於テ何人ト雖トモ同一ノ法律行為ニ付キ其相手方ノ代理人トナリ又ハ當事者雙方ノ代理人トナルコトヲ得スト定メタル所以ナリ夫レ然リ然リト雖トモ例ヘハ甲者(代理人)カ乙者(本人)ヨリ受取ルヘキ金銭アルトキニ自

カラ乙者ノ代理人トナリ銀行ヨリ其金額ヲ受取リ之ヲ以テ支拂ヲ受クルカ如ク甲者乙者ニ支拂フヘキ金銭アル場合ニ於テ丙者雙方ノ代理人トナリ甲者ノ銀行預金ヲ引出シ其金額ヲ受取ル(即チ甲者ニ代テ其金額ヲ支拂ヒ同時ニ乙者ニ代テ之ヲ受領ス)如ク債務ノ履行ニ付テハ代理人カ本人ト自己トノ間ニ於テ本人ヲ代表シ又ハ當事者雙方ヲ代表スルモ被代理人ヲ害スルノ弊害ナシ是レ蓋シ債權者ハ債務ノ履行ヲ受クルヲ以テ利益トシ債務者モ亦債務ヲ免カルル(即チ履行スルナリ)ヲ以テ利益トスルカ故ニ代理人カ債務履行ニ付キ債權者及ヒ債務者ノ資格ヲ兼併スルモ利益ノ衝突ヲ感スルコトナキニ因ルナリ之ヲ以テ本條ハ債務履行ノ場合ヲ以テ前段所說ノ原則ノ例外トナシタリ(尙ホ本條但書以外ニ法律ヲ以テ特ニ利害相反スル當事者雙方ノ代理人タルコトヲ許スコトアリ例ヘハ仲立人ノ如シ)

第三百九條 第三者ニ對シテ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタル者ハ其代理權ノ範圍内ニ於テ其他人ト第三者トノ間ニ爲シタル行為ニ付キ其責ニ任ス

第三者ニ對シテ爲シタル授權ノ意思

(第二百三十五條) 本條ハ第三者ニ對シテ爲シタル代理權授與ノ意思表示ノ效力ヲ定ムルモノナリ

本條ハ行文難澁ニシテ意義曖昧ナルノ嫌アリ爲メニ其解釋ニ付キ疑義ヲ生スルノ恐レアリ現ニ

法典調査會起草委員ノ間ニ於テサヘモ其解釋一定セサル所ナリ（法學協會雜誌第十四卷第六號以下所掲ノ討論ヲ看ルヘシ）余輩ハ本條ノ解釋ニ付キ聊カ獨特ノ見解ヲ有スト雖トモ茲ニハ只々其概要ヲ示シ簡單ニ反對說ヲ駁スルニ止ム請フ代理ニ於ケル關係ノ法理的觀察ヲ以テ論緒ヲ啓カン

夫レ適法ナル代理ニアリテハ二箇ノ法律關係包含セラルルモノナリ曰ク代理人ト本人トノ關係（假リニ内部ノ關係ト名ク）即チ代理人ノ代理義務及ヒ代理費用ノ請求權等ニ付テノ關係曰ク代理行為ニ依リ本人ト第三者トノ間ニ其行為ノ效果ヲ生スル事ノ基礎トナルヘキ關係即チ代理關係ナリ（代理關係ナル語ハ右ニ所謂内部ノ關係ヲモ亦包含スル者ト説ク者ナキニアラサレハ混淆錯雜ヲ避ケンカ爲メ本文ノ關係ヲ假リニ外部ノ關係ト名ケン）然リ而シテ代理權トハ代理人カ右ノ外部ノ關係ニ於テ有スル所ノ法律上ノ地位ニ附著スル權能ヲ意味スルモノニシテ其權能トハ即チ本人ト第三者トノ間ニ法律上ノ效果ヲ起生セシムヘキ行為（即チ代理行為）ヲ爲スコトヲ得ルニアルナリ

任意上ノ代理ノ場合ニ於テハ代理ハ本人ノ意思ニ基因スルモノナルヲ以テ前段ニ述ヘタル内外兩關係ハ亦本人ノ意思ニ因リテ起ルモノナルコト疑ナシ夫レ然リ然リト雖トモ其内部ノ關係タルヤ代理人ヲシテ本人ニ對シテ之ヲ代理スルノ義務ヲ負ハシムルモノナルヲ以テ只タ本人ノ意思表示ノミニ因リテ成立スヘキモノニアラス却テ義務者タルヘキ者（代理人）ノ承諾アルヲ要スルヤ明ナリ換言スレハ右内部ノ關係ハ本人及代理人ノ契約ニ基クニアラサレハ成立スルコト

ヲ得サルナリ此契約ハ即チ委任ナリ（本法第六百四十三條以下參看）反之代理ニ於ケル外部ノ關係ハ獨リ本人ノ意思表示ノミニ即チ單獨行為ニ因リテ完成スルモノト爲スモ條理上敢テ不可ナルヲ見ス否ナ寧ロ條理ニ適合スルモノト云ハサルヲ得ス蓋シ如此爲スハ（一）本人ニ取リテハ其希望ニ副フモノナリ而シテ（二）代理人ニ取リテハ之カ爲メ何等ノ負擔ヲモ生スルコトナクシテ只タ隨意ニ拋棄シ得ル所ノ一種ノ權能即チ代理權ヲ與ルニ過キス又（三）第三者（即チ代理セラルヘキ法律行為ノ相手方タル者）モ亦之レカ爲メ何等ノ法鎖ヲ受クルコトナクシテ代理人ト取引スルト否トハ全ク其隨意ナルヲ以テ代理人及ヒ第三者ニ取リ不利アルコトナケレハナリ之ヲ要スルニ代理ニ於ケル内部ノ關係ノ發生原因ハ本人ト代理人トノ間ニ於テ取結ヒタル委任（契約）ナラサル可カラスト雖トモ其外部ノ關係ノ發生原因ハ本人ノ單獨行為ヲ以テ足レリト論セサルヲ得サルナリ

右ノ如ク代理ニ於ケル外部ノ關係ハ本人ノ單獨行為ニ因リテ完成スルモノトナスヲ以テ條理ニ適フトスル以上ハ自カラ授權行為即チ代理權ヲ附與スル行為モ亦本人ノ單獨行為ニテ足ルコトヲ明カナルヘシ何トナレハ代理權トハ前ニ述ヘタルカ如ク代理ノ外部關係ニ於ケル代理人ノ法律上ノ地位ニ附着スル權能ナレハナリ夫レ然リ然ラハ本人ノ單獨行為タル授權ノ意思表示ハ何人ニ對シテ之ヲ爲ストキハ有効ナルヤ曰ク（一）代理ニ於ケル外部ノ關係ノ主體即チ代理人及ヒ第三者（即チ代理セラルヘキ法律行為ノ相手方タル者）ニ對シテ授權ノ意思表示ヲ爲ストキハ授權ノ有効ナルコト固トヨリ論ナシ（二）代理人タルヘキ者ノミニ對シテ其意思表示アリタルトキモ



亦有效ノ授權アリト云ハサルヲ得ス其理由ハ本人ト代理人トノ間ニ委任契約ノ締結アリタルトキハ代理人ハ代理義務ヲ負擔スルヲ以テ其義務ヲ盡サンニハ必ラスヤ代理權ヲ有セサル可ラス是ヲ以テ委任契約(固トヨリ代理ヲ目的トスルモノニ限ル)ノ中ニハ當然授權ノ包含シアルコトハ一般學者ノ定論ナリ然ルニ委任契約ナルモノハ元ト本人ト代理人トノ間ニ於ケル行為ニシテ代理セラルヘキ法律行為ノ相手方タル第三者ノ關知スル所ナクシテ有效ニ成立スルモノナリ然ラハ則チ委任中ニ當然包含シアル所ノ授權モ亦第三者ノ關知ヲ要セスシテ有效ナラサルヲ得ス是レ授權ノ意思表示ハ代理セラルヘキ法律行為ノ相手方タル第三者ノ不知ニ關セス有效ニ代理人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ルノ法理アルニアラスシテ何ンヤ然リト雖トモ(三)代理セラルヘキ法律行為ノ相手方タル第三者ノミニ對シテ授權ノ表示アリタルトキ即チ第三者ニ對シ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタルトキハ又之ヲ有效ナリト爲スヘキヤ是レ獨逸法ヲ除キ從來ノ學說及ヒ立法例ノ是認スルヲ躊躇シタル所ナリ即チ從來普通ノ說ニ依レハ授權ハ本人ノ單獨行為ニ因リテ成立スルモノニアラスシテ必ラスヤ代理人ノ承諾(委任契約)アルヲ必要トス從テ授權ハ本人ト代理人トノ間ニ契約ノ成立アルニアラスシテ只タ代理セラルヘキ行為ノ相手方タル第三者ノミニ對シテ其表示ヲ爲シタルノミニテハ到底有效ニ成立スルコトヲ得ス然リト雖トモ如此意思表示アリタルトキハ其第三者ハ本人ト代理人トノ間ニ有效ナル授權(委任契約)アリタルト信シテ取引ヲ爲スハ當然ナルヲ以テ第三者ヲ保護センカ爲メ本人ハ第三者ニ向ヒ有效ノ授權ナカリシ旨即チ委任契約ナカリシ旨ヲ以テ對抗スルコトヲ得サルモノトス(第三者ハ

本人ニ對シテ授權ナカリシ旨ヲ主張スルコトヲ妨ケス)是レ即チ從來普通ノ學說及ヒ立法例ノ探リタル說ナリトス然ルニ獨法學者多數ノ說ハ之レニ反シ右ノ如キ第三者ニ對スル授權ノ表示ヲ以テ有效ナリトシ以テ代理ニ於ケル外部ノ關係ヲ完全ニ成立セシムルニ足ルモノト論定セリ(内部ノ關係ハ固トヨリ然ラス)

夫レ如此代理セラルヘキ法律行為ノ相手方タル第三者ニ對シテ爲シタル授權ノ表示ノ効果ニ付テハ從來ノ論說一定セス今其優劣ヲ究ムルニ從來普通ノ說ハ欠點アルヲ免カレサルナリ即チ(一)該說ハ其根本ニ於テ誤レリ何トナレハ授權ハ本人ノ單獨行為ヲ以テ完成シ本人ト代理人トノ間ニ於ケル委任契約ノ有無ニ關セスシテ有效ナルヘキモノナルコト既ニ論シタルカ如クナレハナリ(二)該說ノ決論ハ不條理ナリ其理由ハ本人ヨリ授權ノ表示ヲ受ケタル第三者ハ代理人ト取引スルニ方リテハ自己ト本人トノ間ニ其取引ノ效果ヲ生セシムルノ覺悟アリタルモノナルニ偶々先ニ本人ト代理人トノ間ニ委任契約即チ毫モ自己ノ利害ニ關係ナキ事實アラサリシヲ口實トシテ後日自由ニ其取引ノ效果ヲ左右スルコトヲ得ルハ不可ナリ(三)該說ノ決論ノ如クスレハ取引ノ濫滯ヲ來タス其理由ハ若シ該說ノ如クスレハ第三者カ本人ト代理人トノ間ニ授權委任契約ナカリシコトヲ知レルトキハ保護ヲ受ケサルヘシ故ニ第三者ハ之ヲ知レル場合ニ於テハ例令ヒ本人ヨリ他人ヲ代理人ニ任シタル旨ノ通知ヲ受クルモ直チニ其代理人ト取引ヲ開始セスシテ先ツ本人ニ對シテ代理人ト授權行為(委任契約)ヲ爲スヘキ旨ヲ請求セサレハ不安心ナリ何トナレハ若シ直ニ代理人ト取引ヲ開始センカ或ハ後チニ本人カ其取引ヲ承諾(追認)セサルヤモ計リ難ケレ

ハナリ是レ取引ノ迅速ヲ妨クルモノニアラスシテ何ソヤ(四)該説ノ如クスレハ代理人ハ不利ナル地位ニ立チ平衡ヲ失ス其理由ハ該説ニヨレハ代理人ニハ其實代理權ナキヲ以テ若シ代理行為ニヨリ本人ニ不利アルトキハ代理人ハ本人ニ對シ賠償ノ義務アリト云フヘシ是レ不衡平ニアラスシテ何ソヤ夫レ如此從來普通ノ説ハ種種ノ欠點アリ反之獨法學者ノ説ニ依レハ此等ノ欠點ヲ避クルコトヲ得ルヤ自カラ明ナリ但タ同説ニ依レハ代理人ハ不知ノ間ニ代理權ヲ得ルニ至ルヲ以テ或ハ同説ノ法理上ノ適正ヲ疑フ者アルヘシト雖トモ代理權ナルモノハ前ニ述ヘタルカ如ク毫モ代理人ニ利害ヲ及ホササルコトニ注目セハ疑團自カラ氷解スヘキナリ

代理セラルヘキ法律行為ノ相手方タル第三者ニ對シテ授權ノ表示ヲ爲シタルトキハ有效ナル代理權ノ授與アリトスルヲ以テ條理上及ヒ實際上適正ナリト云ハサルヲ得サルコト右述ヘタルカ如シ乃チ本條ノ稍稍曖昧ナル規定ハ此説ヲ採用シタルモノト決セサル可カラス何トナレハ是レ法律ノ明文ニ背反スル所アルニアラサレハ解釋法ノ原理上當然ノ事ナレハナリ然リ而シテ本條ノ意義ノ詳細ハ上來ノ所論ニ依リ讀者自カラ之ヲ推敲スルコトヲ得ヘキニ因リ予輩ハ只本條ノ適用ヲ例示スルニ止メン例ヘハ甲者乙者ニ支拂フヘキ金錢アリ乙者甲者ニ對シ丙者ヲ以テ其金錢受領ノ代理人ト爲シタル旨ヲ通知シ而カモ丙者ト未タ委任契約ヲ締結セス甲者此通知ニ從ヒ丙者ニ其金錢ヲ支拂フ丙者ハ之ヲ消費シタリトセンニ乙者ハ再ヒ甲者ニ對シ其金錢ノ支拂ヲ請求スルヲ得サルカ如シ

本條ノ解釋ニ關スル異論

(第二百三十六條) 前解ノ議論ハ予輩カ本條ノ解釋トシテ採用スル所ニシテ法典調査會起草委員

員中或者ノ解釋ト決論ヲ同シクスルモノナリ(立論ノ根據ハ全然一致スト云フニアラス)然ルニ此解釋ニ反對スル説アリ法典調査會起草委員中ノ或者ノ説ハ即チ其最モ有力ナルモノナリ今左ニ其概要ヲ示シ傍ラ之レカ短評ヲ試ミン

論者カ本條ノ解釋トシテ採用スル所ノ決論ヲ以テ授權ノ表示ヲ受ケタル第三者ノ保護規定ト爲スニアリ即チ本條ノ前ニ述ヘタル從來普通ノ學說及ヒ立法例ニ倣ヒタルモノナリト云フニアリ此學說及立法例ノ不條理ニシテ且ツ實際上ノ便宜ニ反スルコトハ前ニ論シタルカ如シ故ニ論者ノ解釋決論ハ好シテ本條ヲ不當ナル規定ナラシムルモノト云ヘシ是レ解釋者ノ可及的避ケサル可カラサル所ナラスヤ而シテ其立論ノ根據ニ曰ク本條ハ單ニ本人カ第三者ニ對シテ責任ヲ負フヘキ旨ヲ定ム(即チ、其責ニ任ストアリ)故ニ本人ハ本條ニヨリ第三者ニ對シテ權利ヲ得ルモノニアラス然ルニ若シ代理人ハ代理權ヲ得タリトセハ本人ハ當タニ義務ノミヲ負ハスシテ又權利ヲモ得サル可カラス(前第九十九條參看、同條ニハ「、直接ニ本人ニ對シテ其効カヲ生ス」トアリテ本條ト筆法ヲ異ニス)此故ニ代理人ハ本條ニヨリテ代理權ヲ得ルニアラサルナリ云々ト此立論ノ根據ハ一理ナキニ非ラスト雖トモ「、責ニ任スト」トノ語ニ拘泥シタルノ嫌アリ況ンヤ或ル事ニ付キ責ニ任スト云フハ其事ヨリ生スル結果ヲ引受ク即チ其事ヨリ生スル利害ヲ受クル意ナリト解スルモ敢テ不可ナキニ於テヤ又論者ハ予輩ノ説ヲ駁シテ曰ク本人ノ單獨行為ヲ以テ代理權ヲ授與スルコトヲ得ト云フハ本法ノ解釋トシテハ誤謬ナリ其理由ハ前第四百條乃至百六條ニ於テ委任ニ因ル代理人ト法定代理人トニ付キ復代理ノ事ヲ規定スルニ

止マレリ然ルニ委任トハ本法第三編第二章第十節ノ規定スル所ノモノニシテ一ノ契約ナリ故ニ  
 單獨行爲ニ依ル代理ヲ認メタルモノト爲セハ之ニ關シテハ全ク復代理ノ規定ヲ欠ケルモノト云  
 ハサルヲ得ス豈ニ不都合ナラヌヤ又後チノ第一百一條ニ於テハ代理權ノ消滅原因トシテ唯タ  
 「本人ノ死亡」ト「代理人ノ死亡」、トノミヲ掲ケ其他ノ消滅原因ヲ示サス唯「委任ニ因ル代  
 理權ハ、消滅ス」ト附言セリ然ルニ若シ單獨行爲ニ依リテ代理權ヲ授與スルコトヲ得トセ  
 ハ其代理權ノ消滅原因ノ規定ヲ缺ケルモノト云ハサルヲ得ス是レ亦不都合ニアラスシテ何ソヤ  
 夫レ如此本條前後ノ箇條ハ一モ單獨行爲ノ授權ヲ認メタルノ跡ナク反テ其反對ヲ推測スヘキ箇  
 條アリ故ニ單獨行爲ニ依リ代理權ヲ授與スルコトハ本法ノ認メサル所ナリト云ハサルヲ得ス云  
 ヲト此駁論ハ予輩ノ所説ヲ斃スニ足ラス論者ノ駁説ニ依レハ論者ハ委任（本法第三編第二章第  
 十節ノ規定スルモノ）ニ依ル代理ト法定代理ノ外又代理ナルモノナシトスルカ如シ然レトモ是  
 レ誤謬ナリ何トナレハ例ヘハ組合（本法第三編第二章第十二節ノ規定スルモノ）契約ニ因ルモ  
 亦代理ヲ生スルコト一般學者ノ認ムル所ニシテ而モ組合ト委任トハ同一ナリト云フヲ得ザレハ  
 ナリ（本法第六百七十條乃至第六百七十二條ニ第六百七十條ニ注意スヘシ）如此本文論者ノ駁  
 論ハ其根本ニ於テ誤謬ノ見解ヲ包含スルヲ以テ予輩ハ之レカ爲メ所信ヲ狂クルコトヲ得サルナ  
 リ若シ夫レ本條ニ依リ代理權ヲ得タル代理人ノ代理復任及ヒ代理權消滅ニ付テハ委任上ノ代理  
 ニ關スル當該規定ノ精神ヲ準用スヘキノミ又何ソノ法ニ明文ナキヲ憂ンヤ

**第一百十條** 代理人カ其權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權

限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

代理權限外  
ノ行爲

（第二百二十七條） 本條ハ代理權限外ニ以テ爲シタル代理人ノ行爲ニ付キ本人カ責ニ任スル場  
 合ヲ定メタルモノナリ（舊民法財產取得編第二百五十條第二項參照）  
 代理人カ其代理權限外ニ於テ爲シタル行爲ハ代理行爲ニ非サルヲ以テ本人ニ對シテ效力ヲ生セ  
 サルコト前第九十九條ノ當然ノ結果ナリ然リト雖トモ若シ第三者ニシテ代理人ニ其行爲ヲ爲ス  
 ヘキ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ本人ヲシテ其責ニ任セシメ以テ第三者ヲ保  
 護セサル可カラス若シ然ラサレハ第三者ハ法律行爲ヲナス毎ニ一々代理權ヲ調査スルノ煩勞ヲ  
 取ラサル可カラサルニ至リ取引ノ滯滞ヲ來スノ弊ニ堪ヘサルヘシ是レ本條ノ規定アル所以ナリ  
 依是觀之本條ハ第三者ノ保護ヲ目的トスル公益的規定ナリト云ハサルヲ得ス  
 本條ヲ適用スルニハ（一）代理人カ其權限外ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス故ニ全ク代理權ヲ有セサ  
 ル者カ或人ノ代理人ト稱シテ行爲ヲ爲シタル場合ハ本條ノ支配ヲ受ケヌ却ツテ後チノ第一百三  
 條以下ニ從フ又（二）第三者即チ其行爲ノ相手方カ代理人ニ其權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有  
 セシコトヲ必要トス（此要件ヲ欠クトキハ亦第一百十三條以下ニ從フ）而シテ其正當ノ理由ヲ有セシ  
 ヤ否ヤハ個々ノ場合ニ就テ認定スヘキ事實問題ナリ例ヘハ代理人カ商品ヲ買ヒ之ヲ倉庫ニ預ケ  
 タル後チ第三者之ヲ其代理人ヨリ買受ケタルカ如ク又ハ代理人カ慣習上常ニ或ル行爲ヲ爲ス權  
 限ヲ有スルモノナルニ本人カ特ニ其行爲ヲ爲スヲ禁シタルカ如ク又ハ代理人カ詐僞ヲ行ヒ第

三者ヲ誤信セシメタルカ如キ場合ニ於テハ第三者ハ右所謂正當ノ理由ヲ有セシモノト云ヘシ以上ノ二要件具備スル場合ニ於テハ即チ前條ノ規定ヲ準用スヘキモノトス而シテ其準用ノ結果ハ(一)第三者ハ本人ニ對シテ其法律行為ノ效果ノ履行ヲ要求スルコトヲ得レトモ本人ハ第三者ニ對シテ其要求ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ本條ハ第三者ヲ保護スルニ在ルヲ以テ之ニ依リテ第三者ヲ害スヘキニアラサレハナリ但シ本人カ其行為ヲ追認スルトキハ此限ニアラス又(二)代理人ハ本人ニ對シテ其權限外ノ行為ハ本條ニヨリ決シテ權限内ノ行為トナルニアラサレハナリ但シ本人ハ追認アリタルトキハ此限ニアラサルヤ明ナリ

第百一十一條 代理權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

一 本人ノ死亡

二 代理人ノ死亡、禁治產又ハ破產

此他委任ニ因ル代理權ハ委任ノ終了ニ因リテ消滅ス

代理權ノ消滅原因

(第二百二十八條) 本條ハ代理權消滅ノ原因ヲ定メタルモノナリ 舊民法人事編第二百二條、財產取得編第二百五十一條參照)

本條第一項ハ任意代理(即チ本人ノ意思ニ因ル代理)及法定代理ニ共通ナル規定ナリ請フ各號ニ付テ之ヲ論究セン

第一項第一號ニ依レハ本人ノ死亡ハ任意代理權及ヒ法定代理權ノ消滅ヲ來スモノナリ即チ法定代理ノ場合ニ於テ本人死亡スルトキハ法定代理ノ必要ナキニ至ルハ言フ俟サル所ナリ又任意代理ハモト本人カ代理人ニ對シテ有スル信用ヲ基礎トスルモノナレハ本人死亡スルトキハ代理人ニ對スル信用カ主體のニ斷絶スルニ至ルヲ以テ代理權ハ勢ヒ消滅ニ歸スヘキナリ又同項第二號ニ依レハ代理人ノ死亡モ亦一般(法定代理ナリト任意代理ナルトヲ問ハス)代理權消滅ノ原因タリ是レ代理人死亡スルトキハ代理ノ基礎タル信用(任意代理ノ場合ニ於テ然リ)若クハ法律上ノ資格(法定代理ノ場合ニ於テ然リ)ノ消滅スルニ因ルナリ又同號ニ依レハ代理人ノ禁治產及ヒ破產モ代理權ノ消滅ヲ來タスモノナリ是レ亦代理カ信用ヲ消失スルニ至リタルニ因ルナリ或ハ曰ハン前第三條ニ依レハ代理人ハ能力者タルコトヲ要セス本條ニ於テ代理人ノ禁治產トナリタルノ事由ヲ以テ代理權ヲ消滅セシムルハ不權衡ニアラサルナキヤト然レトモ前第三條ハ本人カ無能力者ヲ選テ代理人トナスコトヲ妨ケサル旨ヲ規定シ本條ハ選任ノ當時ニハ禁治產ナラサリシ代理人カ中途ニシテ治產ノ禁ヲ受タル場合ニ就テ規定スル者ナリ故ニ兩項ノ間毫モ權衡ヲ失スルコトアラサルナリ然リ而シテ本號ハ只タ代理人ノ禁治產ノミヲ云ヒ況ク無能力トナルコトヲ云ハサルヲ以テ代理人カ禁治產以外ノ事由ニ因リ無能力トナルモノ(即チ準禁治者又ハ婦トナルナリ)代理權ヲ失フモノニアラス蓋シ此等ノ事由アリト雖トモ必スシモ代理人カ信用ヲ失フニ至ルモノニアラサレハナリ

本條ハ本人ノ禁治產及ヒ破產ヲ代理權消滅原因中ニ掲ケス然ラハ如此事由發生スルキハ如何自

然人ノ法定代理（法人ノ法定代理ニ在リテハ本人ノ禁治産ナルモノ生スルコトナシ）ニ在リテハ本人禁治産トナルモ代理權ノ消滅ヲ來タサス何トナレハ此場合ニ於テハ一層法定代理ノ必要アレハナリ任意代理ニ於テモ亦同シ何トナレハ本人禁治産トナルトキハ法定代理人ノ設置ヲ見ルヲ以テ實際ノ關係ハ本人カ能力ヲ失ハサルト殆ント同一ナレハナリ又本人破産スルトキハ法人ニ在テハ其解散ヲ來タスヲ以テ法定代理權ハ自然消滅スルコト疑ナシト雖トモ自然人ニ在テハ法定代理權ノ消滅ヲ來スヘキコトナキナリ任意上ノ代理權ニアリテモ亦然リ獨リ委任代理ノ場合ニハ本人ノ破産ハ委任關係ノ終了ヲ來タスヲ以テ（本法第六百五十三條參看）本條第二項ニ依リ代理權ノ消滅ヲ來タスモノトス

本條第二項ハ委任上ノ代理權ノ消滅原因ヲ定ムルモノナリ夫レ委任上ノ代理權ハ其源ヲ本人ト代理人トノ間ニ取結ヒタル委任契約ニ汲ム者ナルカ故ニ委任契約ニシテ消滅センカ之レヨリ生シタル所ノ代理權モ亦消滅ニ歸スルハ理ノ當然ナリ是レ即チ本條第二項ノ規定スル所ナリ然リ而シテ委任契約ノ終了原因ハ（一）各當事者ノ解除（二）委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産及ヒ（三）受任者ノ禁治産ナリ（本法第六百五十一條及ヒ第六百五十三條參看）故ニ委任上ノ代理權ハ本條第一項列舉ノ事由ノ外尙ホ委任契約ノ解除及受任者即チ本人ノ破産ニ因リテモ亦消滅ニ歸スルモノトス

終リニ臨ミ注意ノ爲メ一言セン抑モ本條ハ總テノ代理權消滅原因ヲ網羅シタルニアラスシテ唯タ一般普通ノ消滅原因ヲ掲ケタルニ過キス故ニ本條列舉以外ニ代理權ノ消滅原因ナシト云フ可

代理權消滅ノ效果

カラズ即チ法定代理權ハ法律ノ特別規定ニ因リ消滅スヘク又任意上ノ代理權ハ授權（單獨行爲）ノ取消又ハ制限ニ因リ（全部若クハ一部のノ消滅）又ハ代理人ノ拋棄ニ因リ消滅スヘシ又法人ノ代表者又ハ組合契約ニ因ル社員ノ代理權ハ法人若クハ組合ノ解散ニヨリテ消滅スヘキカ如キ類例敢テ尠シトセサルナリ

第一百十二條 代理權ノ消滅ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得

ス但第三者カ過失ニ因リテ其事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

（第二百二十九條） 本條ハ代理權消滅ノ第三者ニ對スル效果ニ關スルモノナリ（舊民法財産取得編第二百五十八條參照）

代理權消滅事由ノ發生シタルコトハ往往第三者ニ知レサルコトアリ本人ノ死亡委任解除ノ如キ殊ニ然リトナス然ルニ其消滅ノ效果ヲ直チニ第三者ニ及ホスモノトセハ第三者ハ不慮ノ損害ヲ蒙ルコトアルヘキヲ以テ安シテ代理人ト取引ヲ爲ササルニ至ラン故ニ法律ハ本條ニ於テ如此第三者ヲ保護スルノ規定ヲ設ケタリ

本條ニ依レハ代理權ノ消滅ハ之ヲ以テ善意ノ第三者即チ代理人ト取引ヲナス當時其代理權ノ已ニ消滅シタルコトヲ知ラサル第三者（本人及ヒ代理人以外ノ者）ニ對抗スルコトヲ得サルナリ即チ本人ヨリ第三者ニ對シテ代理權ノ消滅シアルノ理由ヲ以テ代理人ノ爲シタル法律行爲ノ結果ヲ引受ケスト主張スルコトヲ得ス反之第三者ハ本人ニ對シテ代理權消滅ノ旨ヲ抗辯スルコトヲ

得ルナリ然リト雖トモ若シ第三者カ自己ノ過失ニ因リ代理權消滅ノ事實ヲ知ラザリシトキハ(例ヘハ本人ヨリ代理權消滅ノ通知書ヲ受取リタルニ之ヲ披見セサルカ如シ)毫モ之レヲ保護スルノ理由ナキヲ以テ本人ハ代理權消滅ノ旨ヲ以テ責任ヲ免カルルコトヲ得ルモノトス

第百十三條 代理權ヲ有セサル者カ他人ノ代理人トシテ爲シタル契約ハ

本人カ其追認ヲ爲スニ非サレハ之ニ對シテ其效力ヲ生セス

追認又ハ其拒絕ハ相手方ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ相手方

ニ對抗スルコトヲ得ス但相手方カ其事實ヲ知りタルトキハ此限ニ在ラ

無權代理人  
ノ爲シタル  
契約ノ效果

(第二百四十條) 本條乃至第百十八條ハ所謂無權代理ノ場合ニ付テノ規定ナリ而シテ本條ハ無權代理人ノ爲シタル契約ノ效力ヲ定ムルモノトス(舊民法財産取得編第二百五十條參照)

所謂無權代理トハ代理權ヲ有セサルニモ拘ハラズ代理人ト稱シ(故ニ自稱代理人ノ名稱アリ)他人ノ爲メニ法律行為ヲ爲スヲ云フ故ニ全ク他人ヲ代理スル權ナキ場合並ニ全ク代理權ナキニアラサルモ其法律行為ニ限り之ヲ爲スコトヲ得サル場合即チ其代理權ノ範圍ヲ踰越シタル場合ヲ包括スルモノトス

夫レ無權代理ノ場合ニ於テハ自稱代理人ハ本人ニ代リ其行為ヲ爲スノ權ナキモノナルヲ以テ其

行為ハ直チニ本人ニ對シテ效力ヲ生スヘキニアラサルコト前第九十條ノ解釋ニヨリテ明カナリ然ラハ如此行為ハ全然無効ナルヘキヤト問フニ曰ク純理上ヨリ論スレハ全然無効ナラサルヲ得スト雖トモ實際ノ權宜ハ此純理ニ從フコトヲ許サス是レ本條以下ノ規定アル所以ナリ詳細ハ順次説明セン

本條第一項ニ依レハ無權代理人ノ爲シタル契約ハ本人ノ追認アルニ非ラサレハ本人ニ對シテ效力ヲ生セサルナリ追認トハ無權代理人ノ爲シタル行為ヲ受引クルノ意思表示ニシテ本人ノ單獨行為ナリ本人ノ追認アルトキハ其代理人ハ當初ヨリ代理權ヲ具有シテ行為ヲ爲シタルト同一ノ結果ヲ生シ從テ其行為ハ完全ナル代理行為ノ效果ヲ生スルモノトス(後ノ第百十六條參看)由是觀之無權代理行為ハ後日本人ノ追認アルコトヲ條件トシテ有效ナルモノト云フヘシ

代理權踰越ノ場合ニ於テ若シ相手方ニ於テ代理人ハ其行為ヲ爲スノ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有スルトキハ前第百十條ノ適用アリ無權代理行為ノ追認ハ本人ノ單獨行為ニシテ無權代理人又ハ相手方ニ對シテ之ヲ表示スヘキモノトス然レトモ只タ其代理人ノミニ對シテ追認ノ意思ヲ表示シタルトキハ相手方ハ之ヲ知ラサルコトアルヘシ然ルニ之ニ向テ追認アリタルコトヲ以テ對抗スルコトヲ許ストキハ相手方ハ不慮ノ損害ヲ蒙ルヘシ(即チ例ヘハ相手方ハ未タ追認ナシト誤信シ後ノ第百十五條ニ依リ契約ノ取消ヲ爲シタルニ其取消無効トナルニ至ルカ如シ)是ヲ以テ追認ハ相手方ニ對シテ爲スニ非ラサレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス(相手方ヨリ對抗スルハ妨ケナシ)但タ相手方カ追認ノ事實アリタルコトヲ知リタ

ルトキハ此限ニアラサルナリ然リ而シテ此事ハ追認ノ拒絶ノ意思表示ニ就テモ亦同シキモノナ  
リ例ヘハ本人カ代理人ニ對シテ追認拒絶ヲ爲シタル後チ更ニ相手方ニ對シテ次條ノ催告ニ應ジ追  
認ノ意思表示ヲ爲ストキハ本人ハ前ノ追認拒絶ヲ援用スルコトヲ得サルカ如シ是レ即チ本條第  
二項ノ規定スル所トス

第一百四條 前條ノ場合ニ於テ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ追

認ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ本人ニ催告スルコトヲ得若シ本人カ

其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ追認ヲ拒絶シタルモノト看做ス

相手方ノ追  
認催告權

(第二百四十條) 本條ハ無權代理人ト契約ヲ爲シタル相手方ノ追認催告權ニ關スル規定ナリ  
無權代理人ノ爲シタル契約ハ本人ノ追認又ハ其拒絶アル迄ハ其有效無効確定セサルナリ故ニ其  
間法律關係ノ不確定ナル狀態存ス如此狀態ヲ永ク存續セシムルコトハ公私ノ不利ナルコト前第  
十九條ノ説明ニ於テ已ニ述ヘタルカ如シ故ニ本條ハ無權代理人ノ爲シタル契約ノ相手方ニ追認  
催告ノ權ヲ以テセリ而シテ本條ノ意義ノ大體ハ之ヲ前第十九條第一項ニ比照セハ自カラ明ナル  
ヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス但チ本人カ確答ヲナササル場合ニ追認ノ拒絶アリタルモノト看做ス所以  
ハ若シ本人ニシテ追認セント欲スルナラハ必スヤ之ヲ確答スヘキヲ以テ其確答ヲ爲ササルハ追  
認ノ意ナキモノト推測スルヲ至當トナセルナリ

第一百五條 代理權ヲ有セサル者ノ爲シタル契約ハ本人ノ追認ナキ間ハ

相手方ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得但契約ノ當時相手方カ代理權ナキコ

トヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

無權代理人  
ノ爲シタル  
契約ノ取消  
權

(第二百四十一條) 本條ハ無權代理人ノ爲シタル契約ノ相手方ノ契約取消權ヲ規定スルモノナ  
リ  
無權代理人ノ爲シタル契約ハ純理ヨリ云ヘハ全ク無効ナルヘキモ本人ハ之ヲ追認シテ有效トナ  
シ其效果ヲ收ムルコトヲ得故ニ本人カ追認又ハ其拒絶ヲナササル間ハ其契約ハ假ニ成立セルモ  
ノト認メサルコトヲ得ス從テ相手方ハ追認又ハ拒絶アル迄ニ羈束セラレサル可カラサルニ似  
タリ然リト雖トモ是レ本人ニハ利アリテ相手方ニハ過酷ニシテ衡平ヲ失スルモノト云フヘシ蓋  
シ通常相手方ハ其契約ハ即時且無條件ニテ成立スヘシト信シタルモノナレハナリ是ヲ以テ本條  
ハ如此契約ノ相手方ニ於テ隨意ニ取消シ得ルモノトナセリ然レトモ本人ノ追認アリタル後ハ其  
取消ヲ爲スコトヲ得サルモノトス如此ナレハ則チ本人及相手方ノ間衡平ノ結果ヲ得ルヤ明カナ  
リ

右ノ規定ハ契約ノ當時相手方カ代理權ナキコトヲ知リタルトキハ適用セラレシテ相手方ハ其  
契約ニ羈束セラレルモノトス蓋シ相手方ニ於テ無權代理ノ事實ヲ知リタルトキハ本人ノ追認ヲ  
豫期シテ契約ヲ爲シタルモノナレハ前條ノ追認催告ヲ與フルノ外之ヲ保護スヘキ理由ナケレハ

第一百十六條 追認ハ別段ノ意思表示ナキトキハ契約ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

追認ノ遡及

(第二百四十二條) 本條ハ追認ノ遡及効果ヲ定ムルモノナリ

追認ハ一ノ法律行為ナリ而シテ法律行為ハ將來ニ向テノミ效果ヲ生スルヲ以テ原則トス然レモ追認ナルモノハ本人カ無權代理人ノ爲シタル契約ヲ引受クルノ意思表示ナルヲ以テ其意思ハ契約ノ當時其契約ノ成立シタルモノト爲サント欲スルニアルコト最モ多カルヘシ故ニ若シ法律行為ノ原則ニ從フモノトスルトキハ當事者ノ意思ニ反スルコトナルヘシ是ヲ以テ本條ハ追認ハ已往ニ遡リテ其效果ヲ生スルヲ以テ本則トナセリ即チ追認アリタルトキハ其契約ハ締結ノ當時完全ナル代理權ヲ具有スル代理人ノ爲シタルモノトシテ法律上ノ取扱ヲ受クヘキモノトナセリ例ヘハ無權代理人カ本月一日ニ相手方ヨリ或ル物ヲ讓受クル契約ヲナシ同二十日ニ至リ本人ノ追認アリタル場合ニ若シ其物カ一日ヨリ二十日迄ノ間ニ果實ヲ生シタルトキハ其果實ハ本人ニ歸スルカ如シ

右ノ如ク追認ハ已往ニ遡ルノ效力ヲ有スルハ法律上ノ本則ナリ然レトモ若シ當事者カ別段ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ此限ニアラスシテ其意思表示ニ從フヘキハ勿論此意思表示ハ本人ノ單獨行為ニアラスシテ相手方ノ承諾ヲ要スルヤ法律上毫無疑ナキナリ何ト所ナレハ若シ然ラザレハ

本人ハ隨意ニ相手方ノ利益ヲ害スヘケレハナリ

又追認ノ遡及カハ法律カ當事者ノ意思ニ副ハントスルニアリ然レトモ之レカ爲メ第三者ノ權利ヲ害スルノ不可ナルコトハ論ヲ俟タサルナリ故ニ本條ハ追認ノ遡及カヲ以テ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルモノトナセリ例ヘハ前例ノ場合ニ於テ相手方カ追認前ニ其果實ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ本人ハ如何ナル場合ト雖トモ之レカ取戻ヲ要求スルコトヲ得ス又例ヘハ相手方カ契約ノ後其目的物タル不動産ヲ他人ニ賃貸シ他人之ヲ登記シタルトキハ假令本人カ其契約ヲ追認シタルモ他人ノ賃借權ハ全ク有效ナリト認メサル可カラサルカ如シ(本法第六百五條參照)

第一百十七條 他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其代理權ヲ證明スルコト能ハス且本人ノ追認ヲ得サリシトキハ相手方ノ選擇ニ從ヒ之ニ對シテ履行又ハ損害賠償ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ相手方カ代理權ナキコトヲ知リタルトキ若クハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキ又ハ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其能力ヲ有セサリシトキハ之ヲ適用セス

(第二百四十三條) 本條ハ無權代理人カ本人ノ追認ヲ得サル場合ニ於ケル責任ヲ規定スルモノナリ(舊民法財產取得編第二百四十四條參照)

追認ナキ場合ニ於ケル代理人ノ責任



夫レ代理權ナクシテ而カモ代理人ト自稱シ契約ヲ爲シタル者ハ通常大ナル過失アルモノト云ハサルヲ得ス故ニ其代理權アルコトヲ信シテ契約ヲ爲シタル相手方ハ本人ノ追認ナキ爲メ其契約ノ不成立ニ至リタルニ因リテ生シタル損害ハ全ク自稱代理人ノ過失ニ原因スルモノナリ然ラハ即チ自稱代理人ニ對シテ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得サル可カラス此法理ニ依ルトキハ自稱代理人ハ只タ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ負フノミニシテ敢テ契約履行ノ責ニ任セス何トナレハ自稱代理人ハ決シテ自己ノ爲メニ其契約ヲ締結シタルニアラサレハナリ夫レ然リ然リト雖モ損害賠償ナルモノハ其損害證明ノ困難ナルカ爲メ時ニ相手方ヲ保護スルニ足ラサルコトアリ故ニ能フヘクンハ相手方ニ與フルニ尙一層強固ナル保護ヲ以テセサルヘカラス然ルニ問題ノ場合ニ於ケル相手方ノ損害ハ法律上有效ナラント信シタル契約カ豫期ニ反シテ無効ニ歸シタルニ因ル故ニ其無効ヲ止メ相手方ヲシテ代理人ニ對シ該契約ノ履行ヲ求ムルコトヲ得セシメンカ相手方ノ保護ノ上ニ於テ缺クル所ナカルヘキナリ故ニ本條第一項ハ無權代理ノ場合ニ於テ本人ノ追認ナキトキハ相手方ハ無權代理人ニ對シ損害賠償又ハ契約ノ履行ヲ要求スルコトヲ得ルモノトナセリ

如此無權代理人ハ相手方ノ選擇ニ從ヒ損害賠償又ハ契約履行ノ責アリト雖トモ次ノ二ノ場合ニ於テハ此限リニアラサルモノトス(本條第二項)

- (一) 相手方カ自稱代理人ニ其契約ヲ爲スノ代理權ナキコトヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ、抑モ前段説明シタル本條第一項ノ權利(契約履行若クハ損害賠償ノ請求權)ハ自

稱代理人ノ過失ニ因リテ生シタル相手方ノ損害ノ救済方法ナリ然ルニ本號ノ事情アルトキハ例令相手方カ損害ヲ蒙ルモ自業自得ト云フヘキヲ以テ右ノ救済方法ヲ與フルノ理ナキナリ

- (二) 自稱代理人カ其契約ニ付テ能力ヲ有セサルトキ、蓋シ其契約ニ付テ能力ヲ有セサル者(無能力者ト雖トモ代理人タルコトヲ得ルハ前第百二條ニ明ナルヲ以テ無能力ナル自稱代理人アルコトアルハ疑ナキ所ナリ)自己ノ爲メニ其契約ヲ爲スコトヲ得サルナリ是レ無能力者保護ノ本旨ニ出ツ此本旨ハ無能力者カ無權代理行爲ヲ爲シタル場合ニ於テモ其適用ヲ失フヘキニアラス是レ本號ノ規定アル所以ナリ是ヲ以テ無能力ナル自稱代理人ニ對シテ相手方ハ本條第一項ニヨリテ契約履行ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス若シ夫レ損害賠償ノ請求權ニ至リテハ後チノ第七百十二條乃至第七百十四條ノ規定ニ依リテ判定スヘキナリ

第百十八條 單獨行爲ニ付テハ其行爲ノ當時相手方カ代理人ト稱スル者ノ代理權ナクシテ之ヲ爲スコトニ同意シ又ハ其代理權ヲ爭ハサリシトキニ限り前五條ノ規定ヲ準用ス代理權ヲ有セサル者ニ對シ其同意ヲ得テ單獨行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

單獨行爲ノ無權代理

(第百四十四條) 本條ハ無權代理人カ單獨行爲ヲ爲シタル場合ニ付テノ規定ナリ前五條(第百十三條乃至第百十七條)ハ無權代理人カ契約ヲ爲シタル場合ニ關スル規定ナリ夫

レ契約ハ双方ノ同意ニヨリテ成立スルモノナルヲ以テ無權代理ノ場合ト雖トモ相手方ノ其契約ヲ欲シタルヤ疑ヒナシ故ニ其契約ヲシテ本人ノ追認ニ因リ有效ナラシムルハ何人ヲモ害スルコトナク却テ關係者ノ希望ニ副フモノト云フヘシ然レトモ無權代理人カ單獨行爲(例ヘハ辨濟、追認、催告ノ如シ)ヲ爲シタルトキハ相手方ノ意思ハ其行爲ノ成立ニ關スルモノニアラサルヲ以テ本人ノ追認ニ因リテ其行爲ヲ有效ナラシムルハ本人ニハ利アリト雖トモ相手方ニハ害アルナリ故ニ此場合ニ於テハ無條件ニテ前五條ノ契約ノ規定ヲ應用スヘキニアラス唯相手方カ其行爲ノ當時自稱代理人カ代理權ナキニモ不拘其行爲ヲ爲スコトニ同意シ又ハ代理權ノ欠缺ヲ知ルト否トヲ問ハス苟クモ當時自稱代理人ノ權限ナキコトヲ抗爭セサリシ場合ニ於テハ相手方ハ自稱代理人カ本人ノ爲メニ其單獨行爲ヲ爲スコトヲ承認シタルモノト論セサルヲ得ス然ラハ此場合ハ相手方カ自稱代理人ト契約ヲ取結ヒタル場合ト事情異ナル所ナシト云フヘシ故ニ右ノ如キ場合ニ限リ前五條ヲ應用スヘキハ理ノ當然ナリ

右ノ理由ニ因リ本條ハ自稱代理人カ單獨行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ其行爲ハ全然無効ナルヲ以テ原則トシ(即チ本人ノ追認アルモ有效ナラサルヲ原則トナスナリ)但タ其行爲ノ當時相手方カ自稱代理人ノ代理權ナクシテ之ヲ爲スコトニ同意シ又ハ其代理權ヲ爭ハサリシトキニ限リ前五條ヲ準用スヘキ者トナセリ故ニ此等ノ事由アルニ於テハ其單獨行爲ハ本人ノ追認ニ因リ已往ニ遡リテ效力ヲ生スヘク(本法第百十三條及第百十六條)又相手方ハ本人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ追認ヲ催告スルコトヲ得ヘク(本法第百十四條)又其行爲ノ當時代理權ノ欠缺ヲ知ラスシテ

代理權ヲ爭ハサリシ相手方ハ本人又ハ代理人ニ異議ヲ申出テ其單獨行爲ヲ無効ナラシムルコトヲ得ヘク(本法第百十五條)且ツ過失ナクシテ代理權ノ欠缺ヲ知ラサル場合ニ於テ本人ノ追認ナキ爲メ損害ヲ蒙リタルトキハ代理人ニ對シ損害賠償又ハ其單獨行爲ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(本法第百十七條)

以上ハ無權代理人ノ爲シタル單獨行爲ニ付テノ規定ナリ然ラハ或人カ代理權ヲ有セサル者ニ對シテ爲シタル單獨行爲(例ヘハ辨濟、受領ノ權限ナキ者ニ對シテ爲シタル辨濟)ハ如何本條後段ノ規定ニ依レハ如此單獨行爲ハ行爲ノ當時無權代理人ノ同意ヲ得テ爲シタル場合ニ限リ前五條ニ準據スヘキモノトス是レ蓋シ此同意ヲ得サリシトキハ無權代理人ハ勿論相手方モ亦必スシモ本人ノ追認ヲ豫期シタルト云フヲ得サルヲ以テ全然其行爲ヲ無効ナラシムルハ實際ノ便宜ニ適ストノ理由ニ出テタル者ナルヘシ

#### 第四節 無効及ヒ取消

法律行爲ノ無効及取消

(第二百四十五條) 本節ハ法律行爲ノ無効及ヒ取消ニ關スル通則ヲ掲ク  
 法律行爲カ其目的トシタル、效果ヲ實際ニ表ハササル場合ヲ分チテ二ト爲スコトヲ得(一)法律行爲カ法律上ノ有效要件ヲ具備セサルカ(要件ノ全部又ハ或ルモノヲ全ク備ヘサルヲ云フ)又ハ其要件ヲ具フルト雖トモ之ニ瑕疵アルカ爲メ效果ヲ表ハス能ハサル場合及ヒ(二)其他ノ事由ノ爲メ(例ヘハ停止條件ノ不成就ノ爲メ)效果ヲ表ハササル場合即チ是レナリ本節ハ右ニ關スル通則

ヲ定ムルモノナリ

法律行為ノ無効又ハ取消ノ原因ハ法律行為ノ要件ニ付テノ欠缺ナルコト右ニ述ヘタルカ如シ此要件ノ一般的ナルモノハ他ノ法律行為ニ關スル通則ニヨリ推論スルコトヲ得ヘク(前已ニ說述シタリ)又各法律行為ノ特別要件ハ各場合ニ就テ論スヘキモノナルヲ以テ本節ハ之ヲ規定セス唯タ主トシテ無効及ヒ取消ノ結果如何ヲ定メタリ又取消ノ規定ハ主トシテ無能力及ヒ詐欺若クハ強迫ニ因ル場合ヲ想像セリ

第一百十九條 無効ノ行為ハ追認ニ因リテ其效力ヲ生セス但當事者カ其無効ナルコトヲ知リテ追認ヲ爲シタルトキハ新ナル行為ヲ爲シタルモノト看做ス

(第二百四十六條) 本條ハ無効ノ法律行為ニ關スル規定ナリ(舊民法財産編第五百五十八條參照)

無効ノ法律行為  
無効ノ意義  
無効行為ノ追認

法律行為ノ無効トハ法律行為カ其目的トシタル效果ニ關シテハ法律上全ク存在セサルヲ云フ(故ニ舊民法ハ之ヲ不成立ト稱セリ)故ニ無効ノ法律行為ハ事實上ニ於テ法律行為ノ現象アルモ法律上ニ於テハ法律行為ニ非ラス從テ其目的トシタル法律上ノ效果ヲ有セサルナリ如此無効ノ法律行為ハ法律上ニ於テ存在セサルモノナレハ當事者カ後チニ至リ之ヲ有效ナラシ

右ノ例外規定

メント欲スルモ能ハサルナリ蓋シ無ヨリ有ヲ生セストノ理論ニ因ルナリ是レ本條カ無効ノ行為ハ追認ニ因リテ其效力ヲ生セスト規定スル所以ナリ

然リト雖トモ當事者(即チ無効行為ヲ爲シタル者)カ法律行為ノ無効ナルコトヲ知リテ之ヲ追認スルトキハ新ニ其行為ヲ爲ス意思ヲ有スルモノト看ルヲ以テ至當トナス是レ本條但書ノ規定アル所以ナリ此規定ニヨレハ追認者ハ新ニ前ノ無効行為ト同一ナル内容(包有事項)ヲ有スル法律行為ヲ爲シタルモノト看做スモノニシテ決シテ前ノ無効行為ヲ其儘有效ナラシムルニアラサルナリ例ヘハ錯誤ノ爲メ無効ナル行為ヲ追認スルトキハ錯誤ナキトキノ内容ニアラスシテ錯誤通リノ内容ヲ有スル行為ヲ爲シタリト看做スナリ如此追認者ハ新行為ヲ爲シタリト看做スニヨリ其行為ハ追認ノ時ヨリ成立シ已往ニ遡ル效力ナキハ勿論又其行為ハ必スシモ常ニ完全ニ效力ヲ生スト云フ可カラス即チ其新行為カ法律上ノ要件ニ適シ有效ナルヲ得ヘキモノニアラサレハ不可ナリ例ヘハ前行爲ノ無効原因カ不法事項ヲ目的トシタルニ存ストセンカ追認ニ據レル新行為モ亦常ニ無効ナルヘシ何トサレハ此場合ニハ新行為モ亦不法事項ヲ目的トスルモノト云ハサルヲ得サレハナリ反之例ヘハ意思能力ノ欠缺、錯誤等ノ爲メ無効ナリシ行為ヲ追認スルトキハ之ニ據レル新行為ハ有效ナリ最モ是ハ追認ノ有效ナルトキニ限ルコト勿論ニシテ若シ追認(追認ハ單獨行為ナリ)カ法律上ノ要件ニ適セサルカ爲メ有效ナルコトヲ得サルトキハ之ニ據レル新行為モ亦完全ナル效力ヲ生セサルヤ明ナリ

絕對的、無効及ヒ相對的ノ無効

以上ハ本條ノ說明ナリ尙ホ法律行為ノ無効ニ付キ注意スヘキ事項ヲ述ヘン

法律行為ノ無効ナルトハ其行為ハ法律上存在セサルナリ然ラハ則チ其無効ニ絶對的ナラサル可  
 カラサルカ如シ詳言スレハ何人ト雖トモ又何人ニ對シテモ其無効ヲ主張スルコトヲ得サル可カ  
 ラサルカ如シ純理上ヨリ論スルトキハ洵ニ如此ナラサルヲ得スト雖トモ實際ノ權宜ハ之ニ拘泥  
 スルコトヲ容サス於是乎法律ハ或ル人ヨリ又ハ或ル人ニ對シテ法律行為ノ無効ヲ主張スルコト  
 ヲ許ササル場合ヲ定ム本法第九十四條第二項、第九十五條但書及ヒ第四百六十七條第一項（即  
 チ之ニ依レハ債務者ニ通知セサル債權ノ讓渡ハ讓渡人ト讓受人トノ間ニハ有效ナレトモ債務者  
 及ヒ第三者ハ其無効ヲ主張スルコトヲ得ルナリ）ノ如キ其類例ナリ依是觀之法律行為ノ無効ハ  
 分レテ絶對的ト相對的トノ二トナルナリ而シテ絶對的無効ハ原則ニシテ相對的無効ハ例外ニ屬  
 スルモノナリ

當初ノ無効  
及事後ノ無効

又法律行為ノ無効ノ原因ハ其行為ノ當初ヨリ存在スルヲ以テ通常トスト雖トモ後日ニ至リテ發  
 生スルコト亦之レアリ詳言スレハ法律行為ノ成立後其效果ノ發生前ニ於テ無効原因ノ起生シ來  
 ルコトアリ（法律行為カ一旦其效果ヲ發生シタル後ニ至リ更ラニ其效果ヲ消滅セシムル場合ヲ  
 云フニアラス故ニ之ト混同スルコトナキヲ要ス）即チ遺言、停止條件附法律行為ノ如キ行為ハ  
 成立後直チニ其效果ヲ生セサルモノニ付テハ行為後ニ於テ無効原因ノ起生スルコトアルナリ例  
 ヘハ停止條件附賣買ノ後チ物件不融通物トナリ又遺言ヲ以テ家督相續人ヲ指定シタル後チ家督  
 相續人タルヘキ子ノ出生スルカ如シ如此行為後ニ起生シタル無効原因ハ遡及力ヲ有スルモノニ  
 シテ其行為ヲ初ヨリ無効ナラシムルコト尠モ行為ノ當初ヨリ存在セシ無効原因ト異ナル所ナキ

全部ノ無効  
及一部ノ無効

者トス然リ而シテ此事ニ關シ一ノ重要ナル問題アリ即チ法律行為ノ當時存在セシナラハ之ヲ無  
 効ナラシムヘキ性質ヲ有スル事由カ行為ノ後（其效力ノ發生前）ニ發生シタルハ其行為ハ無  
 効ニ歸スルヤ否ヤ是レナリ此問題ニ付テハ一般ノ原則ヲ立ツルト難ク各事由ニ就テ一研究決  
 定スルノ外ナリ唯々（一）當事者ノ權利能力ハ法律行為カ效果ヲ生スル時迄繼續スルヲ要ス（二）法律  
 行為ノ目的ハ其效果ヲ生スル時迄適法タルノ要件ヲ保有セサル可カラズ（三）當事者ノ能力（意思  
 能力及ヒ行為能力）ハ其效果發生前ニ於テ之ヲ失フモ其效果ヲ左右セストノ法理ハ一般學者ノ  
 認容スル所ニシテ右問題ノ最重要ナル場合ヲ律スルニ足ルヘシ  
 又法律行為ノ無効原因ハ法律行為ノ效果ノ全部ニ係ル場合ト只タ其一部ニ係ル場合トノ別アリ  
 一部無効ノ場合ニハ延テ全部ノ無効ヲ來スヲ以テ原則トス但シ當事者ハ其無効ノ部分ニ拘ハラ  
 ス其法律行為ヲ爲スノ意思ヲ有シタリト認定スヘキハ此限ニアラス蓋シ無効ノ部分カ其法律行  
 爲ノ要部ニアラサルトキハ通例此認定ヲ爲スヘキモノナラン

第二百一十條 取消シ得ヘキ行為ハ無能力者若クハ瑕疵アル意思表示ヲ爲

シタル者其代理人又ハ承繼人ニ限り之ヲ取消スコトヲ得

妻力爲シタル行為ハ夫モ亦之ヲ取消スコトヲ得

法律行為ノ  
取消權者

（第二百四十七條）本條乃至第二百六條ハ法律行為ノ取消ニ關ス而シテ本條ハ取消權利者ヲ

定ムルモノナリ(舊民法人事編第七十二條第二項、財産編第三百十九條參照)請フ先ツ取消ノ意義及ヒ取消ノ原因ニ付テ一言シ而シテ後テ本條ヲ解説セン

取消ノ意義

法律行為ノ取消トハ法律行為ニ或ル瑕疵アルカ爲メ其效果ヲ已往ニ遡リテ消失セシムルヲ云フ故ニ取消シ得ヘキ法律行為ハ法律上ノ存在ヲ有シ其效果ヲ發生スト雖トモ或ル瑕疵アルカ爲メ當事者(取消權利者)ノ意思表示即チ取消ニヨリ其行為ノ當初ヨリ全ク無効ナリシト同一ナラシムルコトヲ得ヘキモノナリ去レハ當事者ノ取消ナキトキハ其行為ハ完全ニ效果ヲ奏シ且ツ之ヲ保有ス一言以テ之ヲ撤ヘハ取消シ得ヘキ法律行為ハ當事者ノ取消ナキコトヲ條件トスル有效行為ナリト云フコトヲ得ヘシ

取消原因

法律行為ノ取消ノ原因ハ種種アレトモ一般法律行為ノ取消原因ハ(一)能力ノ欠缺(本法第四條第二項、第九條、第十二條第三項及ヒ第十四條第二項參看)及ヒ(二)意思表示ノ瑕疵(本法第九十六條參看)ナリトス故ニ前ニモ述タルカ如ク本節ハ主トシテ此等一般ノ取消原因ノ存在スル場合ヲ想像シテ規定ヲ設ケ其他ノ特別原因ニ因ル取消ハ各場合ニ付キ研究決定スヘキモノトナセリ(是ハ決シテ本節ノ規定ハ特別ノ取消原因ノ場合ニ應用ス可キモノニアラスト云フニアラス却テ若シ其場合ニ於テ本節ノ規定ノ適用ヲ排除スヘキ特別ノ理由ナキ以上ハ本節ニ依リテ決定スヘキモノトス)

本條ノ解説

抑モ無能力又ハ意思表示ノ瑕疵ニ因リ法律行為ノ取消ヲ許スハ無能力者又ハ他人ヨリ意思ノ決定ニ不法ノ干渉ヲ受ケタル者ヲ保護スルニアリ故ニ取消ノ利益ヲ受クヘキ者ハ此等ノ被保護者

及ヒ法律上之レカ位置ニ代ハルヘキ者ニ限ラサル可カラス他人殊ニ其相手タル者ハ取消ノ利益ヲ享有スルヲ得ヘキニアラス是ヲ以テ本條第一項ハ取消權ヲ有スル者ヲ限定シテ無能力者(自身)若クハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者及ヒ此兩者ノ代理人又ハ承繼人トナセリ茲ニ所謂代理人トハ法定代理人(後見人、父、母)及ヒ任意代理人ヲ併稱スルナリ又代理人ハ其權限内ニ屬スル法律行為ニ付テノミ取消權ヲ有スルニ止マルヤ固ヨリ明ナリ又所謂承繼人トハ無能力者又ハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者ヨリ權利義務ヲ繼受シタル者ニシテ一般承繼人即チ一般ノ權利義務ヲ繼受シタル者(例ヘハ相続人、包括的受遺者若クハ受贈者)ノ外尙ホ特別承繼人即チ特別ノ權利(義務)ヲ繼受シタル者(例ヘハ買主、受贈者、受遺者、債權讓受人、抵當若クハ賃權者)ヲモ包含ス故ニ例ヘハ甲者カ詐僞ニヨリ乙者ニ讓渡シタル物ヲ更ニ丙者ニ賣リタル場合ニ於テ丙者ハ乙者ニ對シ讓渡ヲ取消スコトヲ得ヘシ然レトモ特別承繼人ハ只タ其繼受シタル權利ニ關スル法律行為ノミノ取消權ヲ有スルニ止マルヤ法理上固トヨリ明ナリ無能力者又ハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者ノ債權者モ亦後テノ第四百二十三條ニヨリ取消權ヲ有スルコトニ注意スヘシ

右ノ如ク本條第一項ハ取消權利者ヲ無能力者若クハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者及ヒ法律上此等ノ者ト同一ノ位置ニ立ツ者ニ限リタリト雖トモ妻ノ爲シタル獨斷行為ニ付テハ夫ニモ亦取消權ヲ與ヘサルトキハ妻ヲ無能力トナシタル立法ノ本旨ニ適スルヲ得ス蓋シ前ニモ述ヘタルカ如ク妻ノ無能力ハ主トシテ夫權ノ保護ニ在リテ存スレハナリ是ヲ以テ法律ハ本條第二項ニ於

テ妻カ爲シタル行爲ハ夫モ亦之ヲ取消スコトヲ得ルモノトセリ（同項ニ夫ノ代理人及ヒ承繼人ヲ掲ケサルハ其適用ナキニ因ルナリ）

第二百一十一條 取消シタル行爲ハ初ヨリ無効ナリシモノト看做ス但無能

力者ハ其行爲ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ償還ノ義務ヲ負フ

取消ノ效果

（第二百八十四條） 本條ハ取消ノ效果ヲ定ムルモノナリ（舊民法財産編第五百五十二條參照）

本條ニ依レハ法律行爲ノ取消ハ既往ニ溯リテ其行爲ノ效果ヲ消滅セシムルモノナリ蓋シ取消ハ法律行爲ノ要件ニ瑕疵アルニ因ルヲ以テ其效果ハ法律行爲ヲシテ初メヨリ存在セサリシモノトナスニアリトスルハ最モ事理ニ適スルナリ

如此取消ハ法律行爲ヲ初ヨリ無効ナラシムルヲ以テ其行爲ニ依リテ相手方ニ讓渡シタル物權、債權ノ如キハ當然前主ニ復歸シ又免除シタル債權ハ當然復活スルカ如ク法律關係ヲシテ其行爲前ノ狀態ニ復歸セシムル者トス然リ而シテ此效力ハ獨リ當事者間ニ止マラスシテ第三者ニモ亦及フモノトス但シ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者ノ取消ハ此限ニアラス（前第九十六條第三項參看） 依是觀之無能力者ノ取消ハ善意ノ第三者ト雖トモ其效果ヲ甘受セサルヲ得サルナリ以テ法律カ無能力者ヲ保護スルノ厚キヲ知ルヘシ（但シ後ノ第九十二條ニ注意スルコトヲ要ス） 取消ハ法律行爲ヲ初ヨリ無効ナリシモノト爲スコト右ノ如クナルカ故ニ當事者双方ハ其行爲ニヨリテ受ケタル利益ヲ償還セサル可カラズ故ニ例ヘハ其行爲ニヨリテ物ノ所有權ヲ得タル者ハ

其物ノ現存スルトキハ其物ヲ返還スヘク若シ其物ヲ處分シタルカ爲メ返還スルコト能ハサルトキハ其物ノ對價ヲ償還セサル可カラズ然ルニ此原則ニ對シテハ例外アリ本條但書ノ規定即チ是レナリ此ニ依ルトキハ無能力者ハ只タ其取消シタル行爲ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ償還ノ義務ヲ負フニ過キサリナリ是レ即チ無能力者ハ其行爲ニ因リテ得タル利益ニシテ取消ノ當時殘存スルモノニ限リ償還ノ義務アルヲ云フ故ニ無能力者ハ其行爲ニヨリテ得タル利益ト雖トモ取消ノ當時ニ已ニ費消シ去リタルモノハ償還ノ義務ナキナリ例ヘハ無能力者カ其行爲ニ因リテ得タル物又ハ之ヲ處分シテ得タル對價（代金其他ノモノ）ヲ取消當時尙ホ有スルトキハ其物又ハ其對價ヲ返還セサルヲ得スト雖トモ若シ其物ヲ毀損滅失シ又ハ其對價ヲ無益ニ消費シタルトキハ其毀損滅失ニ係ル物又ハ其費消シタル對價ハ之ヲ償還スルコトヲ要セサルナリ依是觀之無能力者ノ償還義務ハ大ニ輕減セラレタルモノト云フヘシ蓋シ若シ如此ナラサレハ無能力者保護ノ本旨ヲ充分ニ達スルコトヲ得サレハナリ又以テ法律カ無能力者ヲ保護スルノ厚キヲ知ルヘシ

第二百二十二條 取消シ得ヘキ行爲ハ第二百十條ニ掲ケタル者カ之ヲ追認

シタルトキハ初ヨリ有效ナリシモノト看做ス但第三者ノ權利ヲ害スル

コトヲ得ス

(第二百四十九條) 本條乃至第二百五條ハ取消シ得ヘキ法律行為ノ追認ニ關スル規定ナリ而シテ本條ハ追認ノ效力ヲ定ムルモノナリ(舊民法財産編第三百二十條、第五百五十四條、第五百五十七條參照)

取消シ得ヘキ行為ハ取消權ノ行使ナキコトヲ條件トスル有效行為ナリ故ニ取消權ノ拋棄アルトキハ無條件ノ有效行為トナルナリ本條カ取消シ得ヘキ行為ハ第二百二十條ニ掲ケタル者即チ無能力者又ハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者其代理人若クハ承繼人其他妻ノ行為ニ付テ夫カ之ヲ追認シタルトキハ初ヨリ有效ナリシモノト看做スト云フハ即チ此意ナリ蓋シ取消シ得ヘキ行為ヲ追認スルハ取消權ヲ拋棄スルニ外ナラサレハナリ(追認カ既往ニ遡テ取消シ得ヘキ行為ヲ有效ナラシムト説クハ不可ナリ何トナレハ取消シ得ヘキ行為ハ假令條件附トハ雖トモ元ト有效行為ナレハナリ)

取消シ得ヘキ法律行為ノ追認ハ取消權ノ拋棄ニ外ナラサルカ故ニ其行為ニヨリ生シタル損害ノ賠償ヲ要求スルヲ妨ケス故ニ詐僞又ハ強迫ニヨリテ意思表示ヲ爲シタル者ハ其行為ヲ追認シタリト雖モ詐僞者若クハ強迫者ニ對シテ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ

取消シ得ヘキ法律行為ノ追認ハ第三者ニ對シテ效力アリト雖トモ其權利ヲ害スルコトヲ得サルモノトス是レ本條但書ノ規定スル所ナリ例ヘハ未成年者カ獨斷ニテ甲者ニ或ル不動産ヲ讓渡シ成年ニ達シタル後チ更ラニ之ヲ乙者ニ讓渡シタル場合ニ於テ前ノ讓渡ヲ追認スルモ其追認ハ乙者ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルカ故ニ乙者ハ未成年者ノ承繼人トシテ有スル取消權ヲ行使シテ

前ノ讓渡ヲ取消シ(前第二百二十條參看)以テ自己ノ權利ヲ保持スルヲ得ヘシ如此ハ固トヨリ至當ノ事ニシテ若シ反對ニ追認ハ第三者ノ權利ヲ害スルヲ得トセハ猥リニ無能力者等ニ厚クシテ其專横ニヨリ第三者ノ利益ヲ害スルコト甚シキニ至ラン追認ハ唯第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルノミニテ當事者間ニ於テハ素ヨリ有效ナリ故ニ前例ノ場合ニ於テ甲者ハ未成年者タリシ者ニ對シ後チノ第五百六十條以下ノ規定ニヨリ追奪擔保ノ權利ヲ有ス

第二百二十三條 取消シ得ヘキ行為ノ相手方カ確定セル場合ニ於テ其取消

又ハ追認ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

取消及ヒ追認ノ方法

(第二百五十條) 本條ハ取消及ヒ追認ノ方法ヲ定ムル者ナリ(舊民法財産編第五百四十四條、第五百五十五條參照)

取消權ノ行使(取消)及ヒ其拋棄(追認)ハ取消權者單獨ノ意思表示ニシテ敢テ相手方ノ承諾ヲ必要トセサルヤ理ノ見易キ所ナリ要言スレハ取消及ヒ追認ハ取消權者ノ單獨行為ナリ或ハ取消ハ裁判上之ヲ請求スヘク追認ハ證書ヲ以テスヘシト定ムル法制(舊民法モ亦然リ)アリト雖トモ是レ徒ラニ費用ト手數ヲ要シ近世交通ノ便宜ニ適セス故ニ本條ハ取消及ヒ追認ハ無方式ナル單獨行為トナセリ然レトモ取消シ得ヘキ行為ノ相手方カ確定セル場合ニハ其意思表示ハ之ニ對シテ爲スヲ要ス何トナレハ若シ然ラサレハ相手方ハ取消又ハ追認ノアリタルコトヲ知ラサルカ爲不測ノ損害ヲ蒙ルヘケレハナリ反之其相手方ノ確定セサル場合(例ヘハ財團法人ニ付テノ

寄附行為)ニハ單ニ當該意思表示ヲ爲スノミヲ以テ足レリトス

第二百二十四條 追認ハ取消ノ原因タル情況ノ止ミタル後之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ

禁治産者カ能力ヲ回復シタル後其行為ヲ了知シタル後ニ非サレハ追認ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ夫又ハ法定代理人カ追認ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ

追認ノ要件

(第二百五十一條) 本條ハ追認ノ要件ヲ定ムルモノナリ(舊民法財産編第五百四十五條參照) 取消ノ原因タル情況ノ猶ホ依然トシテ存續スルニ方リ追認ヲ爲スコトキハ其追認ハ取消シ得ヘキ法律行為ト同シク瑕疵ヲ帶フモノト云ハサル可カラス故ニ追認ハ取消ノ原因ノ止ミタル後(例ヘハ未成年者カ成年者トナリ表意者カ詐偽ヲ發見シ又ハ強迫ニ依リテ生シタル恐怖心ヲ去リタルカ如シ)ニ爲スニ非サレハ其效ナキモノトセサル可カラス是レ本條第一項ノ規定スル所ナリ然レモ禁治産者カ追認ヲ爲スニハ右ノ規定ニヨリ禁治産ヲ免カレタルヲ要スルノ外尙ホ取消シ得ヘキ行為ヲ了知シタル後チニアラサレハ追認ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(知了ノ原因ノ如何ヲ問ハス、自カラ想ヒ起スモ他人ノ通知請求等ニ因ルモ可ナリ) 本條第二項ノ規定即チ是レナリ是レ固トヨリ目的ノ理ニシテ法ノ明文ヲ俟タサルカ如シト雖トモ後チノ第二百五條及第

百二十六條ニ於テ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヲ知ルノ必要アルニヨリ特ニ本條ニ於テ之ヲ明カニシタルモノナラン

以上ノ規定ハ夫又ハ法定代理人カ追認ヲ爲ス場合ニハ適用ナシ是レ本條第三項ノ定ムル所ナリ蓋シ此場合ニハ取消ノ原因止マサルモ追認ニ瑕疵アルヲナケレハナリ故ニ夫又ハ法定代理人ハ婚姻ノ解除若クハ被代理人ノ能力回復ヲ俟ツヲ要セス取消シ得ヘキ行為ヲ了知シタル時ハ直チニ追認ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第二百二十五條 前條ノ規定ニ依リ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ後取消シ

得ヘキ行為ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス但異議ヲ留メタルトキハ此限ニ在ラス

一 全部又ハ一部ノ履行

二 履行請求

三 更改

四 擔保ノ供與

五 取消シ得ヘキ行為ニ因リテ取消シタル權利ノ全部又ハ一部ノ讓



### 六 強制執行

黙示ノ追認ノ推定

(第二百五十二條) 本條ハ黙示ノ追認ノ推定ニ關スル規定ナリ (舊民法財産編第五百五十六條參照)

追認ハ一ノ法律行為ナリ故ニ明示又ハ黙示ノ意思表示ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ黙示ノ追認ノ意思ヲ推測スルニ足ルヘキ事情ノ存在ニヨリテ之ヲ推斷スヘキコト勿論ナリト雖トモ本條所掲ノ事實アルトキハ通常追認ノ意思ヲ有スルモノト看ルコトヲ得ルナリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

本條所掲ノ事實アリタルトキハ追認アリタリト看做スト雖トモ此ニハ次ノ二條件ノ具備スルコトヲ必要トス

- (一) 本條所掲ノ事實ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時以後ニ於テ起生シタルコト蓋シ其以前ニ於テハ有效ナル追認アル能ハサレハナリ而シテ追認ヲ爲スコトヲ得ル時如何ハ前條ニヨリテ明ナリ
- (二) 異議ノ留保ナキヲ要ス 即チ本條所掲ノ事項アルモ若シ取消權カ追認ノ推定ノ不利益ヲ避ケント欲セハ追認ヲ爲スノ意ナキ旨ヲ示シ異議ヲ留ムルコトヲ得此ノ異議ノ留保アルトキハ決シテ追認ノ推定ヲ生セス

以上ノ二要件ヲ具備シ本條所掲ノ事項アルトキハ法律上黙示ノ追認アルモノト推定セラルルコト

ト右述ヘタルカ如シ此推定タル所謂完全ノ推定ニシテ反對ノ立證ヲ容ササルモノナリ  
今マ左ニ本條所掲ノ事實ヲ畧説セン

第一、全部又ハ一部ノ履行、即チ取消シ得ヘキ行為ノ效果ノ全部若クハ一部ノ實行ナリ此履行ハ取消權者ヨリ相手方ニ對シ又ハ相手方ヨリ取消權者ニ爲シタルヲ問ハサルナリ又此履行ハ現實ノ履行ノ謂ニシテ履行ノ提供ヲ含マス

第二、履行ノ請求、此請求ハ取消權利者ヨリ相手方ニ對シテ爲シタルモノニ限り相手方ノ取消權者ニ對シテナシタル請求ヲ云フニアラス

第三、更改、更改ニ付テハ後チノ第五百十三條以下ヲ看ルヘシ(更改ノ申込ヲ含マス)

第四、擔保ノ供與、即チ取消權者カ其法律行為ニヨリテ負擔シタル債務ノ爲メ質權抵當權ノ如キ擔保ヲ供シ又ハ其行為ニヨリテ得タル債權ニ對シ相手方ヨリ右ノ如キ擔保ノ供與ヲ受ケタル場合ヲ云フナリ

第五、取消シ得ヘキ行為ニヨリテ得タル權利ノ全部又ハ一部ノ讓渡是ハ取消權者ノ爲シタル讓渡ヲ指シ相手方カ其行為ニヨリテ得タル權利ノ讓渡ヲ云フニアラス

第六、強制執行、是レ取消シ得ヘキ行為ノ效果ノ強制的實行ニシテ取消權者ヨリ相手方ニ對シ又ハ反對ニ相手方ヨリ取消權者ニ對シテ爲シタルモノヲ云フ

終リニ臨ミ一ノ注意スヘキコトアリ即チ本條ハ黙示追認ノ場合ヲ列舉シタルモノニアラスシテ只タ之ヲ例示シタルニ過キス故ニ本條所掲以外ノ事實アリタル場合ト雖トモ黙示ノ追認アリタ

リト認定スヘキ事情アルニ於テハ固トヨリ之ニ從フヘキヤ明ナリ

第二百二十六條 取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

取消權ノ時効

(第二百五十三條) 本條ハ取消權ノ時効ヲ規定スルモノナリ(舊民法人事編第七十三條、財産編第五百四十四條乃至第五百四十六條参照)

取消權ノ時効期間ハ後ノ第六十七條第二項ニ依リ二十年ナルヘキカ如シ何トナレハ之ヲ債權又ハ所有權ニアラサル財産權ナレハナリ然レトモ取消權ヲ長ク留存セシムルトキハ不確定ナル法律關係ヲ永存セシムルニ至ルカ爲メ一般ノ經濟上不利ナリ故ニ取消權ニ付テハ特ニ短期ノ消滅時効ヲ設ケサル可カラス是ヲ以テ本條ハ取消權ノ時効期間ヲ短縮シテ五年トシ而シテ其期間ノ起算點ヲ定メテ追認ヲ爲スコトヲ得ル時(前第二百二十四條參看)トナセリ蓋シ其以前ニ於テハ有效ニ取消權ヲ行使スルコトヲ得サレハナリ(後ノ第六十六條參照)

此ノ如ク取消權ノ短期時効ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヲ以テ起算點トナスカ故ニ長ク此時期到來セサルトキハ(例ヘハ禁治産ノ長ク繼續スルトキノ如シ)取消權ハ容易ニ消滅セサルヘシ如此ナレハ法律カ特ニ之ニ付テ短期時効ヲ設ケタル立法ノ趣旨ニ適セサルヘシ是ヲ以テ法律ハ右

ノ如キ場合ト雖トモ取消シ得ヘキ行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過スルトキハ取消權ハ時効ニ依リテ取消スヘキモノトナセリ而シテ此二十年ノ期間ハ一般時効ノ最長期ニ則リタルモノナレハ取消權者ノ爲メ酷ナリト云フヲ得サルナリ  
本條ハ取消權ノ時効ヲ規定スルニ止マルモノナリ故ニ取消シ得ヘキ法律行爲ニ因リ生シタル損害賠償權ハ本條ノ支配ヲ受ケス反テ一般不法行爲ノ時効ニ從フモノトス(後ノ第七百二十四條參看)

### 第五節 條件及期限

條件ノ性質

第一條件 條件ナル語ハ世間ニ於テ種種ノ意義ニ用キ或ハ要件又ハ要素ナル語ト同一ノ意義ヲ附シテ甲乙間ノ契約ハ乙ノ承諾ナキヲ以テ契約成立ノ條件ヲ缺クト云ヒ又或ハ法律行爲ニ附帶セル諸般ノ事項ヲ總稱シテ條件完備セリト云フコトアリ然レトモ此等ノ意義ニ用キル條件ト本節ニ所謂條件トハ頗ル其旨趣ヲ異ニス本節ニ所謂條件トハ不確定ノ事實ニシテ當事者カ法律行爲ノ效力ノ存否ヲ其發生ニ係ラシムル所ノモノナリ例ヘハ明日雪降ルトキハ汝ヲ雪見ニ伴ヒ行クヘシト云フ場合ニ於テハ契約ハ今日ニ於テ成立スルモ其效力ハ明日雪降ルニ非サレハ發生セスト定メタルモノニシテ其所謂明日雪降ルトノ事實狀況ヲ名ケテ條件ト云フ尙ホ少シク敷衍シテ説明センニ左ノ如シ

一、條件ハ不確定ノ事實ナルヲ要ス、當事者カ指示シテ條件ト爲ス事實狀況ハ少クトモ當事者

間ニ其成否未定ノ問題ニ屬セサルヘカラス當事者ノ雙方又ハ一方カ其成否ヲ知レル事實狀況ヲ以テ法律行為ノ效力ノ發生ニ係ラシムルハ其法律行為ヲ以テ條件附ノ者ト稱スルヲ得ス故ニ甲乙兩者ニ於テ既ニ其朋友ノ丙カ結婚セルコトヲ知レルニ拘ハラス若シ丙ニ於テ結婚シタルトキハ甲ハ乙ニ金千圓ヲ贈與スヘシト云ヒ又甲ニ於テハ乙ノ父既ニ死シタルコトヲ知レルニ拘ハラス乙ニ向テ若シ汝ノ父生存スルトキハ毎月養料トシテ金五十圓宛送呈スヘシト約スル場合ノ如キハ之ヲ條件附契約ト稱スルヲ得ス然リト雖モ事實ノ確定不確定ハ比較的ノモノニシテ自然界ノ原理、換言セハ人智以上ノ一物ヨリ之ヲ觀察スルトキハ如何ナルモノカ確定セザラン明日雪降ルヤ否ヤモ吾人通常ノ者ヨリ觀察スルトキハ不確定ノ事實ニ相違ナキモ天文學者以上ノ智識ヲ有スル一物ヨリ觀ルトキハ確定ノ事實ナリ本年三月ノ總選舉ニ於テノ某カ當選スルヤ否ヤハ世間ニ於テコソ不確定ナレ天地ノ原理ニ於テハ業ニ已ニ明白ノ事實ナ何リ故ニ條件ノ事實ハ不確定ナルヲ要スト云フモ單ニ當事者雙方ニ於テ其成否ヲ知ラサレハ可ナリ過去現在ノ事實ト雖モ當事者ニ於テ未タ知ラサルモノハ以テ條件ト爲スコトヲ得故ニ甲カ乙ノ父ノ既ニ死セルコトヲ知ラスシテ乙ニ汝ノ父死セルトキハ汝ニ祭料トシテ金百圓ヲ與フヘシト云フトキハ之ヲ條件附契約ト謂フヲ得ヘシ從來ノ立法例及ヒ學說ニ於テハ條件ハ不確定ナル事實ヲ要ストノ原則ヲ嚴格ニ解シ條件ハ將來ノ事實ナラサルヘカラス現在過去ノ事實條件タル能ハスト爲セリ然レトモ方今有名ノ學者ハ此說ヲ採ラス我民法モ新主義ニ基キ當事者ニ成否未定ノモノナレハ條件ト爲スコトヲ得ト爲セリ尙ホ詳シキコトハ後ノ説明ヲ看

ルヘシ

二、條件ハ法律行為ノ效果ヲ不確定ノ事實ニ係ラシムルモノナリ 條件附法律行為ハ既ニ決意ノ成レルモノニシテ其決意ヲ條件ニ係ラシムルモノニ非ス唯其決意ノ成レル法律行為ノ豫期スル效果ヲ不確定ノ事實ニ係ラシムルノミ故ニ甲ニシテ衆議院議員ニ選舉セラレタルトキハ乙ハ甲ニ金千圓ヲ與フヘシト約スル場合ニハ乙カ甲ニ金千圓ヲ與フヘキ效果ハ甲ノ衆議院議員ニ選舉セラレタル事實ノ發生ヲ要スト雖モ乙今日ニ於テ甲ニ對シ若シ甲ニシテ衆議院議員ニ選舉セラレタルトキハ必ス之ニ金千圓ヲ與ヘサルヘカラサル拘束ヲ受クルモノトス隨テ乙ニシテ其義務ヲ免レント欲セハ適法ノ方法ヲ以テ取消ヲ爲ササルヘカラス然ラサレハ相當ノ賠償ヲ支拂ハサルヘカラサルモノトス之ニ反シテ甲乙ニ約シテ曰ク若シ丙ニシテ余ニ一箇月金三百圓ノ報酬ヲ授クルトキハ余ハ丙ノ爲メニ備役セララルコトアルヘシト云フトキハ條件ナルモノ存スルコトナシ世間普通ノ語トシテハ右ノ場合ニ付テハ一箇月金三百圓ノ報酬ヲ以テ條件ト稱スルモ茲ニ所謂條件ニ非サルナリ是レ此場合ニハ備役ニ應スヘシト云フ甲ノ意思其者カ丙ノ授與スヘキ一箇月三百圓ノ報酬如何ニ係ルモノニシテ若シ丙ニ於テ一箇月三百圓ノ報酬ヲ約スルトキハ余ハ備役ニ應スヘシトノ意思ヲ表示スルモ丙カ之ヲ約セルトキハ余ハ其意思ヲ表示セスト云フニ過キス備役ニ應スヘシトノ意思完成シテ其效果タル備役ノ義務ニ服スル事カ一箇月三百圓ノ報酬授與ノ未定ノ事實ニ係ルモノト之ヲ區別スルヲ要ス

條件ハ法律行為ノ效果ヲ發生消滅セシムト雖トモ其法律行為成立ノ前提ノ要件ヲ構成スルモ

ノニ非ラス例ヘハ汝ニシテ嫁資一萬圓ヲ持參スルトキハ余ハ汝ト結婚スヘシト云ヒ又汝ニシテ代金ヲ拂フトキハ品物ヲ渡タスヘシト云フカ如キハ法律行為ノ成立ニ關スル要素ニシテ真正ノ條件ニ非ラス既ニ羅馬ニ於テモ此等ノ條件ヲ法律上ノ條件及ヒ事實上ノ條件ト云ヒ真正ノ條件トハ之レヲ區別セリ真正ノ條件ハ法律行為ノ豫期スル將來ノ效果ヲ發生消滅セシムルモノナリ

條件ノ種類

- 三、條件ハ法律行為ニ附隨スル事實ナリ、甲ハ乙ニ金一萬圓ヲ贈與スヘシ乙ハ其報酬トシテ甲ノ父ニ一箇月百圓宛終身贈與スヘシト云フカ如キハ條件ニ非ス是レ甲ノ乙ニ金一萬圓ヲ贈與スル契約ト甲ノ父ニ一箇月百圓宛ノ終身年金ヲ贈與スル契約トハ獨立ニ存在スルモノニシテ附隨ノモノニ非サレハナリ條件ト云ヘハ或法律行為ニ附隨シテ之ト一體ヲ爲シ他ノ一種變體ヲ形成セサルヘカラス兩兩相對シテ成立シ分離スルモ獨立ニ存在シ得ヘキ前例ノ事實ハ之ヲ附隨ノ契約ト稱スヘキモ條件ト名ツクヘカラス故ニ乙ニ於テ甲ノ父ニ一箇月百圓ノ終身年金ヲ給與セサルモ甲ハ乙ニ金一萬圓ノ贈與ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ唯有債行為ノ結果トシテ乙ノ義務不履行ヲ口實トシテ贈與ヲ解除シ其金ノ返戻ヲ受クルコトヲ得ルニ過キス
- 終ニ臨ミテ條件ノ類ヲ示サン
- 一、停止條件及ヒ解除條件、後ニ説明スヘケレハ茲ニ略ス
- 二、不法條件及ヒ不能條件、後ノ説明ニ讓ル
- 三、事實上ノ條件及ヒ法律上ノ條件、既ニ説明シタレハ茲ニ略ス

期限ノ性質

- 四、有的條件及ヒ無的條件、前者ハ或事實狀況ノ發生ニ係リ後者ハ或事實狀況ノ不發生ニ係ル
- 五、未必條件及ヒ既發條件、未必條件トハ法律行為ノ當時條件タル事實狀況ノ未タ發生セサルモノニシテ既發條件トハ既ニ事實狀況ノ發生シ又ハ發生セサルコトノ確定セルモノヲ云フ
- 六、任意條件偶成條件及ヒ混合條件、任意條件トハ條件成就ノ場合ニ利益ヲ取得スル者ノ任意ノ行為ヲ以テ條件ト爲スモノ偶成條件トハ條件成就ノ場合ニ利益ヲ取得スル者ノ加効ナキ事實ヲ以テ條件ト爲スモノ又混合條件トハ條件成就ノ場合ニ利益ヲ取得スル者ノ加効ト其任意ヲ許ササル事實ト相合成スルモノヲ云フ例ヘハ汝水ヲ飲メハト云フハ任意條件ニシテ明日雪降レハト云フハ偶成條件ナリ而シテ汝議員ニ當選セハト云フハ混合條件トス
- 七、不明條件不當條件及ヒ矛盾條件條、件ノ意義明カナラサルモノヲ不明條件ト云ヒ理論ニ適當セサルモノヲ不當條件ト稱シ前後抵觸スルモノヲ矛盾條件ト云フ此等ハ條件タルノ効ナシ第二期限、期限トハ法律行為ノ履行若クハ效力ヲ之ニ係ラシムルカ爲メ其法律行為ニ附シタル將來ノ事實ニシテ其發生確實ナルモノナリ尙ホ少シク敷衍シテ説明センニ左ノ如シ
- 一、期限ハ法律行為ノ履行若クハ效力ノ係ル事實ナリ、獨逸學者ハ多ク期限ハ法律行為ノ效力ヲ係ラシムル者ナリト説明スルモ我民法第三百二十五條ニ依レハ法律行為ノ效力ハ期限前ニ生スルモ其履行ハ期限ニ至リ始メテ請求スルコトヲ得ト爲スヲ以テ我民法上ニ於テハ期限ヲ以テ單ニ效力ノ係ル事實ト稱スルトキハ廣キニ失ス然レトモ或學者ノ説明スル如ク法律行為ノ履行ノ係ル意思表示ナリト云フトキハ亦却テ狹キニ失スル感アリ是レ法律行為ニ終期ヲ附シ

タル場合ニハ其期限ノ到來ニ因リテ法律行為ノ履行請求權ノ消滅ヲ來タスノミナラス其實ニ效力ヲ消滅スヘキモノナレハナリ

二、期限ハ其發生確定ナル將來ノ事實ナリ、是レ期限ト條件ト異ル主タル點ニシテ條件ハ其發生當事者ニ取リテ不確定ナレハ過去現在ノ事實ト雖モ法律行為ノ效力ノ發生ヲ係ラシムルニ足ルモ期限ハ到來ノ時期ハ必スシモ確定スルヲ要セスト雖モ必ス將來ノ事實ニシテ且到來スヘキモノニ限ル

期限ノ種類

期限ノ種類モ種種アリ今主ナルモノヲ擧ケンニ左ノ如シ

一、停止期限(始期)及ヒ消滅期限、(終期) 後ノ説明ニ讓ル

二、確定期限及ヒ不確定期限、到來ノ時期確定セルヲ確定期限ト稱ス例ヘハ明治三十九年一月一日限、來月第三日曜日マテト云フカ如シ而シテ到來ノ時期確定セサルヲ不確定期限ト名ツク例ヘハ余死セハ汝遺產ヲ相續スヘシト云フカ如シ

三、任意期限法定期限及ヒ恩惠期限、當事者ノ定メタルモノヲ任意期限ト云ヒ法律ノ特定セルモノヲ法定期限ト稱ス判決原本ハ判決言渡シヨリ七日内ニ作成スヘシト云フカ如キハ法定期限ナリ恩惠期限トハ裁判所カ債務者ノ情狀ヲ憫ミテ特ニ猶豫ヲ許與スル期限ナリ佛民法及ヒ舊民法ニハ之ヲ認メタルモ現行民法ニハ之ヲ認メス是レ債務者ノ權利ヲ奪フモノナレハナリ四、明示期限及ヒ默示期限、余ノ留學中汝ニ家ヲ貸與スヘシト云フハ默示期限ナリ何月何日限リト云フハ明示期限ナリ

期限ト條件トノ異同

終ニ期限ト條件トノ異同ニ付テ一言セン期限ハ條件ニ類シ兩者共ニ當事者ノ意思ニ因リテ定ムルコトヲ得且共ニ法律行為ノ法定要件ニ非ス而シテ兩者又法律行為ノ或效力ヲ其事實ノ發生ニ係カラシムルモノニシテ其事實ハ法律行為ト合體シテ一體ヲ形成シ獨立ニ存在スルモノニ非ス又附帶ノ約款ニモ非ス然レトモ期限ト條件トハ左ノ點ニ於テ之ヲ異ニス

一、事實

(イ) 條件ハ不確定ノ事實ニ法律行為ノ效力ニ係カラシムルヲ以テ其事實ノ確定スルマテハ法律行為ノ效力ハ未確定ノ狀況ニ在ルモ期限ニ於テハ事實ノ發生確定セルヲ以テ法律行為ハ初メヨリ確定セリ唯停止期限ノ場合ニハ其期限ノ到來スルマテ履行シ得サルノミ

(ロ) 條件ノ事實ハ獨リ將來ノモノニ限ラスシテ過去現在ノ事實モ條件ト爲スコトヲ得之ニ反シテ期限ハ必ス將來ノ事實ナルヲ要ス

二、效力

(イ) 先ツ停止期限ト停止條件トノ差異ニ付テ言ヘハ停止條件ハ法律行為ノ效力ヲ停止シ停止期限ハ法律行為ノ履行ヲ停止ス即チ停止條件ハ權利義務ノ發生不確定ニシテ停止期限ハ其權利ノ主張ヲ停止スルノミニシテ權利義務ノ發生ハ確定セリ故ニ左ノ結果ヲ生ス

(一) 停止條件ノ場合ニハ其條件ノ成否未定ノ間ニ生シタル危險ハ債務者ノ負擔ニ歸シ停止期限ノ場合ニハ債權者ノ負擔ニ歸ス(本法五百三十四條及五百三十五條參照)

(二) 停止條件ノ場合ニ於テハ條件ノ成否未定ノ間ニ給付ヲ爲シタルトキハ之ヲ回取スルコト

ヲ得之ニ反シテ停止期限ノ場合ニハ之ヲ回取スルコトヲ得ス

(ロ) 解除條件ト消滅期限トハ效力ノ點ニ於テハ殆ント異ナル所ナキモ唯條件ノ場合ニハ法律行  
爲ノ效力ヲ消滅セシメ消滅期限ノ場合ニハ其效力ヲ終止スル點ニ於テ差異アリ故ニ例ヘハ甲  
ノ死スルマテ毎月十圓宛宛給與スト云フトキハ毎月ノ給與ハ甲ノ死亡ニ因リテ終止スルモ其死  
亡前ニ取得シタルモノハ返附スルノ要ナシ之ニ反シテ余ハ汝ニ毎月十圓ヲ給與ス然レトモ汝  
余及ヒ余ノ家族ニ對シテ不敬ヲ加フルトキハ此契約ヲ解除スヘシト云フ場合ニハ不敬ノ事實  
發生ト共ニ條件未定ノ間ニ支拂ヒタル給付金ヲ返附セサルヘカラス

第二百二十七條 停止條件附法律行為ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス  
解除條件附法律行為ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ失フ

當事者カ條件成就ノ效果ヲ其成就以前ニ遡ラシムル意思ヲ表示シタル  
トキハ其意思ニ從フ

條件ノ効力

本條ハ條件ノ效力ヲ確定シタルモノナリ

條件ニハ停止條件アリ解除條件アリ停止條件トハ成就ノ時ヨリ效力ヲ生スルモノヲ云ヒ解除條  
件トハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ失フモノヲ云フ例ヘハ甲カ衆議院議員ニ當選セハ乙ニ金一萬  
圓ヲ贈與スヘシトノ條約ノ如キハ贈與ノ効力タル金一萬圓ノ贈與ヲ甲ノ衆議院議員ノ當選マテ

停止スルモノナレハ其議員當選ナル事實ヲ稱シテ停止條件ト名ツク之ニ反シテ甲カ衆議院議員  
ニ當選セハ甲乙間ノ贈與ノ契約ヲ解除シ乙ハ甲ニ金一萬圓ヲ返戻スヘシトノ契約ハ金一萬圓ヲ  
與ヘタル贈與ノ效力ヲ甲ノ衆議院議員ノ選舉ニ依リテ消滅セシムルモノナレハ其事實ヲ解除條  
件ト云フ

本條第一項ニ依レハ停止條件附法律行為ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生スト云フヲ以テ條件成  
就ノ效力ハ原則トシテハ既往ニ遡ラサルモノトス諸般ノ學說立法例ニ依レハ往往條件成就ノ効  
力ハ既往ニ遡ルモノト爲セリ然ルニ我民法ハ此主義ヲ採ラス事物自然ノ性質ニ基キ條件成就ノ  
效力ハ將來ニ向テ發生シ既往ニ遡ルヘキモノニ非スト定メタリ故ニ例ヘハ甲カ乙ニ余ニシテ高  
等文官試験ニ登第セハ兼テ貸與セル書籍ヲ汝ニ與フヘシト約スル場合ニハ其贈與ノ效力ハ甲ノ  
試験登第ノ時ヨリ生スルモノナレハ乙ニシテ甲ノ試験登第ヲ豫期シ未タ其登第ノ日ノ來ラサル  
ニ其書籍ヲ丙ニ賣却スルモ甲ノ登第セサル以上ノ所有權ハ常ニ甲ニ存スルヲ以テ條件ノ成就マ  
テ又條件成就セサルコト明カトナリタルトキハ丙ニ對シテ書籍ノ返還ヲ求ムルコトヲ得又甲カ  
乙ニ汝ニシテ此回ノ訴訟ニ於テ敗訴ノ言渡ヲ受クルトキハ余カ汝ノ爲メニ預レル金ニ利子ヲ附  
スヘシト約スルトキハ乙ニシテ苟モ敗訴ノ言渡ヲ受ケサル以上ハ甲ハ利子ヲ支拂フ義務ナシ然  
リ而シテ條件成就シタルトキハ法律行為ノ效力ハ當然發生スヘシ故ニ債權關係ニ於テハ條件成  
就スルトキハ一方ハ直チニ債權ヲ得他方ハ當然債務ヲ負フ又讓渡ニ於テハ直チニ其目的物讓受  
人ニ移轉スヘキナリ

本條第二項ニ依レハ解除條件附法律行為ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ失フト云フヲ以テ亦條件成就ノ效力ハ既往ニ遡ラサルコト明カナリ故ニ例ヘハ甲カ乙ニ若シ余ニシテ此回ノ訴訟ニ敗訴セハ兩人ノ間ノ消費貸借契約ハ解除スヘシト約スルトキハ乙ハ甲ノ敗訴マテ借用ノ金ヲ返戻スル義務ナキモ利子ハ依然支拂ハサルヘカラス而シテ甲ノ敗訴ト共ニ消費貸借ノ契約ハ茲ニ解除セラレタルヲ以テ乙ハ此時ニ於テ借金ヲ返濟スルノ義務ヲ負フ尤モ甲カ此場合ニ自己ノ過失ニ因リ其領收ヲ遲滞スルトキハ乙ハ利子支拂ノ義務ヲ免ル又甲カ乙ニ余此書籍ヲ汝ニ贈ル然レトモ高等文官試験ニ落第セシナラハ契約ヲ解除スヘシト約スル場合ニハ書籍ハ甲ノ試験落第ナル事實發生セサル以上ハ乙ニ屬スルヲ以テ乙ハ之ヲ他ニ轉賣轉贈スルコトヲ得而シテ之ヲ轉賣轉贈シタル後甲落第セシトキハ甲ハ直チニ其轉賣者又ハ轉受贈者ニ對シテ書籍ノ返戻ヲ求ムルコトヲ得是レ亦條件成就ノ效力カ物權的ナルニ由ル

以上述べタル條件成就ノ效力ハ既往ニ遡ラストノ原則ハ強行的ノ法規ニ非ス故ニ當事者ニ於テ之ニ異ナル意思ヲ表示スルトキハ其效果ヲ條件成就前ニモ遡ラシムルコトヲ得即チ當事者ハ條件附法律行為ノ效力ヲ法律行為ヲ爲シタル時ヨリ生セシムルコトヲ得故ニ此特約アルトキハ停止條件成就ノ時權利ヲ取得シタル者ハ條件附法律行為ヲ爲シタル時ニ遡リテ其權利ノ實行ヲ主張スルコトヲ得義務ヲ負ヒタル者ハ契約締結ノ當時ヨリ利子果實等ノ支拂ヲ爲ササルヘカラス又解除條件成就ノ時權利ヲ失ヒタル者ハ條件ノ成就未定ノ間ニ取得シタル利益ヲ還附セサルヘカラス義務ヲ免レタル者ハ利益ヲ回收スルコトヲ得而シテ其効力ハ亦物權的ナルヲ以テ解除條

件未定ノ間ニ第三者カ善意ヲ以テ權利ヲ取得シタルモ條件ノ成就ト共ニ再ヒ之ヲ喪失セサルヲ得ス

**第二百二十八條** 條件附法律行為ノ各當事者ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ條件ノ成就ニ因リテ其行為ヨリ生スヘキ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス

條件附權利  
義務

本條ハ條件附法律行為ノ成立ハ當事者ニ一種ノ利益ヲ生ス而シテ此利益ハ相手方ニ於テ侵害スルヲ得サル旨ヲ規定セリ

條件附法律行為ノ本來ノ目的タル効力ハ前條ノ規定ニ依リテ條件成就スルニ非サレハ發生セスト雖モ條件附法律行為モ亦一種ノ意思表示ニ外ナラサレハ其意思表示ヨリ生スル直接ノ効力ハ亦條件附法律行為ニ伴フ者ナリ即チ當事者ハ其條件附法律行為ノ旨趣ヲ遵守シテ漫ニ之カ取消ヲ爲スコトヲ得サルヘシ其結果當事者ハ一種ノ希望ヲ取得スルト同時ニ一種ノ拘束ヲ受ク例ヘハ甲乙間ニ甲カ議員ニ當選セシナラハ乙ニ百圓ヲ與フヘシトノ停止條件附契約ヲ締結スル場合ニ於テハ其契約ノ成立ト共ニ甲ハ條件ノ成就ニ因リテ乙ニ百圓ヲ與ヘサルヘカラスト云フ一種ノ拘束ヲ受クルト同時ニ條件ノ不成就ニ因リテ其義務ヲ免ルヘシト云フ一種ノ希望ヲ取得ス而シテ乙ハ條件ノ成就ニ因リテ甲ヨリ百圓ヲ受クヘシト云フ一種ノ希望ヲ取得スルト同時ニ條件ノ

不成就ニ因リテ約束ノ金員ヲ受クル能ハスト云フ危険ヲ懷ク又甲乙間ニ甲カ議員ニ當選セサル  
 片ハ乙ニ金百圓ヲ贈與スル契約ハ之ヲ解除スヘシト約スル場合ニハ甲ハ條件ノ成就ニ因リテ乙  
 ニ金百圓ヲ與フル義務ヲ免ルヘシト云フ希望ヲ取得スルト同時ニ條件ノ不成就ニ因リテ約束ノ  
 金ヲ乙ヨリ回取スルコトヲ得スト云フ危険ヲ懷キ乙ハ條件ノ成就ニ因リテ既ニ得タル金ヲ返戻  
 セサルヘカラスト云フ一種ノ拘束ヲ受クルト同時ニ條件ノ不成就ニ因リテ既ニ得タル金ヲ返戻  
 スルヲ要セスト云フ希望ヲ有ス然リ而シテ此等一方ノ拘束ニ對スル相手方ノ希望ハ適法ノモノ  
 ニシテ條件附法律行為ニ當然隨伴スル所ノモノナリ當事者ニシテ條件附法律行為ヲ爲ス以上ハ  
 必ス亦此希望拘束ヲ尊重セサルヘカラスト之ヲ以テ一般ノ希望、普通ノ事實ト看過シ當事者ニ何  
 等ノ効果モ及ホサルモノトセハ當事者ハ初メヨリ條件附法律行為ヲ爲ス意ナキモノト謂ハサ  
 ルヘカラスト故ニ法律ハ特ニ之ニ保護ヲ與ヘタリ學者或ハ之ヲ稱シテ單純ナル希望ニ過キサルヲ  
 以テ之ニ保護ヲ與フル要ナシ之ニ保護ヲ加フル必要アリトセハ寧ロ條件ノ効果ヲ既往ニ遡ラシ  
 ムルニ若カスト説ク然レトモ此希望タルヤ當事者ノ法律行為ヲ爲ス當時ヨリ侵害セザランコト  
 ヲ期スルモノニシテ若シ當事者ニ於テ擅ニ侵害スルヲ得ト爲スニ於テハ殆ント其法律行為ナル  
 モノナキカ如シ故ニ當事者ハ初メヨリ此希望ヲ尊重スルコトヲ默諾スルモノナリ然ルニ法律カ  
 之ヲ看過シテ保護ヲ與ヘサルトキハ法律制定ノ本旨ニ戾ルヘシ且我民法ニ於テハ既ニ前條ニ於  
 テ條件ハ既往ニ遡ラサル原則ヲ確定シタルヲ以テ益々特別ノ規定ヲ以テ之ヲ保護スルノ必要ア  
 リ又或學者ハ此希望ヲ稱シテ純然タル權利ナリト稱ス然レトモ權利ハ法律ノ保護アリテ初メテ

之ヲ唱フヘキモノナレハ此希望ニ本條ノ保護ヲ附セラレタル今日ニ於テハ權利ト稱スヘキモ本  
 條ノ保護ナキ以前ニハ未タ權利タル性質ヲ存セサルモノナリ故ニ法律ニ於テハ單ニ之ヲ利益ト  
 稱セリ然レトモ法律ノ目的ハ民法ノ施行ト共ニ之ヲシテ權利タラシムルニ在レハ民法實施後ニ  
 於テ之ヲ侵害シタル者ハ固ヨリ權利侵害ノ責ニ任シ損害ヲ賠償セサルヘカラストモトス且當  
 事者ノ一方ハ相手方ニ於テ之ヲ侵害セントスル傾向アルトキハ第二百二十九條ニ依リ或ハ保存行  
 爲トシテ物件ノ假差押ヲ爲シ或ハ相手方ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得而シテ其侵害  
 ハ事實上ノ處分ニ基クト法律上ノ處分ニ基クトヲ區別スル要ナシ故ニ當事者ノ一方カ條件成就  
 ニ因リ相手方ノ取得シ若クハ回復スヘキ權利又ハ物件ヲ毀滅減損シ若クハ讓渡質入ヲ爲シ、負  
 擔ヲ課シ、相手方ニ爲スヘキ給付ヲ不能ナラシム等ノ行為ヲ爲シ又ハ爲サントスルトキハ常ニ  
 本條ノ保護ヲ受ク然レトモ此權利ノ侵害カ法律上ノ處分ニ基クトキハ尙ホ左ニ注意スルヲ要ス  
 一、條件附法律行為カ債權債務ノ關係ヲ生スル行為ニ止マル場合例ヘハ甲カ乙ニ對シテ議員ニ  
 當選セハ余ノ馬車ヲ汝ニ貸與スヘシト約シタル場合ニ於テ將來ノ債務者タル甲カ條件ノ成否  
 未定ノ間ニ約束ノ馬車ヲ他ニ讓渡スモ乙ハ甲ノ處分ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ス唯成就ノ時  
 第四百十五條ニ依リテ損害ヲ請求スルコトヲ得ルノミ  
 二、條件附法律行為カ權利ノ讓渡廢棄負擔若クハ設定ヲ目的トスルトキハ將來ノ義務者ノ處分  
 ハ條件成就ノ効果ヲ毀損制限スル程度ニ於テ無効ナリ故ニ例ヘハ甲カ乙ニ對シテ汝ニシテ議員  
 ニ當選セハ余ノ馬車ヲ汝ニ賣渡スヘシトノ約ヲ爲シ其條件ノ成否未定ノ間ニ之ヲ丙ニ賣却ス



ルモ若シ乙ニシテ議員ニ當選スルトキハ甲丙間ノ賣買ハ無効ナリ又乙カ甲ニ對シ若シ余ニシテ議員ニ當選セサルトキハ馬車ノ賣買ハ解除スヘシト約シ其條件ノ成否未定ノ間ニ馬車ヲ丙ニ賣渡スモ若シ乙ニシテ議員ニ當選セサルトキハ乙丙間ノ賣買ハ無効ナリ又例ヘハ甲カ乙ニ若シ余ニシテ議員ニ當選セハ土地ヲ汝ニ質入スヘシト約シ其條件ノ成否未定ノ間ニ之ヲ丙ニ質入シタル場合ニハ乙ハ甲ノ當選ニ因リテ丙ニ先ニスル質權ヲ取得ス又甲カ乙ニ對シ汝ニシテ議員ニ當選セハ汝ノ土地ニ對スル抵當權ノ免除ニ關スル契約ハ解除スヘシト約シタルニ依リ乙ハ更ニ其土地ノ上ニ丙ノ抵當權ヲ設定シタリトセン此場合ニ乙ニシテ議員ニ當選スルトキハ甲ノ抵當權ハ丙ノ抵當權ニ先キンスルモノトス又例ヘハ甲カ停止條件附ニテ乙ニ債權ヲ讓渡シ若クハ解除條件附ニテ乙ヨリ之ヲ讓受ケタル後之ヲ丙ニ質入スルモ若シ其條件成就セハ甲丙間ノ質入契約ハ無効トナル

第二百二十九條

條件ノ成否未定ノ間ニ於ケル當事者ノ權利義務ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分、相續、保存又ハ擔保スルコトヲ得

條件附權利  
義務ノ法律  
上ノ性質

本條ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於ケル當事者ノ權利義務ハ通常ノ權利義務ト法律上ノ取扱ヲ同一ニスル旨ヲ規定セリ

條件附法律行為ハ停止條件ノ場合ト解除條件ノ場合トヲ論セス當事者ノ一方ニ希望ヲ生シ相手方ニ拘束ヲ受ケシムルコトハ既ニ前條ノ下ニ於テ説明シタリ而シテ此希望タルヤ前條ノ規定ニ依

リテ保護ヲ與ヘタルヲ以テ之ヲ條件附權利ト稱スヘク又之ニ對スル相手方ノ拘束ヲ條件附義務ト名ツクルコトヲ得然リ而シテ此種ノ權利義務ハ縱令條件成就ノ時ニ於テ本來ノ權利義務ヲ生セシムル權利義務ニシテ本來ノ權利義務ノ素因タルニ過キスト雖モ苟モ法律カ認メテ以テ權利義務ト稱スル以上ハ之ヲ通常ノ權利義務ト取扱ヲ異ニスヘキ理由ナカルヘシ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

本條ニ所謂處分トハ讓渡、質入、抵當等ヲ云ヒ相續トハ家督相續、遺産相續ノ總稱ニシテ保存トハ侵害ヲ防止シ消滅ヲ豫防スル方法ナリ即チ假差押處分時効ノ中斷物件ノ修繕等ヲ云フ擔保トハ權利ノ實行ヲ保障セシムル爲メニ保證ヲ立テ質抵當等ヲ供セシムルヲ稱ス而シテ一般ノ規定ニ從ヒトハ通常ノ權利義務ヲ處分、相續、保存又ハ擔保スル場合ノ規定ヲ準則ト爲スヘシト言フ意ナリ唯茲ニ注意スヘキハ停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキハ遺贈ノ效力ヲ生セサルヲ以テ此場合ノ權利ハ相續スルコトヲ得ス

第二百三十條 條件ノ成就ニ因リテ不利益ヲ受クヘキ當事者カ故意ニ其條件ノ成就ヲ妨ケタルトキハ相手方ハ其條件ヲ成就シタルモノト看做ス

コトヲ得

本條ハ條件ノ成就ニ關シ當事者ニ認定權ヲ與ヘタル規定ナリ

條件ノ成就  
ニ關スル認定

條件附法律行為ヲ爲シタル當事者ノ一方ハ條件附權利ヲ取得シ相手方ハ條件附義務ヲ負擔ス而シテ其義務者ハ漫ニ權利者ノ權利ヲ侵害スルヲ得ス若シ侵害シタルトキハ損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラサルコトハ第二百二十八條ノ規定スル所ナリ然レトモ損害賠償ノ方法タルヤ損害ノ事實及ヒ損害ノ程度ヲ證明スルニ於テ權利者ニ非常ノ困難ヲ感セシム是等ノ困難モ平素ノ場合ニ於テハ猶ホ忍フヘシト雖モ不利益ヲ受クヘキ當事者カ其不利益ヲ豫防スル爲メ故意ニ其條件ノ成就ヲ妨ケタル場合ニ於テハ權利者ヲシテ證明ニ困難セシム如キハ立法上當ヲ得タルモノニ非ス依テ法律ハ特ニ此場合ニ限り相手方ニ其條件ヲ成就シタルモノト看做ス認定權ヲ與ヘタリ本條ニ所謂不利益ヲ受クヘキ當事者トハ停止條件附法律行為ノ場合ニハ債務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ處分シタル者ニシテ解除條件附法律行為ノ場合ニハ債務ヲ復活シ又ハ權利ヲ取得スルヲ得サル者ヲ云フ例ヘハ甲カ乙ニ汝ニシテ議員ニ當選セハ金百圓ヲ與フヘシト約シタル場合ニハ甲ハ即チ條件ノ成就ニ因リ不利益ヲ受クルモノナリ此場合ニ甲カ百圓ヲ與ヘサラント欲シテ乙ノ當選ヲ妨害シタルトキハ乙ハ當選シタル場合ト同シク甲ニ對シテ百圓ヲ請求スルコトヲ得又甲カ乙ニ對シテ余若シ議員ニ當選セハ此贈與ハ解除スヘシトノ解除條件附ニテ或物件ヲ乙ニ贈與シタル場合ニハ乙ハ即チ條件ノ成就ニ因リ不利益ヲ受クルモノナリ故ニ乙ニシテ甲ノ當選ヲ妨害スルトキハ甲ハ亦贈與物ヲ回取スルコトヲ得

本條ハ相手方ニ認定權ヲ與ヘタルニ過キサレハ相手方ハ單ニ不法行為ヲ理由トシテ損害賠償ヲ請求シ條件ヲ成就シタルモノト看做ササルコトヲ得亦其權利ヲ拋棄スルコトヲ得又本條ハ不利

益ヲ受クヘキ當事者カ故意ヲ以テ條件ノ成就ヲ妨ケタル場合ノ規定ニ過キサレハ不可抗力ニ因リ條件ノ成就ト爲リタル場合又ハ其利益ヲ受クヘキ者カ條件ノ成就ヲ妨ケタル場合ニハ適用スルヲ得ス加之條件成就ノ妨害カ不利益ヲ受クヘキ當事者ノ行為ニ出ツルモ其當事者ノ意思不利益ヲ免カルルニ在ラスシテ唯他ノ目的ヲ以テ行為ヲ爲シタルニ偶然條件ノ成就ヲ妨クルニ至リタル場合若クハ其意思條件ノ成就セサル點ニ存スト雖モ故ラニ不利益ヲ免カルル精神ヲ以テ其不成就ヲ惹起セシメタルニ非サル場合ニハ亦本條ヲ適用スルヲ得ス故ニ甲カ乙ニ對シテ衣服ヲ買フニ一應着シタル上ニテ似合シカラサルトキハ賣買ヲ解除スヘシト約スル場合ニ甲カ一應着シタル上買ハサル旨申入ルルモ乙ハ其衣服ノ代價ノ返還ヲ拒ムコトヲ得ス

第二百三十一條 條件カ法律行為ノ當時既ニ成就セル場合ニ於テ其條件カ停止條件ナルトキハ其法律行為ハ無條件トシ解除條件ナルトキハ無條件トス

條件ノ不成就カ法律行為ノ當時既ニ確定セル場合ニ於テ其條件カ停止條件ナルトキハ其法律行為ハ無條件トシ解除條件ナルトキハ無條件トス  
前二項ノ場合ニ於テ當事者カ條件ノ成就又ハ不成就ヲ知ラサル間ハ第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ過去及ヒ現在ノ事實ト雖モ條件ト爲シ得ル旨ヲ規定シ并セテ其效力發生ノ時期ヲ定メタリ

本條ノ冒頭ニ於テ述ヘタル如ク過去現在ノ事實ト雖モ苟モ當事者ニ於テ其成就ヲ知ラサル以上ハ之ヲ條件ト爲シ法律行爲ノ效力ノ存否ヲ其發生ニ係ラシムルコトヲ妨ケス然レトモ斯ノ如キ條件ニ直チニ第二百二十七條ヲ適用スルトキハ其條件附法律行爲ノ成立セル以前ニ其效力ヲ發生セシムル場合ヲ生シ不穩當ノ譏ヲ免レス是レ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ尙ホ各個ノ場合ニ付テハ左ニ注意スヘシ

第一、法律行爲ノ當時既ニ成就セル事實ヲ以テ其法律行爲ノ條件ト爲ストキ 此場合ハ亦左ノ二ツニ區別スルヲ要ス

一、停止條件ノ場合、當事者カ停止條件附法律行爲ヲ爲シタルモ其條件法律行爲ノ當時既ニ成就セル場合トハ例ヘハ甲乙間ニ昨日ノ相撲ニ於テ常陸山カ梅ケ谷ニ勝チシトキハ甲ハ乙ニ金十圓ヲ與フト云フカ如シ此場合ニハ當事者ノ意思ハ法律行爲ノ效力ヲ其行爲ヲ爲シタル時ヨリ發生セシメント欲スルモノナレハ其條件ハ之ヲナキモノト看做ササルヲ得ス故ニ前例ニ於テ甲ハ乙ニ十圓ヲ與ヘサルヘカラス

二、解除條件ノ場合、解除條件附法律行爲ヲ爲シタルニ其條件法律行爲ノ當時既ニ成就セル場合トハ例ヘハ明治二十二年二月十一日ニ憲法發布セラレタルトキハ甲乙間ノ契約ヲ解除シ甲ハ乙ニ贈物ヲ返付スヘシトノ契約ヲ締結スル如キ是ナリ此場合ニハ當事者ノ精神全ク

贈與ノ效力ヲ消滅セシメント欲スルニ在ルモノナレハ其契約ハ初メヨリ效力ナキモノト看做ササルヲ得ス隨テ前例ノ甲ハ直チニ乙ニ贈物ヲ返付セサルヘカラス

第二、法律行爲ノ當時不成就カ確定セル事實ヲ以テ其法律行爲ノ條件ト爲ストキ、此場合モ亦左ノ二ツノ場合ニ分チテ説明スヘシ

一、停止條件ノ場合、當事者カ法律行爲ノ當時不成就ノ確定セル事實ヲ以テ停止條件ト爲ストキハ當事者ノ意思條件成就ノ時ニ於テノミ法律行爲ノ效力ヲ生スルニ在ルヲ以テ其法律行爲ハ初メヨリ效力ヲ生セサルモノト看做ス

二、解除條件ノ場合、當事者カ法律行爲ノ當時不成就ノ確定セル事實ヲ以テ解除條件ト爲ス場合ニハ當事者ノ意思ハ畢竟條件成就シタルトキニノミ法律行爲ノ效力ヲ失ハシムルニ在ルヲ以テ法律行爲ハ初メヨリ效力ヲ生シ條件ハ之ヲナキモノト看做ササルヲ得ス

第三、以上説明スル條件ト雖モ當事者カ其成就不成就ヲ知ラサル間ハ當事者ニ取リテハ不確定ノ事實ニシテ將來ニ發生スヘキ事實ヲ以テ條件ト爲ス場合ト之ヲ區別スル能ハス例ヘハ昨日常陸山カ梅ケ谷ニ勝チシナラハト云フ事實モ當事者ニ於テ未タ其捷報ニ接セサル間ハ常陸山カ梅ケ谷ニ勝ツナラハト云フ事實ト同一ニ看做スヘキナリ故ニ此場合ニ於テハ當事者ハ仍ホ條件附權利義務ヲ有スルモノト謂フヘシ隨テ第二百二十八條第二百二十九條ノ適用ヲ受クヘキハ當然ナリ但此場合ニモ當事者ハ其條件ノ成就不成就ヲ知リタルト同時ニ前第一第二ノ推定ヲ受ケサルヘカラス

第三百二十二條 不法ノ條件ヲ附シタル法律行為ハ無効トス不法行為ヲ爲ササルヲ以テ條件トスルモノ亦同シ

不法條件

本條ハ不法ノ條件ノ效果ヲ定メ不法條件ハ總テ法律行為ヲ無効ナラシムル旨ヲ明カニシタリ不法條件附法律行為ニ二種アリ不法ノ條件ヲ附シタル法律行為及ヒ不法行為ヲ爲ササルヲ以テ條件トスル法律行為是ナリ

第一、不法ノ條件ヲ附シタル法律行為トハ甲カ乙ニ對シテ若シ乙ニシテ隣家ニ放火スルトキハ金千圓ヲ與フヘシト云ヒ又汝ニシテ汝ノ姉ト結婚スルトキハ汝ヨリ余ニ對スル契約ハ之ヲ解除スヘシト云フカ如ク其條件ニ依リテ公ノ秩序若クハ善良ノ風俗ニ反シ又ハ法律ノ規定ニ背クコトヲ目的トスル法律行為ヲ云フ換言セハ條件其者ハ法律上又ハ道德上爲スヘカラサルコトヲ獎勵決意セシムルトキ之ヲ不法ノ條件ト云フ但其條件カ直接ニ不法ノ結果ヲ惹起セサルヘカラサル要ナシ間接ニ不法ノ結果ヲ惹起スルモ不法ノ條件ト爲スコトヲ得然レモ公ノ秩序善良ノ風俗又ハ法律ノ規定ニ反スル事項ヲ以テ條件ノ事實ト爲スモ未タ不法ノ結果ヲ生スヘキモノニ非サル以上ハ不法ノ條件ヲ附シタリト稱スルヲ得ス例ヘハ甲カ乙ニ對シテ余ニシテ汝ノ妻ニ姦通シタルトキハ金五十圓ヲ差出スヘシト云ヒ又甲カ契約ニ違背シタルトキハ過料トシテ乙ニ三百圓ヲ支拂フヘシト云フカ如キハ不法ノ結果ヲ生スヘキコトヲ目的ト爲シタルモノニ非サレハ之ヲ不法ノ條件ト云フヲ得然リ而シテ不法ノ條件ヲ附シタル法律行為ハ畢

竟不法ノ事項ヲ目的トスル法律行為ニ過キサレハ第九十條ノ規定ト同シク其法律行為ヲ無効タラシメサルヘカラス

第二、不法行為ヲ爲ササルヲ以テ條件ト爲ス法律行為トハ例ヘハ汝ニシテ余ノ妻ト姦通セサルハ余ハ汝ニ金百圓ヲ與フヘシト云ヒ又甲乙間ニ甲ハ乙ニ金百圓ヲ贈與ス但乙ニシテ甲丙間ノ契約ヲ怠ラサルトキハ之ヲ解除スヘシトノ契約ヲ締結シタル場合ヲ云フ不法行為ヲ爲ササルコトヲ以テ條件ト爲スハ或場合ニハ却テ獎勵スヘキカ如シ然レトモ當事者カ若シ其不法行為ヲ爲ササルニ因リ利益ヲ受クヘキトキハ國民タル者ノ爲ササルヘカラサルコトニ價值ヲ附シタルモノナレハ裏面ニ於テ國民ノ當然爲スヘキコトヲ當然爲ササルモ可ナリ唯利益ト交換ニテ爲スヘシトノ觀念ヲ誘起スルニ至ルヲ以テ到底法律上許スヘキモノニ非ス又若シ當事者カ其不法行為ヲ爲ササルニ因リテ不利益ヲ受クヘキトキハ畢竟不法行為ヲ誘致スルモノナルカ故ニ亦決シテ許スヲ得ス是レ本條ノ規定アル所以ナリ唯注意スヘキハ茲ニ所謂不法行為トハ本法第二編第五章ノ不法行為トハ頗ル意義ヲ異ニス公ノ秩序善良ノ風俗ニ反シ又ハ法律ノ規定ニ背ク行為ヲ汎稱スルモノナリ

第三百二十三條 不能ノ停止條件ヲ附シタル法律行為ハ無効トス 不能ノ解除條件ヲ附シタル法律行為ハ無條件トス

不能條件

本條ハ不能條件附法律行為ノ效力ヲ規定シタルモノナリ

不能條件トハ成就セサルコト確實ナル條件ヲ云フ例ハ落日ヲ回ヘストキハ汝ニ百圓ヲ與フヘシ汝ノ妻ヲ質入スルトキハ金千圓ヲ貸與スヘシ男子ニシテ子ヲ生メハ賣買ヲ解クト云フカ如シ不能ノ停止條件ハ初メヨリ成就セサルコト明カナルヲ以テ當事者ハ之ヲ以テ法律上ノ效果ヲ生セシメントノ真意ヲ有シタルモノト謂フヲ得ス加之假令之ニ效果ヲ附セントスルモ其條件ノ成就スル時期ナキヲ以テ亦其法律行為ノ效果ヲ生スル時期ナシ故ニ不能ノ停止條件ハ初メヨリ效力ナキモノト看做ス之ニ反シテ不能ノ解除條件附法律行為ハ法律行為ヲ解除スルコトナシ當事者ノ解除ノ約束ヲ爲シタルハ畢竟諸議ニ過キス之ヲ以テ此法律上有效ノ者ト爲シタルニ非サルコト明カナリ且其行為ノ效力ヲ失フ時期來ルコトナシ故ニ此場合ニハ其條件ハ初メヨリナキモノト看做シ直チニ法律行為ノ效力ヲ生セシム尙ホ不能ノ條件ニ付テハ左ニ注意スヘシ

一、不能ハ理學ノ原則ニ基クコトアリ法律ノ規定ニ基クコトアリ 落日ヲ回ヘスト云フハ理學的ノ不能ニシテ汝ノ妻ヲ質入ストハ法律上ノ不能ナリ然レトモ法律力之ヲ禁スルカ故ニ爲スヲ得サル事實ハ不法ノ條件ニシテ不能ノ條件ニ非ス法律上ノ不能タルニハ事實上其條件成就スルヲ得サル場合ニ存ス即チ前例ノ妻ヲ質入スル如キハ法律ニ於テ之ヲ質ト看做ササルヲ以テ質入ナル事實ハ事實上成就セシムル能ハサルナリ女子ニシテ父權ヲ取得スルナラハト云フ如キモ亦然リ法律ハ女子カ母タル場合ニハ其親權ヲ認ムルコトアルモ父權ヲ認ムルコトナシ故ニ女子ノ父權ヲ得ルコトハ事實上存スルヲ得サルモノナリ之ニ反シテ隣家ニ放火スルナラハト云フ如キハ法律ニ禁スル事實ヲ以テ條件ト爲スモノニシテ事實上成就スル能ハサルモノ

ニ非ス

二、不能ハ有的ナルコトアリ無的ナルコトアリ、有的不能トハ成就セサルコト確實ナル事實ノ成就ヲ以テ條件ト爲ス場合ヲ謂フ例ハ汝死スルコトナクンハト云フカ如シ無的不能トハ成就スヘキコト確實ナル事實ノ成就セサルコトヲ條件ト爲ス場合ヲ云フ例ハ人ニシテ死セサルトキハト云フカ如シ無的ノ不能條件ト必要の條件トハ之ヲ區別スルヲ要ス必要の條件トハ必ス成就スヘキモノヲ成就スルトシ又ハ成就セサルコト確實ナル事實ノ成就ヲ條件ト爲スヲ云フ故ニ例ハ人ニシテ死セサルコトナクンハト云フカ如キハ必要の條件ナリ

三、不能ハ當事者ニ於テ之ヲ知ルコトヲ要ス、當事者ニ於テ之ヲ知ラサルトキハ條件ト爲スニ足リ其條件ヲ附シタル法律行為ハ常ニ有效ナリ是レ此場合ニハ當事者ハ眞實法律行為ノ效力ヲ其事實ノ存否ニ係ラシメント欲シタルモノナレハナリ故ニ例ハ當事者カ硫酸ハ金ヲ溶解スル力アルヤ否ヤヲ知ラス甲ニシテ硫酸ヲ以テ金ヲ溶解シタルトキハ乙ハ甲ニ金千圓ヲ與フト云フ如キハ完全ナル停止條件附法律行為ト稱スヘキナリ

四、不能ハ法律行為ヲ爲シタル當時確實ナルヲ要ス、可能ノ條件後日ニ至リ不能ト爲ルトキハ眞正ノ條件其時不成就ト成リタルニ過キス故ニ例ハ甲カ乙ニ若シ汝丙ト結婚スルトキハ金千圓ヲ與フヘシト約シタル場合ニ乙ノ結婚前丙死シタルトキハ如キハ眞正ノ條件存スルモ遂ニ其成就ヲ見ル能ハサルニ至リタルモノナレハ唯乙ハ金千圓ヲ得ルヲ得サル結果ヲ生スルノミ

五、不能ハ永久ナルコトヲ要ス、條件ト爲セル事實一時不能ナルモ後日ニ至リ可能ナルヘキト

キハ不能ノ條件ニ非ス當事者ノ意思ハ其ノ可能ト爲リタルトキ成就セントスルニ在リト推定スヘシ例ヘハ余カ八歳ノ小兒ニ對シ汝ニシテ官吏タルトキ又ハ結婚スルトキハ汝ニ應擧ノ軸ヲ贈與スヘシト約スル場合ニハ其條件ノ成就ハ今日ニ於テ不能ナルコト確實ナルモ其小兒カ相當ノ年齢ニ達シタルトキハ可能ト爲ル故ニ真正ノ條件ヲ以テ贈與ヲ約シタルモノト謂ハサルヘカラス

六、不能ハ條件ノ全部ニ係ルコトヲ要ス、條件ノ一部不能ニシテ一部可能ナルトキハ可能ナル部分ハ其條件ノ效力ヲ保存ス

### 第二百二十四條 停止條件附法律行為ハ其條件カ單ニ債務者ノ意思ノミニ係ルトキハ無効トス

任意條件

本條ハ債務者ノ意思ノミニ係ル條件ノ效力ヲ規定シタリ  
債務者ノ意思ノミニ係ル條件トハ或者カ債務ヲ負フヤ否ヤヲ直接ニ其意思ノミニ係カラシムル條件ナリ即チ其債務カ之ヲ負フ者ノ意思ノミニテ定マル場合ヲ云フ例ヘハ余之ヲ欲スルトキハ汝ニ十圓ヲ與フヘシト云フカ如シ斯ノ如キ事實ヲ以テ停止條件ト爲ス法律行為ハ無効ナリ此場合ニハ法律關係ナルモノ存スルコトナシ是レ債務者ハ其約束ヲ守ラサルヘカラサル拘束ヲ受クルモノニ非サレハ債務者ニ法律行為ヲ爲ス意思アリト認ムルヲ得サレハナリ尙ホ各個ノ點ニ付テハ左ニ注意スヘシ

一、債務者ノ意思ノミニ係ル條件ヲ以テ解除條件ト爲ス法律行為ハ有效ナリ例ヘハ余今衣服ヲ買フト雖モ其衣服ニシテ余ノ妻ノ氣ニ入ラサルトキハ賣買ヲ解除スヘシト云フ場合ニハ債務者タル余ハ既ニ賣買ノ意思ヲ表示シ之カ拘束ヲ受クル精神ナルコト明カナリ唯衣服カ妻ノ氣ニ入ルト云フ事實カ不確定ナルノミナリ隨テ若シ妻ノ氣ニ入ラサルトキハ條件成就セリトシテ賣買ハ效力ヲ失フ妻ノ氣ニ入ルトキハ條件ハ不成就トシテ賣買ハ解除スルコトヲ得ス

二、條件カ債權者ノ意思ノミニ係ルトキハ之ヲ以テ條件トスル法律行為ハ有效ナリ就中債權者カ其意思ヲ表示シタルトキ法律行為ノ效力ヲ生ス例ヘハ汝今余ニ衣服ヲ贈ルモ汝ノ意ノ在ル所ヲ詳ニセス依テ余ハ熟考ノ上之ヲ受クヘシト云ヒ又余熟考ノ上汝ヨリ之ヲ受クヘカラサルコトヲ悟リタルトキハ贈與ノ契約ヲ解除シテ物品ヲ汝ニ返付スヘシト云フ場合ニハ債權者ノ意思カ法律行為ヲ爲ササルニ在ルト認ムルヲ得サルヲ以テ通常ノ條件ト看做シ其條件ノ成就ヲ以テ法律行為ノ效力ヲ生セシムヘキナリ

三、條件カ債務者ノ意思ノミニ係ラスシテ其任意ノ行為又ハ不行爲ヲ以テ停止條件ト爲ス場合ニハ其條件ヲ附シタル法律行為ハ有效ナリ例ヘハ余ニシテ明日旅行スルトキハ汝ニ家ヲ賣渡スヘシト云フ場合ノ如シ或ル學者ハ此場合ニ於ケル債務ノ實行ハ債務者ノ意思ニ係ルヲ以テ無効ナリト主張セリ然レトモ此場合ハ事物ノ性質上債務者ノ意思ノミニ係ル場合ト同一ニ看做スヘカラス債務者ノ意思ノミニ係ル停止條件ヲ附セル法律行為ハ債務者ニ於テ如何ナル義務ヲモ負フコトナキヲ以テ其行為ハ無効タラサルヲ得ス然レトモ債務者ノ任意ノ行為ヲ以テ

債務ノ條件ト爲ス場合ニハ債務者ノ意思ノミヲ以テハ其條件ノ成否ヲ決スル能ハス若シ債務者ニシテ條件ヲ成就セシメザラント欲セハ他ノ行爲ヲ爲ササルヘカラス他ノ行爲ヲ爲サント欲セハ條件ヲ成就セシメサルヘカラス故ニ債務者ハ此場合ニハ真正ノ拘束ヲ受ケ條件附ノ債務ヲ負フモノナリ債務者ハ行爲ヲ爲ス際ニハ假令債務ヲ負フコトヲ欲セスト雖モ既ニ之ヲ爲シタル以上ハ債務ヲ負ハサルヘカラス本條ノ場合ノ如ク單純ニ其思想ヲ以テ債務ノ發生ヲ避免スルヲ得サルナリ

第三百二十五條 法律行爲ニ始期ヲ附シタルトキハ其法律行爲ノ履行ハ期限ノ到來スルマテ之ヲ請求スルコトヲ得ス  
法律行爲ニ終期ヲ附シタルトキハ其法律行爲ノ效力ハ期限ノ到來シタル時ニ於テ消滅ス

期限ノ效力

本條ハ期限ノ效力ヲ定メタルモノナリ  
吾人カ法律行爲ヲ爲スニ當リテハ往往其效力ヲ或一定ノ時期ノ到來ニ係カラシムルコトアリ而シテ之ニ二様アリ其時期ヨリ權利ノ實行ヲ開始スルコトヲ得ル場合及ヒ其時期ヨリ實行ヲ終止スル場合はナリ前者ヲ停止期限又ハ始期ト云ヒ後者ヲ消滅期限又ハ終期ト稱ス  
一、始期 始期ハ理論上ニ於テハ法律行爲ノ效力ヲ其時ヨリ開始スト論セサルヘカラサルモ始

期ハ專ラ債務關係ニ關係アルヲ以テ我民法ニ於テハ實際上ノ慣例ヲ酌ミ唯法律行爲ノ履行ヲ其時ヨリ請求シ得ルモノト定メタリ例ヘハ明治三十九年五月三日マテニ辨濟ヲ爲ス、旅行ヨリ歸リ來リタル日ニ於テ家屋ヲ明渡スヘシト云フカ如シ而シテ第一ノ場合ニハ其日限以後ニ非サレハ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ス第二ノ場合ニハ旅行ヨリ歸リ來リタル日以後ニ於テ家屋ノ明渡ヲ請求スル權ヲ生ス然リ而シテ始期ハ單ニ法律行爲ノ履行ヲ停止スルニ止マルモノニシテ法律行爲ノ成立ハ之ヲ妨クルコトナシ故ニ始期到來前ノ危險ハ債權者ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス例ヘハ甲乙間ニ家屋ノ買賣ヲ爲シ其家屋ハ甲ニ於テ明治三十九年五月一日マテニ引渡スヘシト約シタルニ其家屋契約成立ノ後五月一日前ニ甲ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ燒失スルトキハ乙ハ猶ホ約定ノ代金ヲ支拂ハサルヘカラス(本法第五百二十四條參照)  
又始期前ニ債務者ニ於テ債務ヲ辨濟スルモ之ヲ不當利得トシテ返戻ヲ求ムルコトヲ得ス尙ホ停止條件ト始期トノ差異ニ付テハ本節ノ冒頭ニ於テ説明シタル所ヲ見ルヘシ

二、終期 終期ハ法律行爲ノ效力ヲ其時期以後ニ於テ滅止スルモノナリ例ヘハ向フ三年間家屋ヲ賃貸セシム、汝ノ旅行中汝ノ家族ノ同居ヲ許スト云フカ如シ終期ハ法律行爲ノ效力ヲ其時期以後ニ於テ奪フノミニシテ始メヨリ其法律行爲ヲナキモノト爲スニ非サレハ終期ノ到來スルマテ權利者ノ取得シタルモノハ總テ之ヲ返付スル要ナシ故ニ三年間年金百圓ヲ與フト云フトキハ三年ノ後八年金ヲ受クルコトヲ得サルモ三年間ニ取得シタル年金ハ之ヲ返付スル義務ナシ然レトモ終期ハ獨リ債權的權利義務ヲ生スルニ非シテ物權的ニ效力ヲ生スルモノナレ

ハ永小作權ノ如キモ其終期到來セハ當然消滅スルモノトス

第三百二十六條 期限ハ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト推定ス  
期限ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得但之カ爲メニ相手方ノ利益ヲ害ス  
ルコトヲ得ス

期間ノ利益

本條ハ期限ハ債務者ノ利益ニ定メタルモノト推定シ併セテ其利益ノ處分ニ制限ヲ附シタリ  
期限ハ法律行爲ノ履行ヲ停止シ又ハ其效力ヲ滅止スルモノナレハ期限ノ定ハ大ニ當事者ニ利害  
ヲ感セシムルモノナリ而シテ期限ノ利益ノ何人ニ屬スヘキヤハ當事者ニ於テ隨意ニ定ムルコト  
ヲ得然レトモ利害相反スル當事者カ相對時スル場合ニ於テハ果シテ何レノ當事者ニ其利益ヲ屬  
セシムヘキヤノ點ニ付キ往々爭ナキ能ハス例ヘハ利息附貸金ノ場合ノ如シ即チ可成の多ク利息  
ノ支拂ヲ受ケ又ハ可成の速ニ元利ノ辨濟ヲ受クル利益ノ點ヨリ觀察スルトキハ期限ハ債權者ノ  
爲メニ定メタルモノノ如ク之ニ反シテ可成の辨濟ノ猶豫ヲ得可成の利息ノ少カラシムコトヲ欲ス  
ル利益ノ點ヨリ觀察スルトキハ期限ハ債務者ノ爲メニ定メタルモノノ如シ是ニ於テ法律ハ一般  
ノ取引上ノ慣例ヲ酌ミ一ノ推定ヲ下シテ期限ノ利益ハ債務者ニ於テ有スルモノトシ始期附法律  
行爲ニ於テハ債務者ハ其始期ノ到來スルマテ履行ヲ爲スニ及ハス又終期附法律行爲ニ於テハ其  
時期ヨリ債務ヲ免ルモノトセリ然レトモ是レ法律ノ一應ノ推定ニシテ常ニ然ルヘシト云フニ非

ス法律行爲ノ性質ニ依リテ明カナルトキ又ハ當事者ノ明示若クハ默示ノ意思表示アルトキハ當  
事者ノ反對主張ニ依リテ之ヲ覆スコトヲ得例ヘハ甲カ乙ノ物品ヲ無償ニテ何月何日マテ保管ス  
ト云フ契約ノ如キハ期限ハ債權者タル乙ノ利益ノ爲メニ定メタルモノナリ債務者ハ其期限中家  
族ノ養育ヲ怠ルヘカラス然リト雖モ本條ノ推定ハ債務關係ノ場合ニ限ルヲ以テ期限附物權設定  
ノ場合ニハ適用スルヲ爲ス此ニ依ル場合ニハ裁判官ハ法律ノ性質當事者ノ意思ヲ解釋シテ適當  
認トムル所ニ依リ之ヲ定ムヘシ

期限ノ利益ハ債務者ニ屬ス故ニ債務者ハ何時ニテモ其利益ヲ拋棄スルカ爲メニ債權者ノ利益ヲ  
害スルコトヲ得是レ亦辯明ヲ須キスシテ明カナル原則ナリ故ニ例ヘハ利息附ノ貸金ニ於ケル  
期限ハ之ヲ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト推定スルヲ以テ債務者ハ其期限到來マテハ履  
行ヲ爲ササルコトヲ得ルト同時ニ其期限ノ利益ヲ拋棄シテ期限内ニ返金スルコトヲ得ヘシ然レ  
トモ之カ爲メ債權者カ利息ヲ受クル能ハサル點ニ於テ不利益ヲ感スルトキハ債務者ニ於テ任意  
ニ期限内ニ返還スルヲ得ス必ス期限マテノ利息ヲ辨償セサルヘカラス期限ノ利益ハ獨リ債務者  
ニ於テ拋棄スルコトヲ得ルノミナラス債權者ト雖モ其利益ヲ受クル場合ニハ之ヲ拋棄スルコト  
ヲ得

第三百二十七條 左ノ場合ニ於テハ債務者ハ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ  
得ス



期限ノ利益ノ喪失

- 一 債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
  - 二 債務者カ擔保ヲ毀滅シ又ハ減少シタルトキ
  - 三 債務者カ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ供セサルトキ
- 本條債務者カ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得サル場合ニ付テ規定ヲ爲セリ
- 債權者カ直チニ債權ノ履行ヲ請求セシメテ債務者ニ期限ヲ與ヘタルハ債務者ヲ信用シタルニ基ク故ニ債權者カ債務者ヲ信用スルコトヲ得サル事情發生スルトキハ之ニ期限ノ利益ヲ得セシムル能ハス寧ロ債權者ノ損害ヲ豫防セシメサルヘカラス是レ本條ニ於テ左ノ場合ニハ債務者ノ意ニ反シテ其期限ノ利益ヲ奪ヒタル所以ナリ
- 一、債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ、債務者カ破産ノ宣告ヲ受クルハ支拂ヲ停止シ最早辨濟ノ資力ナキトキニ於テス故ニ債權者ハ此場合ニハ債務者ヲ信用スル能ハス且破産手續ニ於テハ速カニ手續ヲ終了セシムル必要アリテ其辨濟期限ヲ俟ツ能ハサルニ由ル尤モ債務者カ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル場合ハ破産ノ場合ニ類似スト雖モ之ニ本條ヲ適用スルヲ得ス是レ本條ハ制限的ノモノナレハナリ蓋シ立法者ハ現今ノ破産法ヲ改正シ之ヲ民事ニモ適用シ家資分散法ハ廢止スル精神ナラン故ニ本條ニ於テ之カ規定ヲ爲ササルナリ
  - 二、債務者カ擔保ヲ毀滅シ又ハ之ヲ減少シタルトキ、例ヘハ債務者カ家屋ヲ以テ抵當ト爲シタル後其家屋ヲ取崩シタル場合ノ如シ蓋シ債權者ハ債務者ノ身上ヲ信用スル能ハサルカ故ニ擔保ヲ供セシメタリ然ルニ債務者之ヲ毀滅減少スルニ於テハ債權者カ債務者ヲ信用スル基礎ナキニ至レルモノナリ故ニ此場合ニハ債務者ノ期限ノ利益ヲ剝奪シテ債權者ニ速カニ履行ヲ請求スル權ヲ許與セリ
  - 三、債務者カ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ供セサルトキ、例ヘハ債務者カ保證人ヲ立テ若クハ質物ヲ供スル旨ヲ約束シタルニ拘ハラス其義務ヲ果ササル場合ノ如シ此場合ニハ前ト同シク債權者カ債務者ヲ信用スル材料ヲ缺クノミナラス債務者ノ違約ハ債權者ヲシテ益々危懼ノ念慮ヲ増サシメタリ是レ法律カ債務者ヲシテ期限ノ利益ヲ喪失セシメタル所以ナリ

### 第五章 期間

期間

時ノ種類

時ノ經過ハ法律關係ニ種種ノ影響ヲ及ボスモノナレハ時ヲ定メ及ヒ其期限ヲ計算スルハ亦必要ノ事項ナリ故ニ民事訴訟法、刑事訴訟法、商法ノ如キ各之カ規定ヲ爲セリ然レトモ此等諸種ノ法律ニ規定スル所ハ各其目的ニ從ヒ必要ト認ムル計算法ヲ示スニ止マルヲ以テ民間一般ノ法律關係ノ標準ト爲スニ足ラス是ニ於テ本法ハ索遜民法、獨逸民法等ニ倣ヒ期間ノ規定ヲ制定シタル

時ハ年、月、週、日、時、分、秒等ニ分ツコトヲ得然レトモ一般ニ分類スルトキハ又左ノ二ツニ區別スルコトヲ得

- 一、曆法的時日又ハ不動的時日、曆法的時日トハ曆ニ依リテ時ヲ呼稱スルヲ云フ即チ年月日ニ

時ノ計算法  
種類

シテ日ト云ヘハ午前零時ヨリ夜十二時マテニシテ年ハ一月一日ヨリ十二月三十一日マテ而シテ月ハ一年ヲ十二分シ其一ヲ以テ名ツク

二、自然的時日又ハ可動の時日、自然的時日トハ曆ノ分類ニ依ラサル年月日ノ時間ヲ指稱スルモノナリ即チ日ハ二十四時間ニシテ年ハ三百六十五日又閏年ニ於テハ三百六十六日トシ週ハ七日ナリ月ハ三十日、三十一日若クハ二十八日閏年ニ於テハ二十九日トス

以上時日ニ曆法的自然的ノ二種アルヲ以テ期間ノ計算ニモ亦此二種アリ即チ左ノ如シ

一、曆法的計算法、日、週、月又ハ年ヲ以テ單位トシテ計算スルヲ曆法的計算法ト云フ例ハハ三月一日ヨリ十日間ト云フトキハ三月十一日ヲ以テ滿期ト爲シ明治三十九年ヨリ向五箇年ト云フトキハ明治四十四年ヲ滿期ト爲スカ如シ尤モ本計算法ニ初日及ヒ末日ヲ期間中ニ加アルモノト加ヘサルモノトアリ

二、自然的計算法、一日ヨリ細少ナル時分秒等ヲ精密ニ計算スルヲ自然的計算法ト云フ例ヘハ明日午前九時乃至正午十二時ノ間ニ品物ヲ持參スヘシト云フカ加シ

以上二法中我民法ハ時ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ限り自然的計算法ヲ採リ他ノ場合ニハ曆法的計算法ニ依レリ尙ホ悉シキコトハ各條ノ下ニ於テ説明スヘシ

**第二百二十八條 期間ノ計算法ハ法令、裁判上ノ命令又ハ法律行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本章ノ規定ニ從フ**

期間ノ淵源

本條ハ本章ノ期間計算法ハ一般ノ規定ニシテ法令、裁判上ノ命令又ハ法律行爲ニ別段ノ定アル場合ニハ直チニ其規定ニ從フヘク其規定ナキ場合ニ限り本條ヲ適用スヘキコトヲ定ム

民法ノ定ムル期間ノ計算法ハ強行的ノモノニ非スシテ聽用的ノモノナリ故ニ他ノ法律命令若クハ當事者ノ意思ニ依リテ別段ノ定ヲ爲セル場合ニハ本章ノ規定ハ適用上一步ヲ讓ラサルヘカラス故ニ本章第四百十條ニハ期間ヲ定ムルニ日ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セストアルモ當事者カ契約ヲ以テ特ニ其初日ヲモ算入スヘシト爲ストキハ其初日ヲモ期間中ニ計算セサルヘカラサルカ如シ然レトモ本章ハ私法關係ノ總則ニ止マリ公法關係ノ期間ニハ適用スルヲ得ス故ニ例ヘハ或行政法ニ於テ本法發布ヨリ一年間ニ願出ツヘシトアル場合ニ直チニ本章ノ規定ヲ適用シテ一年ノ期間トハ法律發布ノ翌日ヨリ三百六十五日ノ終了マテト想像スルハ非ナリ固ヨリ其法律ニ別段ノ定ナキ以上ハ條理上期間ハ翌日ヨリ起算シテ其末日ヲモ期間中ニ算入スヘシト雖モ私法關係ノ總則タル本章ノ規定ヲ以テ直チニ公法關係ノ期間ニ適用セントスルハ誤謬ト謂ハサルヲ得ス隨テ數多ノ註釋家ノ主張スル如ク本條ニ所謂法令トハ民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法等ヲ意味スルニ非スシテ主トシテ商法其他ノ私法關係ヲ規定スル法律命令ナリト知ルヘシ

**第二百二十九條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス**

時ヲ以テ定  
メタル期間  
ノ計算法

本條ハ時ヲ以テ定メタル期間ノ計算法ヲ規定シタルモノナリ期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルト  
キハ法律ノ精神又ハ當事者ノ意思最少ノ時間ニ重キヲ置クモノナレハ即日ヨリ之ヲ起算スヘキ  
コト言フヲ俟タス然レトモ次條以下ニ於テ日、週、月、又ハ年ヲ以テ定メタル期間ニ付テハ即  
時ヨリ起算セサル主義ヲ採リタルヲ以テ世間時ヲ以テ定メタル期間ニモ同一主義ヲ適用スヘキ  
カラ疑フ者ナキニ非ス故ニ本條ニ於テ之ヲ明カニシタリ

本條ニ所謂時トハ自然的時日ヲ意味ス故ニ必スシモ何時ヨリ何時マテト云フ場合ニ限ラス日、  
週、月又ハ年ヲ以テ之ヲ稱スルモ畢竟當事者ノ意思カ一日二十四時ノ自然時日ヲ指スニ在  
レハ本條ヲ適用スヘシ而シテ時以下ノ分秒ヲ稱スル場合ニモ本條ノ規定ヲ適用スヘキハ勿論ナ  
リトス例ヘハ三十九年三月一日午前十時三十分ヨリ二日五十分間ニ到着スヘシト約スルトキハ  
四十八時五十分間ノ期間ヲ意味スルモノニシテ同年三月三日午前十一時二十分マテニ到着セサ  
ルヘカラサルカ如シ

第四百十條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ

初日ハ之ヲ算入セス但其期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此限ニ在ラ  
ス

日、週、月、  
年ヲ以テ定  
メタル期間  
ノ計算法

本條ハ日、週、月又ハ年ヲ以テ定メタル期間ノ計算法ヲ定メタルモノナリ日、週、月又ハ年ヲ

メタル期間  
ノ計算法

以テ期間ヲ定メタル場合ニハ時ヲ以テ定メタル場合ト異ニシテ時、分、秒ヲ細密ニ計算スルコ  
ト當事者ノ意思ニ非ス強テ之ヲ計算セシムルキハ其數大ナルカ爲メ當事者ハ不便煩雜ニ堪エザル  
ヘシ依テ法律ハ泰西諸國ノ法律ニ倣ヒ斯カル期間ノ初日ハ之ヲ切り捨テ算入セサルコトトナシ  
タルナリ

然レトモ初日ヲ算入セサルハ上述ノ如ク時、分、秒ノ端數ヲ計算スルコト繁雜不便ナルニ基ク  
モノナレハ其繁雜不便ナキ場合ニハ之ヲ切捨ツル要ナシ故ニ期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ  
之ヲ算入セサルヘカラス是レ但書ヲ加ヘタル所以ナリ

本條ニ所謂期間ノ初日トハ期間ノ標準ト爲シタル事實發生ノ日ニシテ例ヘハ品物受取ノ日ヨリ  
十日間ニ代金ヲ支拂フコトヲ約スルトキハ受取リタル日ハ初日ニシテ之ヲ計算セス而シテ前期  
間經過ノ後直チニ進行スヘキ期間ノ如キハ通常午前零時ヨリ始マルヲ以テ初日ヲモ期間中ニ加  
算スヘキモノトス故ニ今後品物ノ引渡ヲ爲シタル以後三日間ニ代金ヲ支拂フヘシト云フトキハ  
其引渡ノ日ヲモ三日間中ニ加フヘシ又本條ノ場合モ前條ノ規定ニ依リ當事者ニ於テ任意ニ計算  
法ヲ定ムルコトヲ得ルヲ以テ來月一日ヨリ十日間演劇ヲ興行スヘシト云フトキハ來月一日モ其  
期間中ニ包含スヘキコト論ヲ俟タス

時ト日、週、月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタルモノハ先ツ本條ノ規定ニ依リ日、週、月又ハ年ヲ  
計算シ其末日ニ時ヲ附加スヘシ例ヘハ明治三十九年三月一日午前九時ヨリ向一年五箇月三日ト  
三十分間ニ債務ヲ辨済スヘシト約スルトキハ三十九年三月二日午前零時ヨリ一年五箇月三日ヲ

加算シテ四十年八月四日午前零時ヲ得ルトキハ九時三十分ヲ加ヘテ得タル九時三十分ヲ前ノ年月日ニ附加シ四十年八月四日午前九時三十分ヲ以テ總期間ノ滿了ト爲スヘシ

第四百四十一條 前條ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス

第一種滿期

本條ハ期間ノ滿了ニ關シテ規定シタルモノナリ

前條ニ依レハ期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス即チ翌日ノ午前零時ヨリ計算スヘシト云フ故ニ本條ノ規定ナクモ理論上期間ノ末日カ終了スルニ非サレハ期間ハ滿了セサルコト明カナリ然レトモ我邦從來ノ慣習又ハ諸外國ノ立法例ニ依レハ其計算法區區ニシテ或ハ末日ノ始マルヲ以テ期間滿了スルモノト爲シ或ハ權利又ハ能力ヲ取得スル場合ニハ末日ノ始マルヲ以テ足レリトシ權利ヲ喪失スル場合ニハ末日ノ終了ヲ要スト爲スアリ故ニ理論上當然ノ規定ナルニ拘ハラズ本條ニ於テ特ニ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トスル旨ヲ明カニシタリ尤モ法律ニ依リテ一定ノ法律行為ノ時間ヲ規定シ此時間以外ニハ法律行為ヲ爲ササル場合ニハ亦第三百三十八條ノ規定ニ依リテ本條ノ規定ニ依ラス其定ムル所ノ法律行為ノ時間終了ヲ以テ期間ハ滿了スルモノトス又慣習上一定ノ取引時間アリテ當事者カ之ニ從フ意思ヲ有スルトキハ第九十二條ニ依リ亦之ニ從フコトヲ得

以上ノ如ク期間ハ末日ノ終了ヲ以テ滿了スヘキヲ以テ明治三十九年三月一日ヨリ十日以内ニ償

務ノ辨濟ヲ爲ス約束ヲ爲シタルトキハ十一日午前十二時迄ニ辨濟ヲ爲セハ可ナリトス又甲ナル未成年者カ後見人ノ同意ヲ經スシテ義務負擔ノ行為ヲ爲シタル場合ニ其未成年者カ明治三十九年四月一日ニ成年ニ達シタルトキハ相手方ハ同年五月一日午前十二時迄ニ追認ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得(本法第四條及ヒ十九條參照)而シテ相手方カ此催告ヲ爲ササルトキハ明治四十四年五月一日午前十二時迄甲ハ取消權ヲ行フコトヲ得ヘシ同年五月二日午前零時ニ至レハ其取消權消滅ス(本法第二百二十六條參照)又善意ニテ他人ノ物ヲ占有シタル者ハ占有ノ日ヨリ十年ヲ經其末日午前十二時ニ至ラサレハ完全ナル所有權ヲ取得スルコトヲ得ス(本法第六十二條參照)

第四百四十二條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當ルトキハ其日ニ取引ヲ爲ササル慣習アル場合ニ限り期限ハ其翌日ヲ以テ滿了ス

第二種滿期

本條ハ前條ノ例外ヲ規定シタルモノナリ

前條ニ依レハ期間ハ末日ノ終了ヲ於テ滿了ト爲スヲ以テ十日ノ期間内ニ於テハ求メニ應シテ何時ニテモ米一萬俵ヲ引渡スヘシト約スルルル其十日ノ末日カ大祭日又ハ氏神ノ祭禮ニ該當スル爲メ業務ヲ休ム場合ニハ如何尙ホ其日ニ期間滿了スヘシトスルルルハ事實上其日ニ於テハ引渡ヲ求ムルコトヲ得サルヲ以テ事實上期間ハ一日丈短縮セラレタルモノナリ然レトモ其一日丈ハ期間ノ進行ヲ停止シ翌日ノ終了ヲ以テ期間滿了ト爲スヘキカ當事者カ特別ニ之ヲ約スルニ非サルヨリ